本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**

◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- グレードにより異なる装備またはオプションのため、すべての車に付いていない装備は★マークで表示しています。
- 参照して読んで頂きたいページなどを、マークで表示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

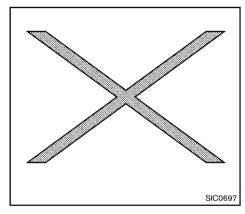
- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。
- イラストは、記載している仕様などの違いにより、実車の装備と一致しない場合があります。

- 本書ではさまざまなシンボル（記号）が使用されています。それらのシンボル（記号）は、次の基準で用いられています。

⚠ 警告

守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。危険を避けるために、記載内容に従ってください。

⚠ 注意

守らないと傷害または車両の損傷につながるおそれがあります。危険を避けるために、記載内容に従ってください。

上記のシンボル（記号）は、**“禁止事項”**または**“避けるべき状態”**を表しています。

上図のシンボル（記号）は、矢印の向いている方向が車両前方であることを表しています。

上図の矢印は、動きまたは操作の方向を表しています。

上図の矢印は、イラスト中の場所または操作の方向を表しています。

目次

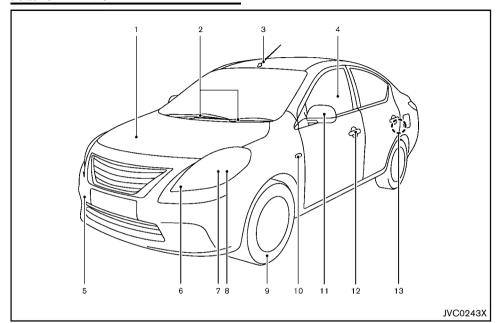
イラスト目次

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

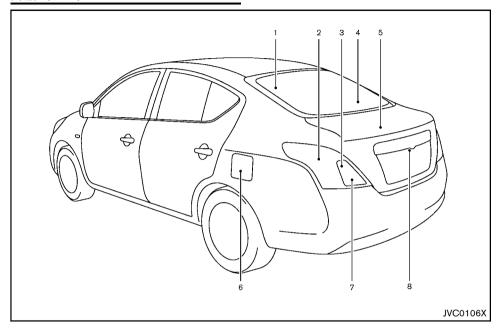
シート、シートベルト、SRSエアバッグ

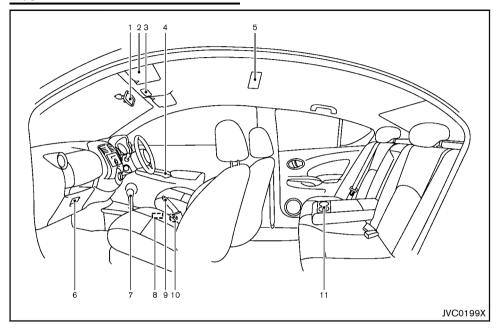
1. 運転席·助手席SRSエアバッグシステム (P.1-17)
2. SRSカーテンエアバッグシステム★ (P.1-17)
3. 前席ヘッドレスト (P.1-4)
4. 前席シートベルト (P.1-6)
5. 後席シートベルト (P.1-6)
6. ISO　FIX対応チャイルドシート固定専用アンカー (テザーアンカー) (P.1-16)
7. 前席シート (P.1-2)
8. 前席ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト (P.1-9)
9. アームレスト★ (P.1-5)
10. ISO　FIX対応チャイルドシート固定専用アンカー (ロアアンカー) (P.1-16)
11. 後席ヘッドレスト★ (P.1-4)

※グレードにより、位置や形状が異なります。

外観（フロント）

1. エンジンフード (P.3-19)
2. ワイパー (P.2-19)
3. アンテナ (P.4-9)
4. パワーウインドー (P.2-21)
5. けん引フック (P.6-13)
6. 方向指示器（前面）
   — スイッチの操作 (P.2-18)
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)
7. ヘッドランプ
   — スイッチの操作 (P.2-17)
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)
8. 車幅灯
   — スイッチの操作 (P.2-17)
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)
9. タイヤ
   — タイヤ·ホイール (P.8-14、P.9-5)
   — パンクしたときは(P.6-3)
10. 方向指示器（側面）
   — スイッチの操作(P.2-18)
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)
11. ドアミラー (P.3-25)
12. ドア
   — キー (P.3-3)
   — 施錠·解錠 (P.3-5)
   — リモートコントロールエントリーシステム★ (P.3-6)
   — インテリジェントキー★ (P.3-8)
13. チャイルドセーフティドアロック (P.3-6)

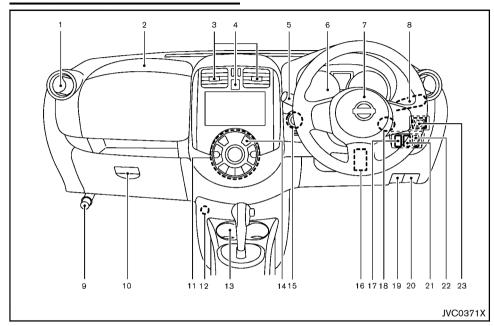
★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

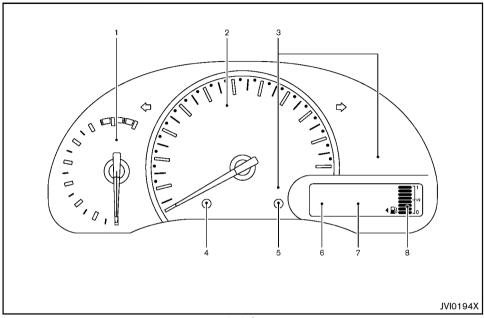
外観（リヤ）

1. リヤウインドー
   — リヤウインドーデフォッガー (P.2-20)
2. 制動灯／尾灯
   — スイッチの操作 (P.2-17)
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)
3. 方向指示器（後面）
   — スイッチの操作 (P.2-18)
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)
4. ハイマウントストップランプ
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)
5. トランク (P.3-21)
6. 燃料補給口 (P.3-23)
7. 後退灯
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)
8. 番号灯
   — 電球（バルブ）の交換 (P.8-9)

室内

※グレードにより、位置や形状が異なります。

1. ルームミラー (P.3-25)
2. サンバイザー (P.2-28)
3. マップランプ★ (P.2-28)
4. ドアアームレスト
   — パワーウインドースイッチ (P.2-21)
   — ドアロックスイッチ (P.3-6)
5. ルームランプ (P.2-28)
6. グローブボックス (P.2-26)
7. セレクトレバー (P.5-11)
8. トランクオープナーレバー★ (P.3-21)
9. パーキングブレーキ (P.3-27)
10. 電源ソケット★ (P.2-25)
11. カップホルダー★ (P.2-26)

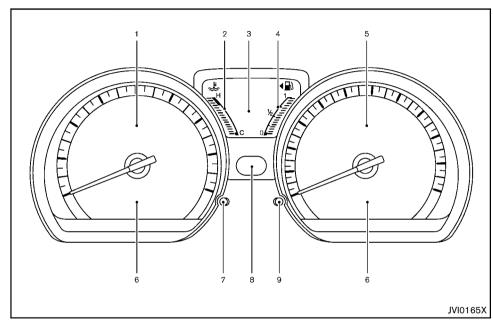
★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

インストルメントパネル

1. 前席左右吹き出し口 (P.4-2)
2. 助手席SRSエアバッグシステム (P.1-17)
3. 前席中央吹き出し口 (P.4-2)
4. 非常点滅表示灯スイッチ (P.6-2)
5. ワイパー·ウオッシャースイッチ (P.2-19)
6. メーター (P.2-3)
7. ハンドル
   — 運転席SRSエアバッグシステム (P.1-17)
   — ホーンスイッチ (P.2-21)
8. ライトスイッチ·方向指示器スイッチ (P.2-17)
9. 発炎筒 (P.6-2)
10. グローブボックス (P.2-26)
11. エアコン (P.4-3)
12. 電源ソケット★ (P.2-25)
13. カップホルダー (P.2-26)
14. リヤウインドーデフォッガースイッチ (P.2-20)
15. エンジンスイッチ★ (P.5-6)
16. ハンドル位置調節レバー(P.3-24)
17. VDC OFFスイッチ★ (P.5-17)
18. キースイッチ★ (P.5-5)
19. エンジンフードオープナー (P.3-19)
20. フューエルフィラーリッドオープナー (P.3-23)
21. アイドリングストップOFFスイッチ (P.5-15)
22. ヘッドランプレベライザースイッチ (P.2-18)
23. ドアミラースイッチ (P.3-25)

※グレードにより、位置や形状が異なります。

メーター

タイプA

1. タコメーター (P.2-8)
2. スピードメーター (P.2-5)
3. 警告灯･表示灯 (P.2-11)
4. モード切り替えスイッチ (P.2-5、P.2-6)
5. 時計調整スイッチ (P.2-23)
6. ポジションインジケーター (P.2-10)
7. オドメーター･ツイントリップメーター (P.2-5)／トリップコンピューター (P.2-6)／時計 (P.2-23)
8. 燃料計 (P.2-9)

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

タイプB

1. タコメーター (P.2-8)
2. 水温計 (P.2-8)
3. 車両情報ディスプレイ (P.2-5)
   — オドメーター·ツイントリップメーター (P.2-5)
   — トリップコンピューター (P.2-6)
   — 時計 (P.2-23)
   — 外気温度計★ (P.2-7)
   — サービスインターバル (P.2-7)
   — イルミネーションコントロール (P.2-10)
4. 燃料計 (P.2-9)
5. スピードメーター (P.2-5)
6. 警告灯·表示灯 (P.2-11)
7. イルミネーションコントロールスイッチ (P.2-10)
8. ポジションインジケーター (P.2-10)
9. モード切り替えスイッチ (P.2-5、P.2-6、P.2-7)／時計調整スイッチ (P.2-23)

0 必ずお読みください

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

お車を安全にお使いいただくため、必ず守っていただきたい「警告」「注意」をまとめて記載しています。

ご使用前には各章と合わせて必ずお読みください。

お出かけまえには

日常点検は必ず実施

- 車を安全にお使いいただくため、日常点検は必ず実施してください。

  車の状態に応じて、適切な時期に実施することが法律で義務づけられています。

  メンテナンスノートをお読みください。

- いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。

  （音、振動、臭い、水·油漏れなど）

タイヤの空気圧を点検する

- タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。日常点検でタイヤの空気圧を点検してください。

  “タイヤ空気圧の点検”(P.8-14)

バッテリーの液量を点検する

- バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。日常点検でバッテリーの液量を点検してください。

  メンテナンスノートをお読みください。

車にあった燃料を補給

- 指定以外の燃料は補給しないでください。
- 軽油や有鉛ガソリン、粗悪な燃料を使用すると車に悪影響を与えます。

エンジン型式	指定燃料
HR12DE	無鉛レギュラーガソリン

車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしない

- 車庫や屋内など換気が悪い所では、排気ガスが充満しやすいため、エンジンをかけたままにしないでください。排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- 排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受けてください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

正しい運転姿勢に調節

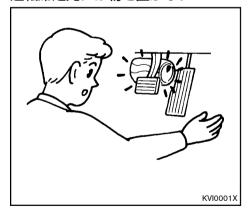
- 走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調節し、ドアミラー、ルームミラーなどを後方視界が十分確認できる位置に調節してください。

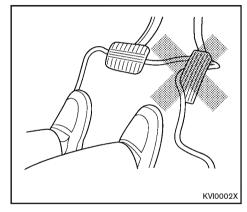
シートベルトは正しく着用

- 走行する前に必ず全員がシートベルトを着用してください。
- シートベルトは正しく着用しないと、ベルトの効果が十分発揮できなかったり、ベルトによりケガをするおそれがあります。正しい着座姿勢で正しく着用してください。

“シートベルトの正しい着用”(P.1-6)

運転席足元には物を置かない

KVI0001X

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。
- ブレーキペダルやアクセルペダルに物が挟まると、ペダルの操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合わないフロアカーペットは使わない

KVI0002X

- この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

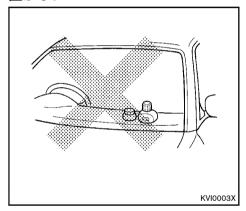
“フロアカーペット★”(P.7-4)

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まないでください。引火や爆発するおそれがあり危険です。

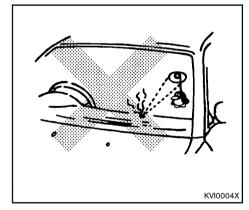
インストルメントパネルの上に物を置かない

KVI0003X

- アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。SRSエアバッグが作動したときの衝撃で飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中に移動しやすい物や、視界を妨げるような大きい物は置かないでください。安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷物を積みすぎない

- 助手席や後席に荷物を重ねて積まないでください。急ブレーキなどのとき荷物が落ちてきて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクセサリーの取り付けに注意

KVI0004X

- ウインドーにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

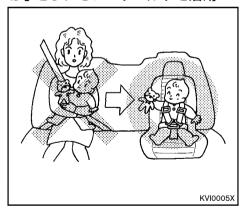
お子さまを乗せるときは

お子さまは後席に

- 助手席に乗せるのは避けてください。お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。

  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにもシートベルトを着用

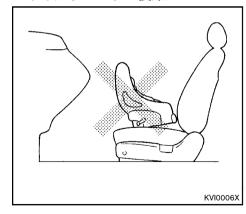
KVI0005X

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いていると、衝突時などに支えることができず重大な傷害を受けるおそれがあります。

  “シートベルトの着用のしかた”(P.1-8)

- シートベルトが首や顔に当たったり、腰骨に掛からないような小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。

  “チャイルドシート”(P.1-10)

チャイルドシートは後席に

KVI0006X

- チャイルドシートは後席に取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認してください。

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。やむを得ず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室などに収納してください。室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

“チャイルドシート”(P.1-10)

ドア、ウインドーなどは大人が操作

- ドア、ウインドー、トランクなどの開閉は、お子さまには操作させないでください。

  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- チャイルドセーフティドアロック（P.3-6）やパワーウインドーロックスイッチ（P.2-21）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。
- お子さまがトランクで遊んで、自らが閉じ込められてしまうと、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまが車のまわりにいるときは、トランクに入り込まないように注意してください。

窓から手や顔を出さない

- お子さまが手や顔を出さないように注意してください。急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車内にお子さまだけを残さない

- 車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろしてください。炎天下では車内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行するときは

車のためにならし運転を

- エンジン本体、駆動系などこの車両の持っている性能を十分に引き出すためには、ならし運転が必要です。

  走行距離約1,600kmまでは適度な車速、エンジン回転数で運転してください。

“ならし運転”(P.5-3)

走行中は電話をしない

- 運転しながらのハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話などの使用はやめてください。周囲への注意力が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中はエンジンを止めない

- エンジンが止まると、極度にハンドル操作力が重くなったり、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、極度にブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作力が重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを併用

- ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。坂の勾配に応じてエンジンブレーキを併用してください。（エンジンブレーキとは走行中アクセルペダルから足を離したときに発生するブレーキ力です。）
- 坂の勾配に応じて最適なエンジンブレーキになるよう自動化してありますが、特に強いエンジンブレーキが必要なときは、セレクトレバーを L に入れます。

雨天時の走行は速度を落とす

- 路面がぬれると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転に心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。特に摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。

タイヤを傷つける運転をしない

- 道路の縁石などにタイヤの側面を接触させたり、道路上の凹みや突起物の乗り越しなどは避けてください。タイヤを傷つけるおそれがあります。

水たまり走行後はブレーキの効きを確認

- 水たまり走行後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。
- 効きが悪いときは、周囲の安全に十分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまでブレーキペダルを繰り返し軽く踏んでください。

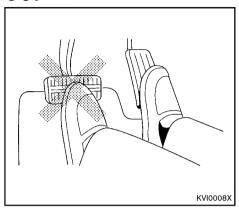
滑りやすい路面を走行するときは慎重に

- ぬれた路面や凍結路、積雪路などではスピードを落としてください。
- 急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキは避けてください。
  タイヤがスリップしやすく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

横風が強いときは

- 横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握ってスピードを徐々に落としてください。
- トンネルの出口、橋の上、切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。

ブレーキペダルに足をのせたままにしない

KVI0008X

- ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

走行中に異常があったら

- 警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。
  "警告灯·表示灯の見かた"(P.2-11)
  そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）したときは、あわてずにハンドルをしっかり握ってスピードを徐々に落とし、安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドルを行うと、車両がコントロールできなくなり危険です。
- 床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料の漏れ、マフラーなど車体下部の各部に損傷がないか確認してください。漏れや損傷がある場合は、日産販売会社に連絡してください。

駐·停車するときは

燃えやすい物の上や近くに駐·停車しない

- 枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐·停車しないでください。排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。

車から離れるときは必ずエンジンを止め施錠する

- 無人で車が動き出したり、盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止めてから施錠してください。
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したままにしたり、貴重品を置いたままにしないでください。
- 坂道駐車はパーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを P に入れてください。さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。

仮眠や長時間駐車するときは必ずエンジンを止める

- 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。
- 以下の状況ではエンジンをかけたままにしないでください。一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
  — 雪が積もった場所や降雪時
  — 壁などに囲まれた換気の悪い場所
  — 他車の排気口が近くにあるとき

ハンドルをいっぱいに切った状態を長く続けない

- 車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに切った状態を長く続けると、ハンドル操作力が重くなることがありますが異常ではありません。
  "EPS(電動パワーステアリング)" (P.5-21)

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車はその特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。

詳しくは、"オートマチック車の運転のしかた"(P.5-11) も合わせてお読みください。

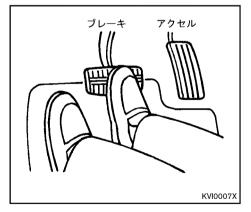
クリープ現象に注意

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーを P 、 N 以外に入れると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。（これをクリープ現象といいます。）
- 停車中はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。特にエンジン始動直後やエアコン作動時など、エンジン回転数が上がっているときは、動く力が強くなりますので、しっかりと踏んでください。

キックダウンは適切に

- セレクトレバーが D で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、エンジン回転数が上がって、自動的に低速ギヤに切り替わり急加速します。（これをキックダウンといいます。）
- 滑りやすい路面や急カーブではキックダウン操作を避けてください。キックダウンすると、タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

ペダルの位置を確認

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。エンジンをかける前に必ずペダルの位置を確認してください。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。

セレクトレバーの操作は正しく確実に

- 発進時はブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだ状態で操作すると、急発進して危険です。
- 後退したあとは、すぐセレクトレバーを R から N に戻す習慣をつけてください。

セレクトレバー位置は目で確認

- エンジンをかけるときは P 、前進するときは D 、後退するときは R にあることを目で確認してください。
- キースイッチ(電源ポジション)がONのとき、セレクトレバーを R に入れると、後退位置を知らせるブザーが車内で鳴ります。（車外の人に注意するものではありません。）

走行中は N にしない

- 走行中にセレクトレバーを N にすると、エンジンブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスアクスルが故障する原因となります。

無用な空吹かしはしない

- 万一、セレクトレバーが P、N 以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車するときは P にする

- エンジンがかかったまま、セレクトレバーが P 、 N 以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シフトロックシステム

よく理解して正しく操作してください。

- キースイッチ(電源ポジション)がONのときは、ロック装置が作動し、ブレーキペダルを踏んでいないと、 P からセレクトレバーを動かすことができません。
- セレクトレバーを P に入れないと、キースイッチ(電源ポジション)がLOCKになりません。
- セレクトレバーのボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーを動かせないことがあります。

  ブレーキペダルを踏んでから、セレクトレバーのボタンを押してセレクトレバーを動かしてください。

こんなことにも注意

炎天下で駐車するときは

- 炎天下で駐車するときは、車内にライター や炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。

ガスライターにも注意

- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して、火災につながるおそれがあります。

工具や布などの置き忘れに注意

- 点検や清掃に使用した工具や布などを、エンジンルーム内に置き忘れないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。

ラジエーターが熱いときはキャップを外さない

- ラジエーターやリザーバータンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が噴き出し危険です。
- 冷却水の補給は温度が下がってから行ってください。

冷却水に添加剤などを入れない

- 冷却水には、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤を入れないでください。冷却水に悪影響をおよぼし、車両故障につながるおそれがあります。
- 冷却水は、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

違法改造はしない

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- 次のような場合には日産販売会社にご相談ください。

　— **タイヤ、ロードホイールの交換**

　指定以外のタイヤやロードホイールを装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなるおそれがあります。

　— **電装品、無線機などの取り付け**

　適切でない電装品や無線機などを取り付けないでください。電子機器部品に悪影響を及ぼしたり、誤った配線は故障や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

　また、バッテリー端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。バッテリーがあがる可能性があります。

　（詳しくは、日産販売会社へご相談ください。）

　— **ハンドルの取り外しや交換**

　ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

こんなときは異常ではありません

ブレーキペダルを踏むと音がする

- 朝一番および長時間駐車後の走り始め、または降雨後や洗車後など湿気が多いときにブレーキペダルを踏むと、“キー”という音がする場合があります。この音はブレーキパッドが水分を吸収し、表面の摩擦力が一時的に変化したためで異常ではありません。
- これらの音がときどきするのは異常ではありませんが、頻繁に音がする場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- ブレーキペダルをゆっくりと奥まで踏み込むと、“カチッ”という音とブレーキペダルに若干の振動を感じることがありますが、ブレーキアシスト機構が正常に作動しているためで異常ではありません。

ヘッドランプなどのレンズ内面がくもる

- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。またヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。

  また、レンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。

  ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

イベントデータレコーダ

車両データの記録·蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピュータはEDR（イベントデータレコーダ）機能を備えています。

以下システムの各コンピュータは正常に作動しているかどうかを常に診断し、EDRで車両が衝突したときの車両データを記録·蓄積しています。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録·蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

EDR（イベントデータレコーダ）は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、EDRに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得·利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示·提供することはありま

せん。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

1 シート、シートベルト、SRSエアバッグ

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

シート

SSS0133A

⚠ 警告

- 背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 走行中に乗員を保護するために、背もたれは起こした状態にしてください。必ずシートに深く腰掛け、シートベルトを適切な位置に調節してください。“シートベルト”(P.1-6)

⚠ 注意

- 調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれを調節するときは、背もたれを支えながら調節してください。顔や身体に当たり思わぬケガをするおそれがあります。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 室内を清掃するときやシートの下に落とした物を拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分に注意してください。シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

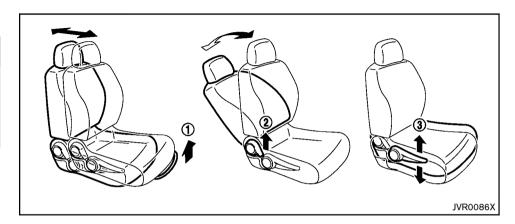
前席シート

⚠ 警告

- シートの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節をすると前方不注意となり危険です。
- 調節したあとは確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

調節のしかた

⚠ 警告

調節後はシートが確実にロックされたことを確認してください。確実にロックされていないと、シートが突然動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

前後位置調節（スライド）：

1. 調節レバー①を引き上げます。
2. シートを適切な位置にスライドさせます。
3. 調節レバーから手を離し、シートをロックさせます。

背もたれの角度調節（リクライニング）：

1. 調節レバー②を引き上げます。
2. 背もたれを適切な位置に動かします。
3. 調節レバーから手を離し、背もたれをロックさせます。

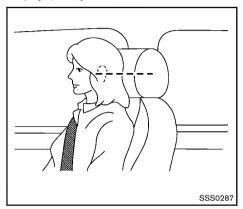
前後位置と背もたれを調節し、シートベルトが適切に着用できる位置にしてください。“シートベルト”(P.1-6)

上下位置調節（リフター）★：

シートを適切な高さに合わせます。調節レバー③を引き上げると高くなり、押し下げると低くなります。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

ヘッドレスト

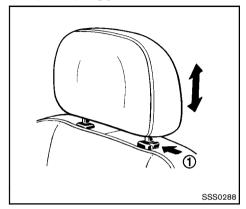
SSS0287

⚠ 警告

ヘッドレストを取り外したまま走行しないでください。万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

ヘッドレストの適切な調節位置は、イラストを参照してください。

ヘッドレストの中心が耳の高さになるように調節します。

ヘッドレストの使いかた

SSS0288

前席ヘッドレスト：

1. 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
2. 下げるときは、ロックボタン①を押しながらヘッドレストを下げます。

後席ヘッドレスト★：

ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。

⚠ 注意

後席のヘッドレストはロック位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用してください。格納状態では機能が十分に発揮できません。

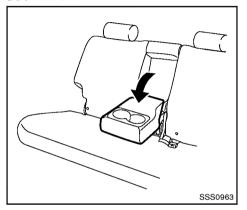
脱着のしかた★：

- 取り外すときは、ロックボタン①を押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ロックボタン①を押しながらヘッドレストを差し込みます。

⚠ 注意

- 取り付けるときは、前後の向きを間違えないでください。
- 取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認してください。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

アームレスト★

後席シート

アームレストを前に倒します。

シートベルトの正しい着用

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは正しい姿勢で正しく着用しないと、シートベルトの効果が十分発揮できなかったり、ベルトによりケガなどをするおそれがあります。
- 次の使用方法、警告にしたがって正しく着用してください。

⚠ 警告

- 走行する前に全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。着用するときは次のことを必ずお守りください。
  — 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  — ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使わないでください。
  — ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  — 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれてい

ると、腹部に強い圧迫を受けることがあります。

— 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。

— シートベルトをクリップなどで故意にたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。

- シートの背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックルや巻き取り装置の中に異物を入れないでください。シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- 妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避けて腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは、確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。

“チャイルドシート”(P.1-10)

- 一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分発揮しないことがあります。事故などにより衝撃を受けたり傷がついた場合は、日産販売会社に点検を依頼してください。
- シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分発揮しないことがあります。

知識：

- 運転者がシートベルトを着用していないと、シートベルト警告灯やシートベルト非着用警報が作動します。

(詳しくは、“シートベルト警告灯”(P.2-14) および“シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）”(P.2-17) をお読みください。)

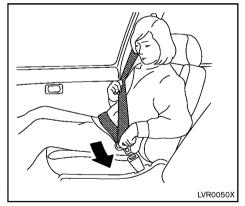
シートベルトの着用のしかた

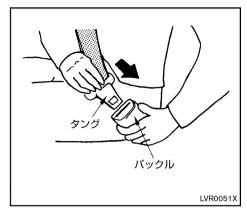
ELR(緊急固定) 付3点式シートベルト

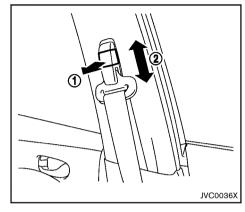
通常は身体の動きに合わせて伸縮しますが、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックし身体を固定します。

1. タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。

   ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

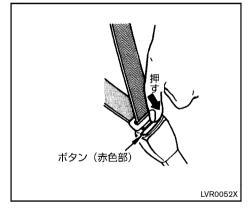
LVR0050X

2. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。

LVR0051X

3. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

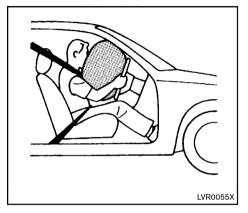
JVC0036X

4. 前席は、肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。
   - ノブ①を引きながらアンカー部②を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。
   - 手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。

⚠ 警告

肩ベルトのアンカー位置は確実に肩に掛かるように調節してください。また、アンカーは確実に固定されていることを確認してください。ベルトが肩から外れたり、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

LVR0052X

外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。

前席ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト

LVR0055X

正面衝突など車両前方から強い衝撃を受けたとき、装着したシートベルトを瞬時に巻き取るプリテンショナーと乗員に加わるシートベルトの拘束力を一定レベルに保つロードリミッターが付いています。

- 運転席·助手席SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

  "SRSエアバッグ"（P.1-17）

⚠ 警告

使用方法は通常のシートベルトと同じです。正しく着用しないと、プリテンショナーおよびロードリミッターの効果が十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

キースイッチ（電源ポジション）をON後約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーは作動しません。SRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

プリテンショナーシートベルト付車の取り扱いについて

⚠ 警告

プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社にご相談ください。

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

チャイルドシート

チャイルドシートについて

乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

チャイルドシートの固定機構を使ってチャイルドシートを固定することができます。

⚠ 注意

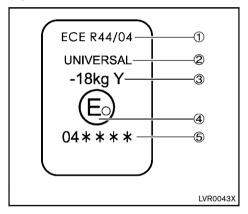
- お子さまの年齢や体格にあった、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

知識：

この車はECE R44※の基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーを標準装備しています。

※ECE R44はチャイルドシートに関する国際法です。

ECE R44認可マークについて

ECE R44の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。必ずECE R44の基準に適合したチャイルドシートをお使いください。

① 法規番号

② チャイルドシートのカテゴリー（UNIVERSALは汎用品の認可であることを表します。）

③ 対象となるお子さまの体重範囲

④ 当該装置を認可した国番号

⑤ 当該装置認可番号

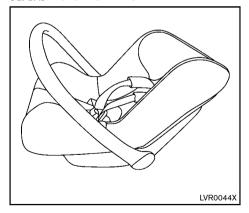
チャイルドシートの質量グループ

ECE R44の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次のように分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kgまで
グループⅡ	15～25kgまで
グループⅢ	22～36kgまで

チャイルドシートの種類(例)

乳児用チャイルドシート：

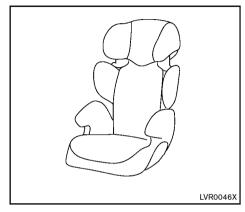
LVR0044X

ECE R44基準のグループ0、0+に相当します。

チャイルドシート：

LVR0045X

ECE R44基準のグループ0+、Ⅰに相当します。

ジュニアチャイルドシート：

LVR0046X

ECE R44基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。

チャイルドシート適合表

チャイルドシートの固定方法には、シートベルトで取り付ける方法と、ISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーで取り付ける方法があります。次の表から各着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを確認してください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシートについて

選択の目安：

詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

質量グループ	着席位置		
	前席（助手席）	後席左右	後席中央
0 (10kgまで)	×	U	×
0+ (13 kgまで)	×	U	×
Ⅰ(9 - 18 kg)	UF	U	×
Ⅱ(15 - 25kg)	UF	U	L
Ⅲ(22 - 36kg)	UF	U	L

凡例

U： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適合しています。

UF： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。

L： 次の表に記載されている日産純正チャイルドシートの取り付けが可能です。

X： チャイルドシートを取り付けることはできません。

日産純正チャイルドシート：

<table>
<tr><th>質量グループ</th><th>取り付け向き</th><th colspan="2">商品名</th></tr>
<tr><td>0（10kgまで）</td><td>-</td><td colspan="2">-</td></tr>
<tr><td>0+（13kgまで）</td><td>後向き</td><td rowspan="2">-</td><td rowspan="2">-</td></tr>
<tr><td>Ⅰ（9〜18kg）</td><td>前向き</td></tr>
<tr><td>Ⅱ（15〜25kg）</td><td>前向き</td><td colspan="2" rowspan="2">ジュニアセーフティシート
（E4 04443515）</td></tr>
<tr><td>Ⅲ（22〜36kg）</td><td>前向き</td></tr>
</table>

⚠ 注意

表に記載されていないチャイルドシートを使用するときは、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーで取り付けるチャイルドシートについて

選択の目安：

詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置	
			後席左右	後席中央
キャリコット	F	ISO/L1	×	-
	G	ISO/L2	×	-
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	×	-
0+ (13 kgまで)	E	ISO/R1	IL	-
	D	ISO/R2	×	-
	C	ISO/R3	×	-
I (9 - 18 kg)	D	ISO/R2	×	-
	C	ISO/R3	×	-
	B	ISO/F2	IUF	-
	B1	ISO/F2X	IUF	-
	A	ISO/F3	IUF	-
Ⅱ(15 - 25kg)	-	(1)	×	-
Ⅲ(22 - 36kg)	-	(1)	×	-

凡例

IUF：この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX対応前向きチャイルドシートに適合しています。

IL： この質量グループでの使用を認可された、次の表に記載されている「日産純正ISO FIX対応ベビーシート」に適合しています。

X： チャイルドシートを取り付けることはできません。

(1)： サイズ等級表示の無いチャイルドシートの各シート位置でのISO FIX対応チャイルドシート固定機構の取り扱いについては販売業者にご相談ください。

日産純正ISO FIX対応チャイルドシート：

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0+ (13 kgまで)	E	ISO/R1	日産純正ISO FIX対応ベビーシート	後向き	準汎用

⚠ 注意

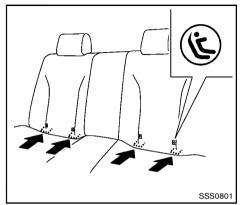
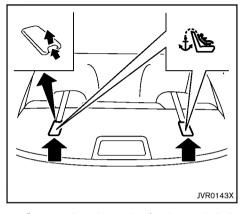
- 日産純正ISO FIX対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。
- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にECE R44の基準に適合していることを確認してください。適合していないチャイルドシートは取り付けられません。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

ISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーについて

後席シート左右にはISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるためのアンカー(固定装置)が装備されています。

⚠ 注意

ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストをロックする位置にしてください。（後席ヘッドレスト付車のみ）

アンカーの場所

ISO FIX対応チャイルドシート用ロアアンカーは、マーク下側にあります。

テザーアンカーは、リヤパーセルにあります。 ふたを開けて使います。

取り付けかたおよび取り外しかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物がないことや、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが固定されず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

知識：

シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。日産純正シートカバーをおすすめします。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、シートベルトと併用することで安全性を高めます。シートベルトは必ず着用してください。

※SRSとは、Supplemental Restraint Systemの略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき作動可能です。

警告

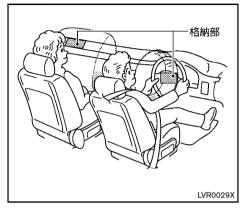
- SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。SRSエアバッグの効果を発揮させるため、必ずシートベルトを正しい姿勢で正しく着用してください。
- 乗車するときは必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - — ハンドルまわり、車両前部、インストルメントパネルまわり、前席シートまわり、センターピラー（ロックピラー）まわり、センターコンソールまわり、ルーフサイド部などのSRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
  - — SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
  - — 電気テスターを使ってSRSエアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
  - — エアロパーツなどを取り付けたりサスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

⚠ 注意

- キースイッチ（電源ポジション）をONにしたあと約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
- SRSエアバッグは膨らんだあと高温になるため、30分以内はさわらないでください。やけどをするおそれがあります。
- SRSエアバッグは高温のガスにより高速で膨らむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグが膨らむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。ただし、SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。
- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。SRSエアバッグの作動により、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

知識：

- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。
- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。
- SRSエアバッグは、一度膨らむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

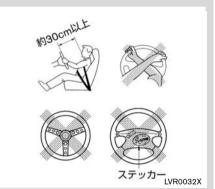
運転席·助手席SRSエアバッグシステム

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和するシステムです。

- 運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。
- 助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。　乗員がいなくても運転席と同時に作動します。

⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受けたり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

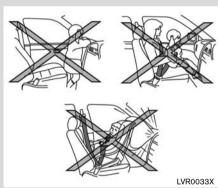
- 運転席SRSエアバッグシステム

LVR0032X

— ハンドルから顔をできるだけ（約30cm 以上）離し、ハンドルにもたれかかるなどSRSエアバッグ格納部に手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。 また、内がけでのハンドル操作はしないでください。

— 不適正なハンドルに交換したり、センターパッド部（SRSエアバッグ格納部） にステッカーなどを貼らないでください。

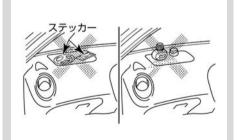
— 前面ガラスにアクセサリーなどを付けないでください。

- 助手席SRSエアバッグシステム

LVR0033X

— インストルメントパネル（SRSエアバッグ格納部）に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたりひざの上に抱いたりせず、後席に乗せてください。

— チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。やむを得ず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

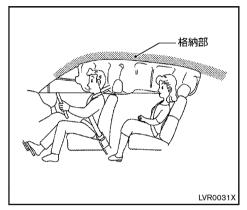
🔍 “チャイルドシート”(P.1-10)

— チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

LVR0034X

— インストルメントパネル上面および前面にステッカーなどを貼った

り、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。

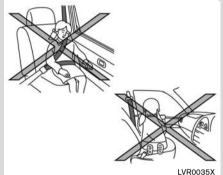
SRSカーテンエアバッグシステム★

LVR0031X

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和するシステムです。

SRSカーテンエアバッグは左右のルーフサイドに格納されています。助手席側は乗員がいなくても作動します。

⚠ 警告

- 必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受けたり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

LVR0035X

— ドアにもたれるなど、前席シート背もたれ側面（外側）のSRSカーテンエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。

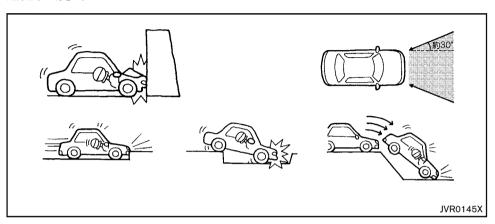
— 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。

— センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けないでください。

SRSエアバッグが作動するとき

正面衝突時や側面衝突時において、乗員がシートベルトを正しく着用していても重大な傷害を受けるおそれのあるような衝撃を受けた場合に作動します。しかし衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならない場合には、必ずしも作動するとはかぎりません。

運転席･助手席SRSエアバッグシステム

JVR0145X

次のような衝撃が強いときに作動します。

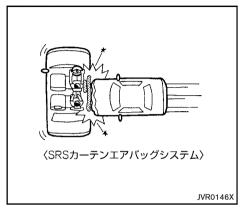
- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき。
- 車両前方左右、約30度以内の方向から強い衝撃(上記と同等）を受けたとき。

次のような、車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき。
- 深い穴や溝に落ち込んだとき。
- ジャンプして地面にぶつけたとき。

SRSカーテンエアバッグシステム★

〈SRSカーテンエアバッグシステム〉

JVR0146X

次のような衝撃が強いときに作動します。

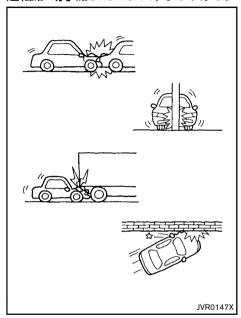
- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき。

SRSエアバッグが作動しにくいとき

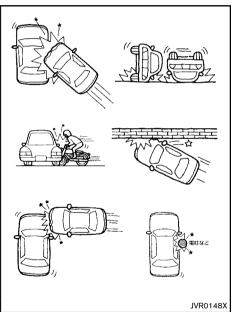
次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。衝突したものが変形したり移動したときや、衝突したものの形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃がゆるめられたときは、作動しにくくなります。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

運転席･助手席SRSエアバッグシステム

JVR0147X

- 停車している同クラスの車に約50km/h 以下の速度で衝突したとき。
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h 以下の速度で正面衝突したとき。
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき。
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき。

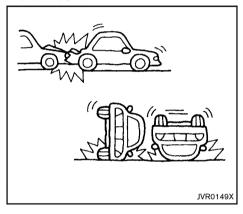
SRSカーテンエアバッグシステム★

JVR0148X

- 側面に斜め方向から衝突されたとき。
- 側面にバイクが真横から衝突したとき。
- エンジンルーム（トランク）に衝突されたとき。
- 横転、転覆したとき。
- 斜め前方から衝突したとき。
- 電柱などに衝突したとき。

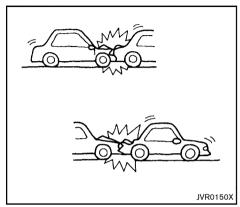
SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

運転席･助手席SRSエアバッグシステム

JVR0149X

- 横方向や後ろから衝突されたとき。
- 横転、転覆したとき。

SRSカーテンエアバッグシステム★

JVR0150X

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき。
- 後ろから衝突されたとき。

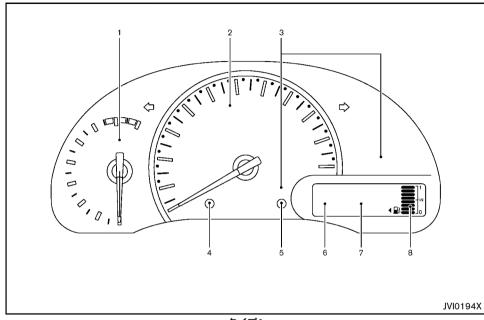
★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

2 メーター、スイッチ、室内装備

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

インストルメントパネル

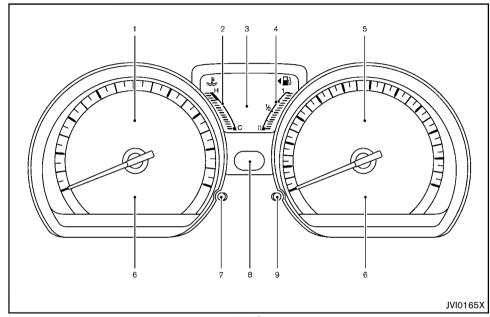
1. 前席左右吹き出し口
2. 助手席SRSエアバッグシステム
3. 前席中央吹き出し口
4. 非常点滅表示灯スイッチ
5. ワイパー･ウオッシャースイッチ
6. メーター
7. ハンドル
   — 運転席SRSエアバッグシステム
   — ホーンスイッチ
8. ライトスイッチ･方向指示器スイッチ
9. 発炎筒
10. グローブボックス
11. エアコン
12. 電源ソケット★
13. カップホルダー
14. リヤウインドーデフォッガースイッチ
15. エンジンスイッチ★
16. ハンドル位置調節レバー
17. VDC OFFスイッチ★
18. キースイッチ★
19. エンジンフードオープナー
20. フューエルフィラーリッドオープナー
21. アイドリングストップOFFスイッチ
22. ヘッドランプレベライザースイッチ
23. ドアミラースイッチ

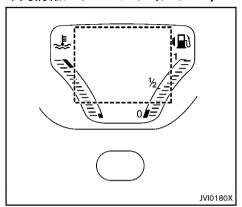
※グレードにより、位置や形状が異なります。

メーター

タイプA

1. タコメーター
2. スピードメーター
3. 警告灯･表示灯
4. モード切り替えスイッチ
5. 時計調整スイッチ
6. ポジションインジケーター
7. オドメーター･ツイントリップメーター／トリップコンピューター／時計
8. 燃料計

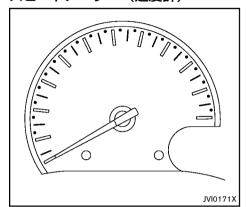
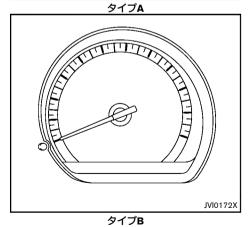
キースイッチをOFFにしてからしばらくして指針が振れることがありますが故障ではありません。

タイプB

1. タコメーター
2. 水温計
3. 車両情報ディスプレイ
   — オドメーター·ツイントリップメーター
   — トリップコンピューター
   — 時計
   — 外気温度計★
   — サービスインターバル
   — イルミネーションコントロール
4. 燃料計
5. スピードメーター
6. 警告灯·表示灯
7. イルミネーションコントロールスイッチ
8. ポジションインジケーター
9. モード切り替えスイッチ／時計調整スイッチ

キースイッチ（電源ポジション)をOFFにしてからしばらくして指針が振れることがありますが故障ではありません。

車両情報ディスプレイ（タイプB)

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、車両情報ディスプレイに次の情報が表示されます。

- オドメーター･ツイントリップメーター
- トリップコンピューター
- 時計
- 外気温度計★
- サービスインターバル
- イルミネーションコントロール

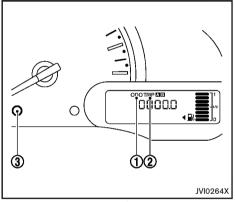
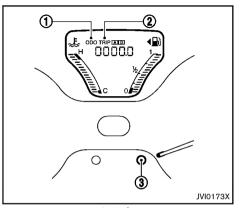
スピードメーター（速度計）

タイプA

タイプB

スピードメーターは、走行速度を表示します。

オドメーター（積算距離計）･ツイントリップメーター(区間距離計)

タイプA

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

タイプB

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき表示します。

オドメーター①は、車両の総走行距離を表示します。

ツイントリップメーター②は、2種類の区間走行距離を表示します。

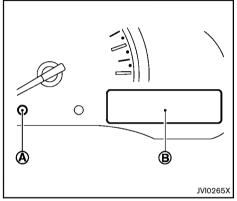
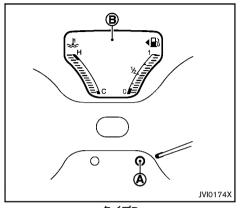
ツイントリップメーターの表示を変更するには

モード切り替えスイッチ③を押すごとに、表示は次の順で切り替わります。

オドメーター → トリップA → トリップB → トリップコンピューターモード → オドメーター

ツイントリップメーターをリセットするには

0（ゼロ）にしたいほうを表示させ、モード切り替えスイッチ③を約1秒以上押します。

トリップコンピューター

タイプA

タイプB

モード切り替えスイッチⒶはメーターパネルにあります。

トリップコンピューターはディスプレイⒷに表示されます。

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、モード切り替えスイッチⒶを押してトリップコンピューターを選択できます。

モード切り替えスイッチⒶを押すごとに、次の順で各モードに切り替わります。

オドメーター → トリップA → トリップB → 瞬間燃費 → 平均燃費 → 航続可能距離 → 外気温度計（タイプB）★→ 時計調整モード（タイプB）→ オドメーター

瞬間燃費（km/l）

走行中の瞬間燃費を表示します。

平均燃費（AVG. km/l）

リセットしてから次にリセットするまでの平均燃費を表示します。

リセットするときは、モード切り替えスイッチⒶを1秒以上押します。

表示は約30秒ごとに更新されます。リセット後、約500m走行するまでは、“---”が表示されます。

航続可能距離（km）

現在の燃料残量と平均燃費から走行可能な距離を表示します。

航続可能距離が少なくなったとき（燃料残量が少なくなったとき）は、表示が点滅します。

燃料残量がさらに少なくなると、“----”に変化します。

表示は約30秒ごとに更新されます。

- **補給した燃料が少量の場合は、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにする直前の表示が表示され続けることがあります。**
- **坂道やカーブなどを走行すると、タンク内の燃料が移動し、一時的に表示が変化することがあります。**

外気温度計(タイプB)★

外気温を表示します。

外気温が3°C以下になると、外気温の表示を点滅させて運転者に知らせます。

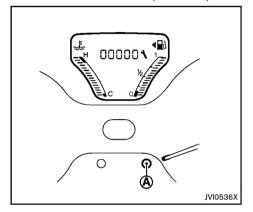
点滅表示は、約1分経過するか外気温が4°C以上になると通常表示に戻ります。

時計調整モード（タイプB）

時計の調整については、“時計”(P.2-23)をお読みください。

トリップコンピューターをリセットするには

平均燃費またはトリップBが表示されているときに、モード切り替えスイッチⒶを約3秒以上押します。平均燃費とトリップメーター（トリップBのみ）が同時にリセットされます。

サービスインターバル(タイプB)

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると、メンテナンス情報（レンチの記号 🔧 と整備項目の交換までの距離）が約5秒間点灯したあと、消灯します。

整備項目の交換距離を設定するには

1. キースイッチ（電源ポジション）をONにしてから5秒以内に、モード切り替えスイッチⒶを3秒以上押します。（メンテナンス情報が点滅）
2. モード切り替えスイッチⒶを押すごとに、交換距離が延長されます。

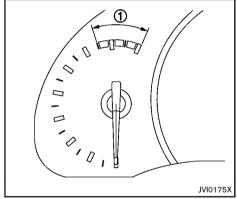
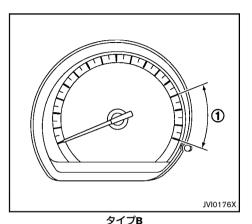
   一回押すたびに、距離は1,000km延長されます。交換距離は0〜30,000kmまでの

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

範囲内で設定できます。

3. 5秒以上何の操作も行わないと、交換距離が設定されます。

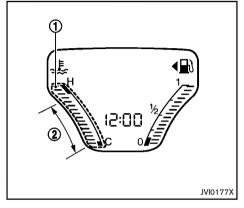
交換距離を0（ゼロ）に設定すると、キースイッチ（電源ポジション）をONにしてもメンテナンス情報は表示されません。

タコメーター

タイプA

タイプB

タコメーターは、1分間当たりのエンジン回転数を表示します。

⚠ 注意

レッドゾーン①に入らないように運転してください。レッドゾーンではエンジンが過回転となり故障の原因になります。

水温計（タイプB）

水温計①はエンジン冷却水の温度を表示します。

水温は、②の範囲内にあるときは標準値です。

水温は外気温と走行条件によって変化します。

⚠ 注意

- 水温計が標準範囲の高温側（H）付近の水温を表示した場合、速度を落として水温を下げてください。

- 水温計が標準範囲を超えた場合は、ただちに安全な場所に停車してください。
- エンジンがオーバーヒートしたまま車両の使用を続けると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。（応急処置については、“オーバーヒートしたときは”(P.6-12)をお読みください。）

燃料計

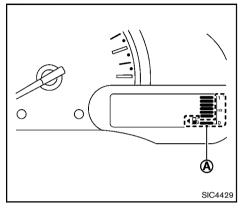
矢印（ ）は、燃料補給口が車両の左側にあることを示しています。

注意

燃料計が0(ゼロ)になる前に燃料を補給してください。

燃料計が0(ゼロ)を示していても、タンク内には少量の燃料が残っています。

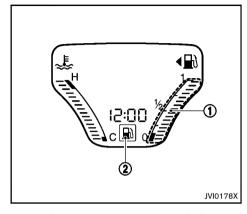
タイプA

SIC4429

燃料計は、キースイッチがONのとき、燃料残量を表示します。

坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、燃料計の表示が上下することがあります。

燃料残量警告灯（表示）Ⓐは、タンク内の燃料の残量が少なくなると点滅します。燃料計が0（ゼロ）になる前に、できるだけ早く燃料を補給してください。

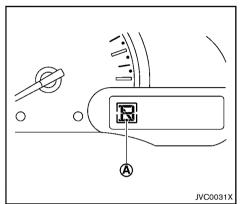
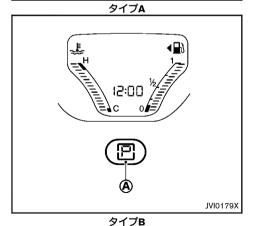
タイプB

JVI0178X

燃料計①は、キースイッチ(電源ポジション)がONのとき、燃料の残量を表示します。

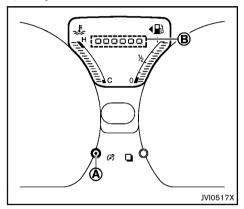
坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、燃料計の表示が上下することがあります。

燃料残量警告灯（表示）②は、タンク内の燃料残量が少なくなると点灯します。燃料計が0（ゼロ）になる前に、できるだけ早く燃料を補給してください。

ポジションインジケーター

タイプA

タイプB

ポジションインジケーターⒶは、キースイッチ（電源ポジション）がONのときにセレクトレバーのセット位置を表示します。

イルミネーションコントロール（タイプB）

キースイッチ（電源ポジション）がONのときにメーター照明の明るさを調節できます。

イルミネーションコントロールスイッチⒶを押すごとに暗くなります。イルミネーションコントロールスイッチⒶを押すと、ディスプレイに明るさのレベル表示Ⓑがしばらく表示されます。

明るさのレベルが最小に達すると、最大に戻ります。また、最小または最大に達すると音が鳴ります。

警告灯・表示灯の見かた

	ABS警告灯		燃料残量警告灯（表示）		アイドリングストップ表示灯
	ブレーキ警告灯		故障警告灯（MIL）		低水温表示灯（緑色表示）★
	充電警告灯		P 戻し忘れ警告灯★		セキュリティーインジケーター★
	半ドア警告灯		シートベルト警告灯		テールランプ表示灯★
PS	EPS(電動パワーステアリング)警告灯		SRSエアバッグ警告灯	SPORT	SPORT表示灯
	油圧警告灯		VDC 警告灯★		方向指示表示灯
	高水温警告灯（赤色表示）★		エンジン始動操作表示灯★	OFF	VDC OFF表示灯★
KEY	KEY警告灯★		ヘッドランプ上向き表示灯		

電球(バルブ)の点検

次のランプは、すべてのドアを閉め、パーキングブレーキをかけ、シートベルトを着用し、キースイッチ(電源ポジション)をONにしたとき、エンジンを始動していない状態で点灯します。

、 、 、 、 PS

次のランプは、数秒間点灯後、消灯します。

、SPORT、 、KEY★、 ★、 ★、 (赤色表示)★、 (緑色表示)★

ランプが点灯しない場合は、電球が切れているか、電装システムが故障しているおそれがあります。すみやかに日産販売会社でシステムの点検を受けてください。

警告灯

ABS警告灯

キースイッチ(電源ポジション)をONにすると数秒間点灯後、消灯します。

エンジン回転中にABS警告灯が点灯したときは、ABSが正常に作動していないおそれがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

ABSに異常が発生したときは、ABSは作動しませんが、ABSのない普通のブレーキ性能は確保されています。“ABS（アンチロックブレーキシステム）”（P.5-22)

ブレーキ警告灯

警告

- ブレーキ液の量がブレーキリザーバータンクの最低（MIN）マークよりも下の場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
- ブレーキ液が不足しているときはブレーキの効きが悪いため、制動距離が長くなったりブレーキペダルを踏み込む力が通常より必要になることがありま

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

す。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。

- パーキングブレーキを解除しても点灯し続けるときは、点灯したまま走行しないでください。また、ブレーキ液が規定量以下になっていたら走行しないでください。ブレーキの効きが極度に悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

パーキングブレーキの解除のし忘れに注意してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警報が鳴ります。“パーキングブレーキ戻し忘れ警報”(P.2-17)

ブレーキ警告灯は、パーキングブレーキの作動状態、ブレーキ液量不足、ABSの異常を示します。

パーキングブレーキの警告表示：

ブレーキ警告灯は、キースイッチ（電源ポジション）がONのとき点灯します。エンジン始動後、パーキングブレーキを解除すると、消灯します。

パーキングブレーキを完全に解除しないと、ブレーキ警告灯は点灯し続けます。走行前にブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。“パーキングブレーキ”(P.3-27)

ブレーキ液不足の警告表示：

エンジン始動後、パーキングブレーキを解除しているときにブレーキ警告灯が点灯した場合は、ブレーキ液が不足しているおそれがあります。

走行中にブレーキ警告灯が点灯したときは、できるだけ早く安全な場所に停車し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

ABSの警告表示：

パーキングブレーキを解除し、ブレーキ液の量が十分なときにABS警告灯と同時に点灯した場合は、ABSが正常に作動していないおそれがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。“ABS警告灯”(P.2-11)

充電警告灯

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。

エンジン回転中に充電警告灯が点灯したときは、バッテリーの充電系統が正常に作動していないおそれがあります。

走行中に充電警告灯が点灯したときは、できるだけ早く安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。

⚠ 注意

充電警告灯が点灯したまま走行しないでください。バッテリーが破損したり、エンジンが突然停止し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

半ドア警告灯

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、いずれかのドアが開いているか、完全に閉まっていないとき点灯します。

⚠ 注意

走行前に消灯していることを確認してください。ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

PS EPS (電動パワーステアリング) 警告灯

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。

エンジン回転中にEPS警告灯が点灯したときは、電動パワーステアリングシステムの作動に異常があるおそれがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

エンジン回転中にEPS警告灯が点灯したときは、ハンドルの補助機能は働かなくなりますが、引き続きハンドルを操作することはできます。その場合、特に急カーブや低速走行時に、ハンドル操作力が重くなります。

“EPS(電動パワーステアリング)”(P.5-21)

油圧警告灯

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。

エンジン回転中に油圧警告灯が点灯した場合、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下しているおそれがあります。

ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、日産販売会社に連絡してください。

⚠ 注意

油圧警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンを破損するおそれがあります。

高水温警告灯（赤色表示）★

キースイッチをONにすると、低水温表示灯（緑色表示）が約1秒間点灯後、高水温警告灯（赤色表示）が約1秒間点灯して消灯します。

エンジン回転中、エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点灯します。

⚠ 注意

エンジン回転中に高水温警告灯（赤色表示）が点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してください。

そのまま走行を続けると、エンジンが故障する原因となり、火災につながるおそれがあります。(必要な応急処置については、“オーバーヒートしたときは”(P.6-12)をお読みください。)

KEY警告灯★

電源ポジションをONにすると約2秒間点灯後、消灯します。

KEY警告灯は次のように点灯または点滅します。

- 電源ポジションがACCまたはONのとき、インテリジェントキーが車外へ持ち出されると黄色で点滅します。インテリジェントキーは必ず車内で携帯してください。
- インテリジェントキーの電池切れが近くなると、緑色で点滅します。電池を新品と交換してください。“電池交換のしかた”(P.8-5)

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

- ステアリングロックやインテリジェントキーのシステムに異常があると、黄色で点灯します。

エンジン停止中にKEY警告灯が黄色に点灯しているときは、ステアリングロックを解除できないか、エンジンを始動できないおそれがあります。エンジン回転中にKEY警告灯が点灯しても走行を続けることはできますが、その場合でも、できるだけ早く日産販売会社に連絡してください。

燃料残量警告灯（表示）

詳しくは、“燃料計”（P.2-9）をお読みください。

故障警告灯（MIL）

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯しエンジンがかかると消灯します。

エンジン回転中にMILが点灯または点滅したときは、エンジン電子制御システムに異常があるおそれがあります。ただちに日産販売会社に連絡してください。

⚠ 注意

点灯したまま走行を続けると、走行性能の低下、燃費の悪化、エンジンの破損などにつながるおそれがあります。

P 戻し忘れ警告灯★

セレクトレバーが P 以外のとき、電源ポジションをONからOFFにすると点灯します。

この警告灯が点灯したときは、セレクトレバーを P にするか、電源ポジションをONにしてください。

点灯と共に車内警報ブザーが鳴ります。

“トラブルシューティング”（P.3-16）

シートベルト警告灯

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、運転者がシートベルトを着用するまで点灯し続けます。

運転者がシートベルトを着用していない状態で走行すると（15km/h以上）、警報ブザーが鳴ります。警報ブザーはシートベルトを着用するまで約90秒間鳴ります。

“シートベルト”（P.1-6）

SRSエアバッグ警告灯

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると約7秒間点灯後、消灯します。

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。

キースイッチ（電源ポジション）をONにしても点灯しないとき、または約7秒間たっても点灯、点滅を続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

“SRSエアバッグ”（P.1-17）

⚠ 警告

キースイッチ（電源ポジション）をONにしても点灯しないときや、点灯、点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

VDC警告灯★

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると数秒間点灯後、消灯します。

VDC作動中に点滅します。

キースイッチ（電源ポジション）がONのときVDCのシステムに異常があると点灯します。

点灯したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

点灯したときはVDCの作動は停止しますが、VDCのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

"VDC（ビークルダイナミクスコントロール）★"（P.5-17）

表示灯

エンジン始動操作表示灯★

ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押して、エンジンを始動することを表示します。電源ポジションはどの位置でもエンジンを始動することができます。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプの上向きを点灯させると点灯します。元の位置に戻すと消灯します。"ライトスイッチ·方向指示器スイッチ"（P.2-17）

アイドリングストップ表示灯

アイドリングストップ中またはアイドリングストップが可能な状態のときに点灯します。

アイドリングストップ中にエンジンフードを開けると速く点滅します。

アイドリングストップに異常があると遅く点滅します。

知識：

- アイドリングストップ表示灯が速く点滅したとき（約1秒間に2回）は、エンジンフードが開いていないか確認してください。エンジンフードが開いていると、エンジンは通常のエンジン停止状態になります。その場合は、エンジンをかけ直してください。
- アイドリングストップ表示灯が遅く点滅したとき（約2秒間に1回）は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 停車前にアイドリングストップ表示灯が点灯していても、坂道やハンドル操作などによってはアイドリングストップしないことがあります。

低水温表示灯（緑色表示）★

キースイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。

エンジン冷却水の温度が正常な場合、キースイッチをONにすると、低水温表示灯（緑色表示）が約１秒間点灯後、高水温警告灯（赤色表示）が約1秒間点灯して消灯します。

エンジンが十分に暖機されたあとも点灯しているときは、水温センサーの異常が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

赤色が点灯し続けるときは、高水温警告灯（赤色表示）をお読みください。"高水温警告灯（赤色表示）★"（P.2-13）

セキュリティーインジケーター★

電源ポジションがON以外のときに点滅します。この機能は、車両に搭載されているセキュリティーシステムが作動していることを示します。

電源ポジションをONにしたあとも点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられま

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

す。（詳細については、 “エンジンイモビライザー（盗難防止装置)★”（P.3-19）をお読みください。）

テールランプ表示灯★

車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。

SPORT表示灯

スポーツモードスイッチをONにすると点灯します。（スポーツモードスイッチの使いかたは、 “オートマチック車の運転のしかた”(P.5-11)をお読みください。）

方向指示表示灯

方向指示器または非常点滅表示灯を作動させると点滅します。 “ライトスイッチ·方向指示器スイッチ”（P.2-17）または “非常点滅表示灯スイッチ”（P.6-2）をお読みください。

知識：

方向指示器のランプの電球が切れたときは点滅が速くなります。電球を交換してください。 “電球（バルブ）を交換するときは”(P.8-9)

VDC OFF表示灯★

VDC OFFスイッチを押すと点灯します。

VDC OFFスイッチがOFFのときは、VDCシステムは作動しません。 “VDC（ビークルダイナミクスコントロール）★”（P.5-17）

警報ブザー

ブレーキパッド摩耗警報

ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗すると、走行中にブレーキ付近から金属音（キーキー音）が発生します。金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

⚠ 注意

金属音が発生したまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

キー忘れ警報

次のいずれかの操作を行うとブザーが鳴ります。

リモートコントロールエントリーシステム付車：

- エンジンを止め、キーを差したまま、運転席ドアを開ける。

インテリジェントキー付車：

- 電源ポジションがACCのときに運転席ドアを開ける。

ドアを開けるときはインテリジェントキーを携帯し、必ずキースイッチをLOCK（電源ポジションをOFF)にしてください。

インテリジェントキー付車は、特定の状況で車内または車外警報ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、車両およびインテリジェントキーの確認を行ってください。 “インテリジェントキー★”（P.3-8）

ヘッドランプ消し忘れ警報

ライトスイッチが またはÐ 位置で、キースイッチ(電源ポジション)がACC、OFF、LOCKのいずれかの位置のときに運転席ドアを開けると、ブザーが鳴ります。

ライトスイッチは必ずOFFにしてから降車してください。

パーキングブレーキ戻し忘れ警報

パーキングブレーキを戻し忘れたまま7km/h以上の速度で走行するとブザーが鳴ります。停車してからパーキングブレーキを解除してください。

シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）

運転者がシートベルトを着用していない状態で走行すると(約15km/h以上）、約90秒間ブザーが鳴ります。

アイドリングストップ警告ブザー

アイドリングストップ中にエンジンフードを開けると、ブザーが鳴ります。

エンジンフードが開いていないか確認してください。エンジンフードが開いていると、通常のエンジン停止状態になります。その場合は、エンジンをかけ直してください。

リバースブザー

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、セレクトレバーを R にすると、車内でブザーが鳴ります。

ブザーを鳴らして、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。車外の人に対する警報ではありません。

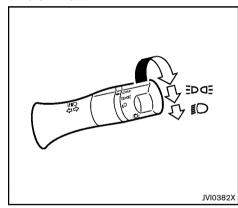
ライトスイッチ・方向指示器スイッチ

⚠ 注意

エンジン停止時に長時間点灯させないでください。バッテリーがあがりエンジンの始動ができなくなります。

ライトスイッチ

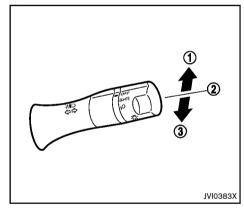
JVI0382X

位置

の位置では、車幅灯、尾灯などが点灯します。

位置

の位置では、他のランプと合わせてヘッドランプが点灯します。

ヘッドランプの上向き（ハイビーム）切り替え

JVI0383X

上向き（ハイビーム）にするときは、ヘッドランプ点灯時にスイッチを車両前方①に押します。

下向き（ロービーム）にするときは、スイッチを元の中立位置②に戻します。

一時的にハイビーム（パッシング）にするときは、スイッチを手前の位置③へ引きます。パッシングは、ヘッドランプが点灯していないときでも使えます。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

バッテリーセーバー

次の場合は、運転席ドアを開けたときにヘッドランプ消し忘れ警報が鳴ります。

- ライトスイッチが または で、キースイッチ（電源ポジション）がACC、OFFまたはLOCKになっているとき。

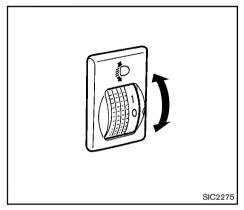
必ずライトスイッチをOFFにしてください。

ライトスイッチが または のときにドアを閉め、リモコンまたはリクエストスイッチ（インテリジェントキー付車）で施錠するとバッテリーあがりを防止するためにライトが消灯します。次回運転席ドアを開けるとライトが再点灯します。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジン回転中以外はランプを長時間点灯させないでください。

ヘッドランプレベライザースイッチ

SIC2275

ヘッドランプレベライザーは、キースイッチ（電源ポジション）をONにし、ヘッドランプを点灯させているときに照らす向きを調整します。

重い荷物を積んでいないときや、平坦な路面を走行するときは、“0”の位置にします。

乗車する乗員数と積荷の重さが変化すると、ヘッドランプの光軸は適切な高さよりも上向きになることがあります。

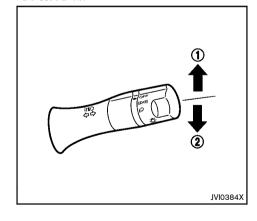
上り坂を走行するときは、ヘッドランプが前方を走る車両のルームミラーやドアミラーまたは対向車両のフロントウインドーに直接当たる場合があり、他の運転者の視界を妨げるおそれがあります。

スイッチを回し、スイッチに表示される数字が大きくなるほど、ヘッドランプの照らす向きが下側になります。

次の表はスイッチ位置の目安です。

スイッチ位置	前席シート乗員数	後席シート乗員数	トランクの積載重量
0	1または2	0	積載なし
1	2	3	積載なし
2	2	3	約65kg
3	1	0	約258kg

方向指示器スイッチ

JVI0384X

⚠ 注意

方向指示器スイッチは、ハンドルを規定の角度以上回さないと自動的に元の位置に戻りません。右左折や車線変更などでの操作後、方向指示器スイッチが元の位置に戻ったか確認してください。

方向指示

方向指示器スイッチを上①または下②に動かします。右左折が完了すると、方向指示器は自動的に消灯します。

車線変更

車線変更するときは、方向指示器が点滅する位置まで方向指示器スイッチを上①または下②に動かします。

ワイパー･ウオッシャースイッチ

⚠ 警告

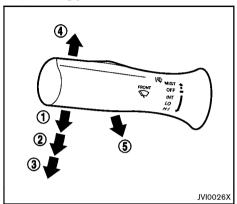
寒冷時は、ウインドーガラスに吹きつけられたウオッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。ウオッシャー液を噴射する前に、ヒーターを使ってウインドーガラスを温めてください。

⚠ 注意

- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチをONにしてください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでブレードがガラスに張り付いているときは、作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障するおそれがあります。
- ガラスが乾いているときは、ウオッシャー液を噴射してからワイパーを使ってください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウオッシャー液が出ないときは、そのままで30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウオッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

ワイパー･ウオッシャースイッチの使いかた

ワイパーとウオッシャーは、キースイッチ（電源ポジション）がONのときに作動します。

ワイパーの使いかた

スイッチ位置がINT①のときは、ワイパーは間けつ作動します。

間けつ作動の間隔は、車速に応じて変化する車速感知式です。

スイッチ位置がLO②のときは、ワイパーは低速で連続作動します。

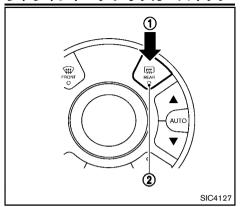
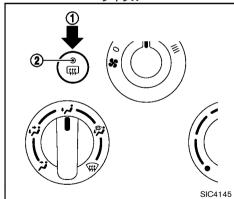
スイッチ位置がHI③のときは、ワイパーは高速で連続作動します。

ワイパーを停止させるときは、スイッチをOFF位置にします。

スイッチ位置がMIST④のときは、ワイパーは1回作動します。スイッチは自動的にOFFの位置に戻ります。

ウオッシャーの使いかた

ウオッシャーを作動させるには、スイッチを手前に引きます⑤。自動的にワイパーが数回作動します。

リヤウインドーデフォッガースイッチ

タイプA

タイプB

キースイッチ（電源ポジション）がONのときに作動します。

リヤウインドーガラスのくもりを取ります。

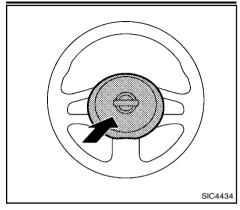
スイッチ①を押すと、表示灯②が点灯し、リヤウインドーデフォッガーが約15分間作動します。リヤウインドーデフォッガーは自動的にOFFになります。

作動中に止めるときは、スイッチ①をもう一度押します。

注意

- リヤウインドーデフォッガーを連続して作動させるときは、必ずエンジンをかけてください。消費電力が大きいためバッテリーがあがるおそれがあります。
- リヤウインドーの内側を清掃するときは、リヤウインドーデフォッガーの熱線に傷を付けたり、損傷させたりしないように注意してください。

ホーンスイッチ

SIC4434

キースイッチ（電源ポジション）の位置に関係なく作動します。

ホーンスイッチを押している間、ホーンが鳴ります。スイッチから手を離すと、ホーンは鳴りやみます。

パワーウインドー

パワーウインドー

警告

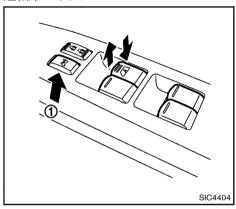
- 走行中は顔や手、物などを車外に出さないでください。車外のものに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- 窓ガラスを閉めるときは、手や首などを挟まないよう注意してください。
- お子さまを乗せているときは、パワーウインドーロックスイッチを押し込み、操作させないようにしてください。重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したまま、絶対に車から離れないでください。誤ってスイッチ類を操作し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

キースイッチ（電源ポジション）がONのときに操作できます。

ウインドーを開けるときは、パワーウインドースイッチを押し下げます。

ウインドーを閉めるときは、パワーウインド

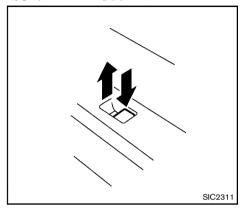
ースイッチを引き上げます。

運転席スイッチ

運転席スイッチで、全ての席の窓ガラスを開閉できます。

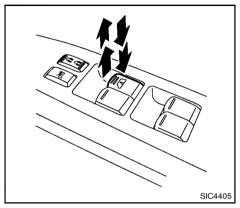
ウインドーロックのしかた：

パワーウインドーロックスイッチ①を押し込むと、助手席と後席の窓ガラスの開閉ができなくなります。

パワーウインドーロックスイッチ①をもう一回押すと、ロック機能は解除されます。

助手席スイッチ･後席スイッチ

助手席スイッチ、後席スイッチで、自席の窓ガラスの開閉ができます。

運転席スイッチのパワーウインドーロックスイッチが押し込まれているときは、助手席･後席窓ガラスの操作ができません。

ワンタッチ開閉

ワンタッチ開閉機能は、 A のマークが付いたスイッチで使用できます。

スイッチを強く押すと全開します。スイッチを強く引き上げると全閉します。スイッチから手を離しても、窓ガラスは自動的に全開または全閉します。途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引きます。

キーOFF後作動機構：

運転席の窓ガラスはキースイッチ（電源ポジション）をACCまたはOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その15分間に運転席ドアを開けて閉める（ドアが開いているときは閉める）と、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構：

⚠ 警告

窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。指などを挟まれないよう注意してください。

ワンタッチ開閉で窓ガラスを閉めているときに異物の挟み込みを感知すると、窓ガラスの上昇が停止し、自動的に少し下降して止まります。

環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

知識：

故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

正常に作動しないときは

バッテリーを外したり、開閉操作を連続して行うと、一部のパワーウインドー機能（ワンタッチ開閉機能、挟み込み防止機構など）が正常に作動しなくなります。次の操作を行い、パワーウインドー機能を初期設定してください。

1. キースイッチ（電源ポジション）をONにします。
2. 運転席スイッチを押し、窓ガラスを全開します。
3. 運転席スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
4. パワーウインドー機能が正常に作動することを確認します。

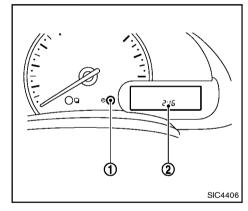
前述の操作を行ってもパワーウインドー機能が正常に作動しないときは、前述の操作を繰り返してください。必要に応じて日産販売会社で点検を受けてください。

時計

メーター内にあります。

時計は、バッテリーケーブルを外すとリセットされ、正しい時刻が表示されなくなります。バッテリー接続後、正しい時刻に調整してください。

時刻の設定

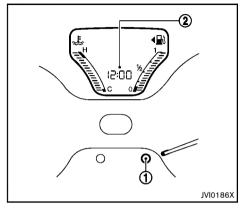
タイプA

時計②は、キースイッチがONのときに表示します。

時刻を調節するには、次の手順に従ってください。

1. 時計調整スイッチ①を約3秒以上押し、時計調整モードにします。
「時」の表示が点滅します。
2. 時計調整スイッチ①を押し、「時」を調整します。
時刻を速く進めるには、時計調整スイッチ①を押し続けます。
調整後、約5秒間経過すると「分」の表示が点滅します。
3. 時計調整スイッチ①を押し、「分」を調整します。
時刻を速く進めるには、時計調整スイッチ①を押し続けます。
調整後、約5秒間経過すると「秒」の表示“：”が点滅します。
4. 時計調整スイッチ①を押し、「秒」をリセットします。

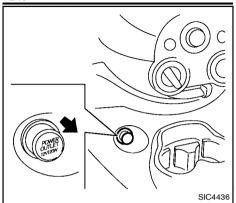
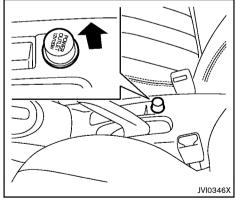
“秒”をリセットしないと、時計調整モードが完了しません。

時計調整スイッチを約1分間以上操作しないと自動的に時計調整モードが終了し、通常の時計表示に戻ります。

タイプB

時計②は、キースイッチ（電源ポジション）がONのときに表示します。時刻を調整するには、次の手順に従ってください。

1. 航続可能距離（外気温度計付車は外気温度計）が表示されているときに時計調整スイッチ①を押すと、時計調整モードになり、時計の表示が点滅します。
2. 時計調整スイッチ①を約3秒間押します。
「時」の表示が点滅します。
3. 時計調整スイッチ①を押し、「時」を調整します。時刻を速く進めるには、時計調整スイッチ①を押し続けます。
調整後、約5秒間経過すると「分」の表示が点滅します。
4. 時計調整スイッチ①を押し、「分」を調整します。時刻を速く進めるには、時計調整スイッチ①を押し続けます。
調整後、約5秒間経過すると「秒」の表示“：”が点滅します。
5. 時計調整スイッチ①を押し、「秒」をリセットします。

「秒」をリセットすると、時計の表示が点滅して再度時計調整モードに戻ります。決定するには、時計調整スイッチを押して別のモードに切り替えてください。

電源ソケット

タイプA

タイプB

カーアクセサリーの電源をとるときや、市販の車載電話および携帯電話の車載キットの電源をとるときに使います。

⚠ 注意

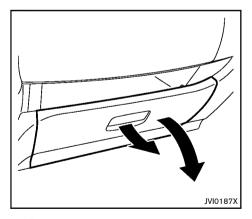
- 使用中や使用直後は、ソケットや相手プラグが熱くなっていることがあるため注意してください。
- シガーライターを差し込んで使用するようには設計されていません。
- 12V、120W（10A）を超えるアクセサリーは使用しないでください。2マタソケットを使用したり、複数の電装アクセサリーを同時に使用しないでください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンをかけて使用してください。
- 相手プラグを挿入したり抜いたりする前に、使用機器側の電源スイッチをOFFにするか、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしてください。
- 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入して使ってください。挿入が不完全な状態では、プラグが異常発熱し、車両のヒューズが切れる場合があります。
- ソケットに水などがかからないように注意してください。
- ソケットには指や金属などを入れないでください。
- 使用しないときは、必ずキャップをしてください。
- アイドリング状態で長時間使ったり、エアコン、ヘッドランプ、リヤウインドーデフォッガーなどを同時に使わないでください。

収納

グローブボックス

⚠ 警告

- 開閉は停車中に行ってください。
- ふたを開けたまま走行しないでください。収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。
- ふたを開けるときは、ゆっくり開けてください。ふたを全開にしたとき、身体に当たるおそれがあります。

JVI0187X

ノブを手前に引いて開けます。

閉めるときは、ふたを押してロックさせます。

ふたの裏面にはカードホルダーが付いています。

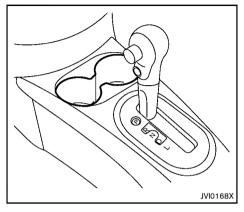
カップホルダー

⚠ 注意

運転中は、信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

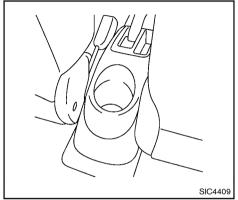
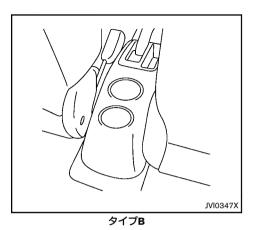
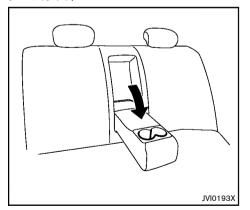
飲み物がこぼれることがあるため、カップホルダー使用時は急発進や急ブレーキを避けてください。飲み物が高温の場合やけどをするおそれがあります。

前席用

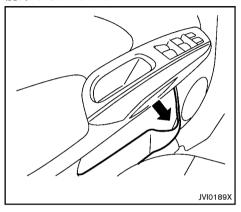
JVI0168X

後席用★

センターコンソール：

タイプA

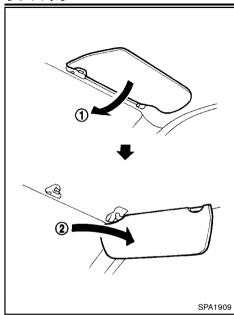
タイプB

アームレスト：

水平になるまでアームレストを前側に引き下げます。

前席ボトルホルダー

⚠ 注意

- ボトルホルダーには、急ブレーキや事故の際に投げ出され、ケガの原因になる物を収納しないでください。
- ペットボトルのふたを閉めてから収納してください。

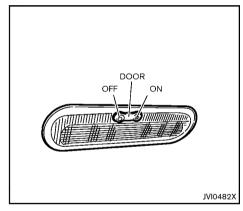
★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

サンバイザー

1. 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います①。
2. 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います②。

室内照明

⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するため、エンジン停止時には長時間点灯させないでください。

マップランプ★／ルームランプ

マップランプスイッチおよびルームランプスイッチには、ON、OFF、中立位置（DOOR)があります。

ON位置

マップランプおよびルームランプは常時点灯します。

OFF位置

マップランプおよびルームランプは常時消灯します。

DOOR位置

マップランプおよびルームランプは次の場合に点灯します。

- 電源ポジションをOFFにしたとき（インテリジェントキー付車）
  — 約15秒間点灯します。
- キースイッチからキーを抜いたとき（リモートコントロールエントリーシステム付車）
  — 約15秒間点灯します。
- キースイッチがLOCK（リモートコントロールエントリーシステム付車）または電源ポジションがOFF（インテリジェントキー付車）のときに、解錠 🔓 スイッチまたはリクエストスイッチ（インテリジェントキー付車）を押してドアを解錠したとき

— 約15秒間点灯します。

- キースイッチがLOCK（リモートコントロールエントリーシステム付車）または電源ポジションがOFF（インテリジェントキー付車）の状態でドアを開けてから閉めたとき

  — 約15秒間点灯します。

- ドアを開けたとき。

バッテリーセーバー

マップランプスイッチおよびルームランプスイッチを中立位置（DOOR）にし、ドアを開けたまま15分以上放置した場合には、バッテリーあがりを防止するためランプが消灯します。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

3 走行する前に

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

キー

キー番号を打刻したタグは、大切に保管してください。キー番号を日産販売会社に連絡すると購入できます。

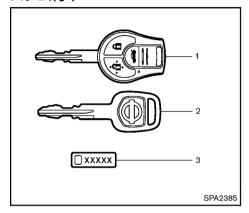
キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。

⚠ 警告

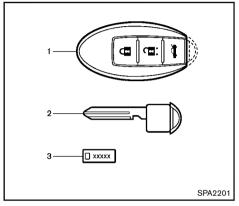
航空機内ではリモコン（インテリジェントキー）のスイッチを押さないでください。また、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

⚠ 注意

車内にキーを残したまま、車から離れないでください。

リモートコントロールエントリーシステム付車

1. キー（リモコン付）
2. キー
3. キー番号タグ

リモコンは同じ車両で最大5個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。

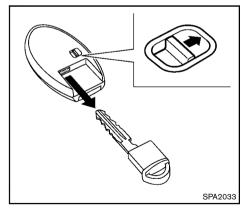
インテリジェントキー付車

1. インテリジェントキー（2個）
2. メカニカルキー（インテリジェントキー内）（2個）
3. キー番号タグ

インテリジェントキーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

⚠ 注意

- インテリジェントキーは運転者が必ず携帯してください。車内にインテリジェントキーを残したまま、車から離れないでください。
- インテリジェントキーは送信機が内蔵された精密電子機器です。故障を防止するため、次のことに注意してください。
  - — 水にぬらさないでください。ぬれたときは、すぐにふいて、完全に乾かしてください。
  - — 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
  - — 極端に気温が低いときは、電池の性能が低下するため、システムが作動しないことがあります。
  - — 長時間高温になる場所に置かないでください。
  - — 変更または改造を行わないでください。
  - — 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
  - — 磁気を帯びた機器（テレビ、オーディオ、パソコン、携帯電話など）の近くに置かないでください。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。

メカニカルキー

メカニカルキーを取り外すときは、インテリジェントキー裏側のロックノブを解除します。

メカニカルキーを取り付けるときは、ロックノブがロック位置に戻るまでインテリジェントキーに確実に差し込みます。

メカニカルキーを使ってドアの施錠·解錠ができます。“ドア”(P.3-5)

⚠ 注意

インテリジェントキーは必ずメカニカルキーを内蔵した状態で携帯してください。

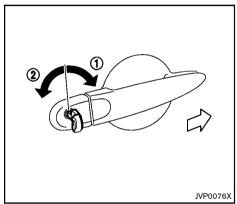
ドア

⚠ 警告

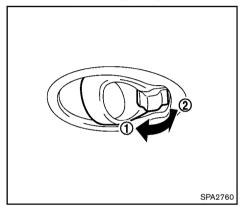
- ドアの開閉はお子さまにはさせないでください。手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- 走行する前にドアを確実に閉めてください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまや介護を必要とする方だけを車内に残して、絶対に車から離れないでください。誤ってスイッチ類を操作して、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ずエンジンを止め施錠してください。

キーによる施錠·解錠

キーを車両前方に回すと全ドアが施錠します①。

キーを車両後方に回すと全ドアが解錠します②。

ロックノブによる施錠·解錠

⚠ 注意

車内のロックノブでドアを施錠するときは、キーを車内に置き忘れないよう注意してください。

前席ドアを施錠するときは、車内のロックノブを押して施錠位置①にし、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

後席ドアを施錠するときは、車内のロックノブを押して施錠位置①にし、ドアを閉めます。

運転席のロックノブで施錠·解錠すると、全

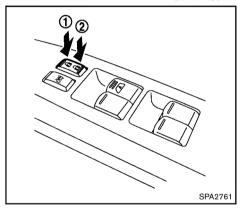
★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

ドアが同時に施錠·解錠します。

解錠するときは、車内のロックノブを引き、解錠位置②にします。

運転席ドアは、施錠したままでも車内のドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。

ドアロックスイッチによる施錠·解錠

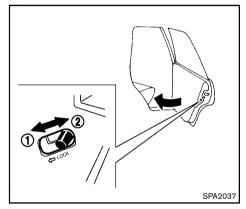
SPA2761

⚠ 注意

ドアロックスイッチでドアを施錠するときは、キーを車内に置き忘れないよう注意してください。

施錠するときは、ドアロックスイッチの施錠位置①を押します。

解錠するときは、ドアロックスイッチの解錠位置②を押します。

チャイルドセーフティドアロック

SPA2037

車内のロックノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けられなくなります。この機能は、主にお子さまを乗せるときに使います。

レバーをLOCK位置①にすると、後席ドアは車内から開けられなくなります。

ロックを解除するには、レバーを元の位置②に戻します。

リモートコントロールエントリーシステム★

リモコンは同じ車両で最大5個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。

離れたところ（約1m）から全ドアの施錠·解錠ができます。周囲の状況によっては作動する距離が変わることがあります。

リモコンは次の場合は作動しません。

- 車から離れすぎているとき。
- リモコンの電池が切れているとき。
- キーをキースイッチに差し込んでいるとき。
- ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき。（解錠のみできます）

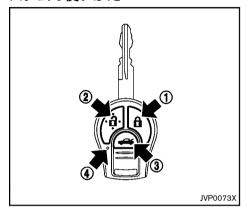
⚠ 注意

- リモコンでドアを施錠するときは、キーを車内に置き忘れないよう注意してください。
- 水にぬらさないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

- 長時間高温になる場所に置かないでください。
- 極端に気温が低いときは、電池の性能が低下するため、システムが作動しないことがあります。

キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。

電池の交換方法については、“電池交換のしかた”(P.8-4) をお読みください。

リモートコントロールエントリーシステムの使いかた

ドアの施錠

ドアを施錠すると、非常点滅表示灯が点滅します。

1. キースイッチからキーを抜き取ります。
2. すべてのドアを閉めます。
3. リモコンの施錠 スイッチ①を押します。
4. 全ドアが施錠されます。
5. ドアハンドルを操作し、ドアが確実に施錠されたことを確認します。

ドアの解錠

ドアを解錠すると、非常点滅表示灯が点滅します。

1. リモコンの解錠 スイッチ②を押します。
2. 全ドアが解錠されます。

ドアが施錠された状態で、リモコンの解錠 スイッチ②を押してから30秒以内に次のいずれかの操作を行わないと、全ドアは自動的に施錠されます。

- いずれかのドアを開ける。
- キースイッチにキーを差し込む。

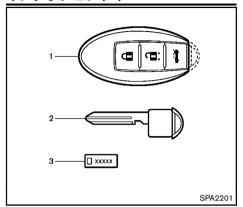
その30秒間にリモコンの解錠 スイッチ②を押すと、全ドアはその時点からさらに30秒が経過したあとに自動的に施錠されます。

トランクの解錠

1. キースイッチからキーを抜き取った状態で、リモコンのトランク スイッチ③を約1秒以上押します。
2. トランクリッドが開きます。

作動表示灯

作動表示灯④は、スイッチを押すと点灯します。点灯しない場合は、電池の消耗が考えられます。電池の交換方法については、“電池交換のしかた”（P.8-4）をお読みください。

インテリジェントキー★

1. インテリジェントキー（2個）
2. メカニカルキー（インテリジェントキー内）（2個）
3. キー番号タグ

インテリジェントキーは、インテリジェントキーを携帯することにより、キーを取り出すことなく全ドアの施錠·解錠やトランクの解錠、エンジンの始動ができます。作動環境や条件によっては作動しないことがあります。

インテリジェントキーを使用するときは、次のことをお守りください。

⚠ 注意

- インテリジェントキーは運転者が必ず携帯してください。

  エンジンの始動やドアの施錠·解錠など、車を操作するためにはなくてはならないものです。大切に保管してください。
- 駐車するときは、インテリジェントキーを車内に残したまま車から離れないでください。
- 極端に気温が低いときは、電池の性能が低下するため、システムが作動しないことがあります。

インテリジェントキーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、正常に作動しない場合があります。

- 近くにテレビ塔、発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき。
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき。

- インテリジェントキーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき。
- 近くで電波式リモコンを使用しているとき。
- インテリジェントキーをパソコンなどの電気製品の近くに置いたとき。
- コインパーキングに駐車したとき。
- 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき。

上記のような使用環境では、インテリジェントキー機能を使用する前に干渉の原因となる物を遠ざけるか、メカニカルキーを使用してください。

電池の寿命は使用状況によりますが、2年程度です。電池が切れた場合は、新しい電池と交換してください。

電池の交換方法については、“電池交換のしかた”(P.8-5) をお読みください。

インテリジェントキーをテレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。電池を著しく消耗することがあります。

インテリジェントキーの電池が切れたときは、ブレーキペダルを踏みながら、インテリジェントキーの裏側をエンジンスイッチに接触させます。その後ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押します。“エンジンスイッチ（インテリジェントキー付車）”(P.5-6)

本車両は電気的にステアリングロックを制御しているため、電源ポジションがLOCKのときにバッテリーがあがると、ステアリングロックの解除が行えなくなります。バッテリーがあがらないよう特に注意してください。

インテリジェントキーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- インテリジェントキーは送信機を内蔵している精密電子機器です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - — 長時間高温になる場所に置かない。
  - — 分解しない。
  - — 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
  - — 水にぬらさない。
  - — 超音波洗浄器などにかけない。
  - — 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない。
  - — テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない。
- インテリジェントキーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるとき衝撃により破損するおそれがあります。またドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車内に封じ込めるおそれがあります。

キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。

インテリジェントキー機能は、作動しないように切り替えることができます。インテリジェントキー機能の作動解除については、日産販売会社にご相談ください。

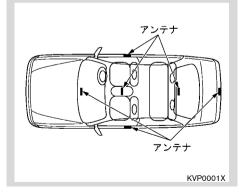
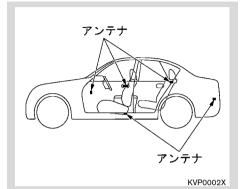
インテリジェントキーについて

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。

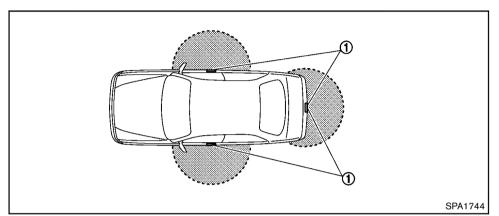
  ドア開閉時、各リクエストスイッチ操作時、エンジン始動時などにインテリジェントキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

KVP0001X

KVP0002X

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、インテリジェントキーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があるため、医療電気製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。
- 詳しくは、日産販売会社にお問い合わせください。

インテリジェントキーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。

- 電池を交換するとき以外は分解しない。（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。）
- 日本国内のみで使用する。

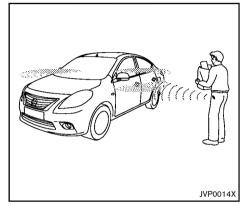
インテリジェントキーの作動範囲

インテリジェントキー機能は、インテリジェントキーがリクエストスイッチ①から規定の作動範囲内にあるときに使用できます。

インテリジェントキーの電池が消耗しているときや、付近に強力な電波が存在するときは、インテリジェントキーの作動範囲は狭くなり、インテリジェントキーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

作動範囲は、各リクエストスイッチ①から約80cm以内です。

インテリジェントキーがドアガラス、ハンドル、リヤバンパーに近づきすぎている場合、リクエストスイッチが作動しないことがあります。

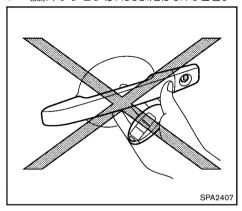
インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、インテリジェントキーを携帯している人以外でもリクエストスイッチを押して施錠·解錠できます。

インテリジェントキー機能の使いかた

次の場合はリクエストスイッチが作動しません。

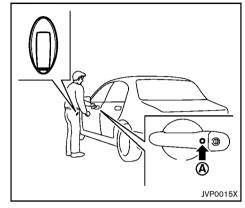
- インテリジェントキーが車内にあるとき。
- インテリジェントキーが作動範囲内にないとき。
- ドアが開いているか、確実に閉まっていないとき。
- インテリジェントキーの電池が消耗しているとき。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

- 電源ポジションがACCまたはONのとき。

SPA2407

- イラストのように、インテリジェントキーを手に持ったままドアハンドルのリクエストスイッチを押さないでください。ドアハンドルに近すぎると、作動しないことがあります。
- ドアハンドルのリクエストスイッチでドアを施錠したあとは、ドアハンドルを操作してドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- インテリジェントキーの封じ込み防止のため、ドアハンドルのリクエストスイッチを使用してドアを施錠するときは、インテリジェントキーを携帯していることを確認してからリクエストスイッチを操作してください。
- ドアハンドルのリクエストスイッチは、システムがインテリジェントキーを検出したときだけ作動します。
- インテリジェントキーを車内またはトランク内に置き忘れないよう、必ずキーを携帯してドアまたはトランクを施錠してください。
- リクエストスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一旦ドアハンドルを離してから再び引くと、ドアを開けることができます。

ドアハンドルリクエストスイッチの位置

JVP0015X

インテリジェントキーを携帯しているとき、作動範囲内でドアハンドルのリクエストスイッチⒶ（運転席ドアまたは助手席ドア）で、全ドアの施錠·解錠ができます。

ドアを施錠または解錠すると、非常点滅表示灯が点滅し、作動確認のブザーが鳴ります。詳細については、“非常点滅表示灯および車外警報ブザーの作動”（P.3-18）をお読みください。

ドアの施錠

1. 電源ポジションをOFFにします。
2. インテリジェントキーは、常に携帯してください。
3. すべてのドアを閉めます。
4. ドアハンドルのリクエストスイッチⒶ（運転席ドアまたは助手席ドア）を押します。
5. 全ドアが施錠されます。
6. ドアハンドルを操作し、ドアが確実に施錠されたか確認します。

キー封じ込み防止機能：

インテリジェントキーを車内に置き忘れたまま施錠するのを防ぐための機能が付いています。

- 運転席のドアを開けた状態で、運転席のロックノブまたはドアロックスイッチにより全ドアを施錠したあと、インテリジェントキーを車内に置き忘れたときは、運転席ドアを閉めたあとに全ドアが自動的に解錠され、ブザーが鳴ります。
- インテリジェントキーを車内に置き忘れたまま運転席のロックノブまたはドアロックスイッチでドアを施錠したときは、ロックノブまたはスイッチを操作したあとすぐに全ドアが自動的に解錠されます。

⚠ 注意

- 次のような場所に置いているときは、キー封じ込み防止機能が作動しないことがあります。
  - — インストルメントパネル上
  - — リヤパーセル上
  - — グローブボックス内
  - — ドアポケット内
  - — スペアタイヤ付近
  - — トランク内側の端
  - — 金属製のバッグの中
  - — 金属製のものの近く
- 周囲の電波環境によってはキー封じ込み防止機能が作動しないことがあります。
- インテリジェントキーが車外にあっても、車両に近づけすぎた場合、キー封じ込み防止機能が作動することがあります。

ドアの解錠

1. インテリジェントキーは常に携帯してください。
2. ドアハンドルのリクエストスイッチⒶを押します。
3. 全ドアが解錠されます。

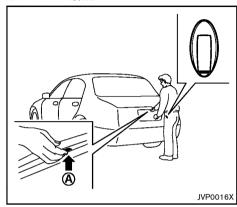
ドアハンドルを引きながら解錠しようとすると、ドアが解錠できないことがあります。一度ドアハンドルを戻すと自動的に解錠し、再度ドアハンドルを引くとドアを開けることができます。

オートロック機能：

ドアが施錠された状態で、リクエストスイッチを押してから約30秒以内に、次のいずれかの操作を行わなかった場合は、全ドアは自動的に施錠されます。

- いずれかのドアを開ける。
- エンジンスイッチを押す。

その30秒間にインテリジェントキーの解錠 🔓 スイッチを押すと、全ドアはその時点からさらに30秒が経過したあとに自動的に施錠されます。

トランクの解錠

1. インテリジェントキーは常に携帯してください。
2. トランクのリクエストスイッチⒶを押します。
3. トランクが解錠されます。
4. 車外警報ブザーが4回鳴ります。
5. トランクリッドを上げ、トランクを開けます。

⚠ 注意

インテリジェントキーの封じ込みを防ぐために、トランクを閉めるときはインテリジェントキーを携帯していることを確認してください。

キー封じ込み防止機能：

インテリジェントキーをトランク内に置き忘れたまま施錠するのを防ぐための機能が付いています。

全ドアを施錠し、インテリジェントキーをトランク内に残したままトランクリッドを閉めると、ブザーが鳴りトランクリッドが開きます。

⚠ 注意

次のような場所に置いているときは、キー封じ込み防止機能が作動しないことがあります。

- スペアタイヤ付近
- トランク内側の端
- 金属製のバッグの中
- 金属製のものの近く

バッテリーセーバー

バッテリーあがりを防止するため、次のすべての条件がそろった状態で約60分間経過すると、自動的に電源がOFFになります。

- 電源ポジションがACCのとき。
- 全ドアが閉まっているとき。
- セレクトレバーが P のとき。

警告灯・警報ブザー

インテリジェントキー機能では、誤操作などによる予期せぬ車両の動き出しや、車両盗難などを防ぐため、車内外で警報ブザーが鳴り、警告灯が点灯または点滅します。

詳しくは、"トラブルシューティング"(P.3-16) および "警告灯・表示灯の見かた"(P.2-11) をお読みください。

KEY警告灯：

P 戻し忘れ警告灯：

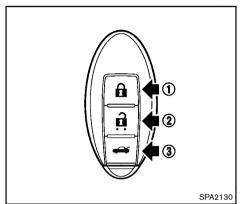
注意

警報ブザーが鳴るか、警告灯が点灯・点滅したときは、必ず車両およびインテリジェントキーの確認を行ってください。

トラブルシューティング

症状		考えられる原因	対処方法
エンジンスイッチを押してエンジンを停止させたとき	メーター内の P 戻し忘れ警告灯が点灯し、車内警報ブザーが鳴ります。	セレクトレバーが P になっていない。	セレクトレバーを P にしてください。
セレクトレバーを P にしたとき	車内警報ブザーが鳴ります。	電源ポジションがACCまたはONのままになっている。	電源ポジションをOFFにしてください。
運転席ドアを開けたとき	車内警報ブザーが鳴ります。	電源ポジションがACCのままになっている。	電源ポジションをOFFにしてください。
降車後にドアを閉めたとき	メーター内のKEY警告灯が黄色で点滅し、車外警報ブザーと車内警報ブザーが鳴ります。	電源ポジションがACCまたはONのままになっている。	電源ポジションをOFFにしてください。
	メーター内の P 戻し忘れ警告灯が点灯し、車外警報ブザーが鳴ります。	電源ポジションがACCまたはOFFで、セレクトレバーが P になっていない。	セレクトレバーを P にするか、電源ポジションをOFFにしてください。
車内のロックノブを施錠してドアを閉めたとき	車外警報ブザーが鳴り、全ドアが解錠されます。	インテリジェントキーが車内またはトランク内にある。	インテリジェントキーは、常に携帯してください。
ドアハンドルのリクエストスイッチを押してドアを施錠したとき	車外警報ブザーが鳴ります。	インテリジェントキーが車内またはトランク内にある。	インテリジェントキーは、常に携帯してください。
		電源ポジションがACCまたはONのままになっている。	電源ポジションをOFFにしてください。
		ドアが半ドアになっている。	ドアを完全に閉めてください。
インテリジェントキーの施錠 スイッチを押し、ドアを施錠したとき	車外警報ブザーが鳴ります。	ドアが半ドアになっている。	ドアを完全に閉めてください。
トランクリッドを閉めたとき	車外警報ブザーが鳴り、トランクリッドが開きます。	インテリジェントキーがトランク内または車内にある。	インテリジェントキーは、常に携帯してください。
エンジンスイッチを押してエンジンを始動させたとき	メーター内のKEY警告灯が緑色で点滅します。	電池が消耗している。	電池を新品と交換してください。“電池交換のしかた”(P.8-5)
	メーター内のKEY警告灯が黄色で点滅します。	インテリジェントキーが車内にない。	インテリジェントキーは、常に携帯してください。

リモートコントロールエントリー機能

SPA2130

作動範囲

離れたところ（約1m）から全ドアの施錠･解錠とトランクの解錠ができます。周囲の状況によっては作動する距離が変わることがあります。

リモートコントロールエントリー機能は次の場合は作動しません。

- インテリジェントキーが作動範囲内にないとき。
- インテリジェントキーの電池が消耗しているとき。

電池の交換方法については、“電池交換のしかた”(P.8-5) をお読みください。

ドアの施錠

ドアを施錠すると、非常点滅表示灯が点滅し、作動確認のブザーが鳴ります。

1. 電源ポジションをOFFにし、インテリジェントキーを携帯してください。
2. すべてのドアを閉めます。
3. インテリジェントキーの施錠 スイッチ①を押します。
4. 全ドアが施錠されます。
5. ドアハンドルを操作し、ドアが確実に施錠されたか確認します。

注意

インテリジェントキーでドアを施錠したあとは、ドアハンドルを操作してドアが確実に施錠されたか確認してください。

ドアの解錠

ドアを解錠すると、非常点滅表示灯が点滅し、作動確認のブザーが鳴ります。

1. インテリジェントキーの解錠 スイッチ②を押します。
2. 全ドアが解錠されます。

オートロック機能 ：

ドアが施錠された状態で、インテリジェントキーの解錠 スイッチ②を押してから30秒以内に次のいずれかの操作を行わなかった場合は、全ドアは自動的に施錠されます。

- いずれかのドアを開く。
- エンジンスイッチを押す。

その30秒間にインテリジェントキーの解錠 スイッチ②を押すと、全ドアはその時点からさらに30秒が経過した後に自動的に施錠されます。

トランクを開くとき

トランクを解錠すると、作動確認のブザーが鳴ります。

1. インテリジェントキーのトランク スイッチ③を約1秒以上押します。
2. トランクが解錠されます。
3. トランクリッドを上げ、トランクを開けます。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

非常点滅表示灯および車外警報ブザーの作動

インテリジェントキー機能またはリモートコントロールエントリー機能でドアを施錠·解錠すると、非常点滅表示灯が点滅し、車外警報ブザーが鳴ります。

次の表は、ドアの施錠·解錠時に非常点滅表示灯と車外警報ブザーがどのように作動するかを示しています。

	ドア施錠	ドア解錠	トランク解錠
インテリジェントキー機能（リクエストスイッチ）	非常点滅表示灯 - **1回** 車外警報ブザー - **1回**	非常点滅表示灯 - **2回** 車外警報ブザー - **2回**	非常点滅表示灯 - **非作動** 車外警報ブザー - **4回**
リモートコントロールエントリー機能（ スイッチ、 スイッチ、 スイッチ）	非常点滅表示灯 - **1回** 車外警報ブザー - **1回**	非常点滅表示灯 - **2回** 車外警報ブザー - **2回**	非常点滅表示灯 - **非作動** 車外警報ブザー - **4回**

エンジンイモビライザー (盗難防止装置)★

インテリジェントキー付車には、エンジンイモビライザー（盗難防止装置）がついています。

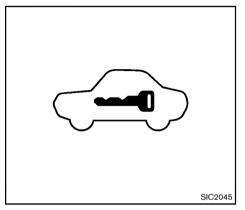
エンジンイモビライザーは、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外でのエンジンの始動を禁止するシステムです。

エンジンイモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーターが点滅します。

⚠ 警告

- エンジンが始動できない場合は、一度電源ポジションをOFFにして、5秒以上経過してから再始動してください。
- 上記の操作を行ってもエンジンが始動できない場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
- 電源ポジションをONにしたときセキュリティーインジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

セキュリティーインジケーター

SIC2045

セキュリティーインジケーターはメーター内にあります。イモビライザーの状態を表示します。

電源ポジションがON以外のときに点滅します。セキュリティーインジケーターは、車両のセキュリティーシステムが正常なことを表示します。

システムに異常がある場合は、電源ポジションがONのときも点灯し続けます。

電源ポジションをONにしたあともインジケーターが点灯し続けるか、エンジンがかからない場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

エンジンフード

⚠ 警告

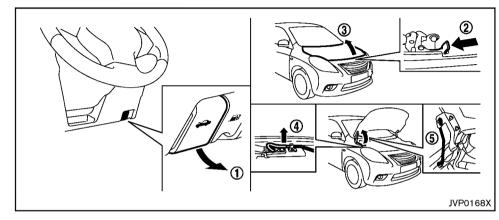
- 走行前に、エンジンフードが確実に閉まっていることを、必ず確認してください。ロックされていないと、走行中エンジンフードが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンルームから蒸気や煙が出ているときは、絶対にエンジンフードを開けないでください。やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 風が強いときに開けると、風にあおられますので、しっかり持ってゆっくり開けてください。
- エンジン回転中やエンジン停止直後はステーが高温になるため、やけどをするおそれがあります。ステーを持つ前に必ず確認してください。
- エンジンフードを開けたときは、フードに頭などをぶつけないように注意してください。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

- エンジンがかかっているとき、エンジンルーム内に手、衣服、工具などを入れないでください。思わぬケガをするおそれがあります。
- エンジン停止直後は、排気系部品、ラジエーターなどの高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- エンジンフードを閉めるときは、手などを挟まないようにゆっくり降ろしてください。
- ワイパーアームを起こしたままエンジンフードを開けないでください。エンジンフードやワイパーを損傷します。
- エンジンフードを閉める前に、確実にステーをスロットから外してフック（格納部）に固定してください。ステーが破損するおそれがあります。

開けかた

1. 運転席右下にあるオープナー①を引きます。
2. エンジンフード先端のすきの間に手を入れ、レバー②を横に押します。
3. エンジンフード③を持ち上げます。
4. ステー④を取り外し、スロット⑤に差し込みます。

閉めかた

1. エンジンフードを支えながらステーをスロット⑤から外し、元の位置に戻します。
2. エンジンフードをゆっくり降ろし、20～30cmの高さからエンジンフードを落とし、確実にロックします。

トランク

⚠ 警告

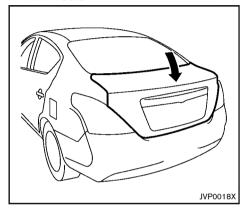
- トランクの中に人は乗らないでください。閉じ込められると、中から開けられません。お子さまが入らないよう注意してください。
- お子さまがトランクで遊んで、自らが閉じ込められてしまうと、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまが車のまわりにいるときは、トランクに入り込まないように注意してください。
- 車を使用しないときは、ドアを施錠しトランクを閉め、車のキーはお子さまの手の届かない所に保管してください。
- 走行前にトランクが確実に閉まっていることを必ず確認してください。トランクを開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

⚠ 注意

- トランクリッドは必ず全開してください。途中で止めると突然閉まるおそれがあります。
- 風が強いときに開けると、風にあおられ急に閉まることがありますので特に注意してください。
- トランクを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
- キーをトランク内に置き忘れないでください。

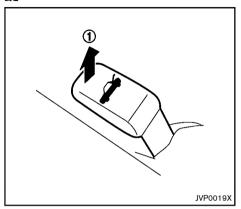
トランクは、次のいずれかの操作で開けることができます。

- トランクオープナーレバー★を使用する。
- リモコンのトランク 🚘 スイッチを押す。（リモートコントロールエントリーシステム付車）
- インテリジェントキーのトランク 🚘 スイッチを押す。（インテリジェントキー付車）
- トランクのリクエストスイッチを押す。（インテリジェントキー付車）
- キーを使用する。

JVP0018X

トランクを閉めるには、確実にロックするまで押しつけます。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

トランクオープナーレバーによる解錠★

JVP0019X

運転席シート下側にあるトランクオープナーレバー①を引きます。

リモコンによる解錠 (リモートコントロールエントリーシステム付車)

リモコンのトランク スイッチを約1秒以上押して解錠します。 “リモートコントロールエントリーシステム★”(P.3-6)

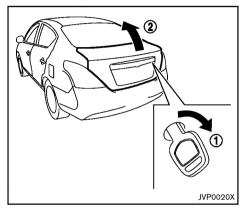
インテリジェントキーによる解錠(インテリジェントキー付車)

インテリジェントキーのトランク スイッチを約1秒以上押して解錠します。 “リモートコントロールエントリー機能”(P.3-17)

リクエストスイッチによる解錠(インテリジェントキー付車)

インテリジェントキーを携帯してトランクのリクエストスイッチを押します。 “インテリジェントキー★”(P.3-8)

キーによる解錠

JVP0020X

キーをキーシリンダーに差し込み、右側に回します①。

トランクリッドが解錠します②。

燃料補給口

⚠ 警告

- 燃料補給時は、次のことを必ずお守りください。

  — エンジンを止める。

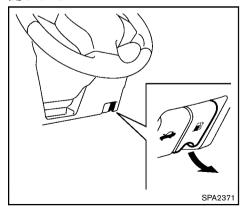
  — 車のドアや窓を閉める。

  — タバコなどの火気を近づけない。

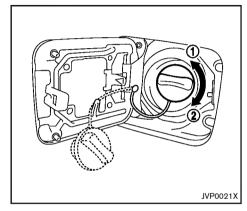
  — 気化した燃料を吸わない。

- 補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。放電による火花で燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。
- 補給作業はひとりで行ってください。作業中に車内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ挿入してください。給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- 給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしないでください。継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には圧力が加わっていることがあります。燃料の吹き出しによる傷害を防止するために、キャップを1/2回転させ、“シュー”という音がしなくなるまで待ってからキャップを取り外してください。
- 日産純正品以外のキャップは使用しないでください。

開けかた

SPA2371

燃料補給口のリッドを開けるときは、オープナーを引きます。

キャップについて

JVP0021X

取り外すときは、キャップを左①にゆっくり回します。給油後は、キャップを3回以上カチッという音がするまで右②に回して閉めます。

⚠ 警告

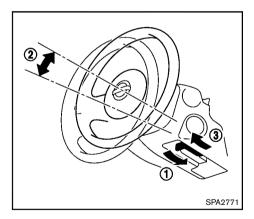
キャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

燃料が車体に付着したときは、塗装が損傷しないよう水で洗い流してください。

ハンドル

⚠ 警告

- ハンドルの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節をすると前方不注意となり危険です。
- 調節したあとは確実に固定されたことを確認してください。ハンドルが固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ロックレバーを押し下げ①、ハンドルを上下に動かし②、適切な位置で止めます。

ロックレバーを引き上げ③、ハンドルを固定します。

ミラー

⚠ 警告

運転する前にすべてのミラーの位置を調節してください。運転中はミラーの位置を調節しないでください。走行中に調節をすると前方不注意となり危険です。

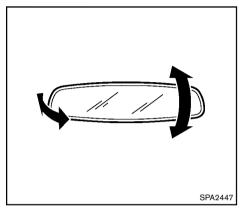
ルームミラー

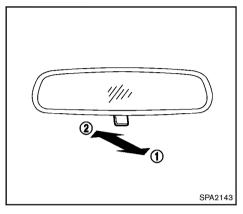
⚠ 警告

防眩への切り替えは必要なときのみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ルームミラーおよびそのまわりにアクセサリーや電子機器を取り付けないでください。取り付けると、インテリジェントキー★またはリモートコントロールエントリーシステム★が正常に作動しなくなることがあります。

SPA2447

ルームミラー本体を持って、後方視界が十分確認できる位置に角度を調節します。

SPA2143

後続車のヘッドライトがまぶしいときは、防眩切り替えレバーを①の方向に引きます。

後方視界が最適になるよう、日中は切り替えレバーを②の方向に押します。

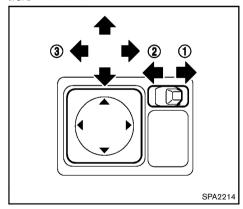
ドアミラー

⚠ 警告

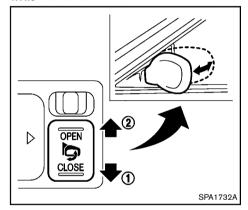
- 鏡面の調節は走行前に行ってください。走行中の調節は前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

- 作動中は絶対にドアミラーに触れないでください。指を挟まれたり、ミラーが損傷したりするおそれがあります。
- ドアミラーを格納した状態では絶対に走行しないでください。後方確認ができないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアミラーに映る映像は、実際より遠くに見えるので注意してください。

調節のしかた

キースイッチ（電源ポジション）がACCまたはONのときに作動します。

1. スイッチを動かし、右側ミラー①または左側ミラー②を選択します。
2. 角度調節スイッチ③を上下左右に押して、後方が十分確認できる位置に調節します。

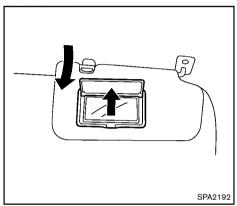
格納のしかた

キースイッチ（電源ポジション）がACCまたはONのときに作動します。

ドアミラーは、ドアミラー格納スイッチのCLOSE側①を押すと自動的に格納します。元に戻すときは、OPEN側②を押します。

⚠ 注意

- ドアミラーの開閉操作を連続して行うと、作動が停止することがあります。
- 作動中はミラーに触れないでください。指を挟まれたり、ミラーが損傷したりするおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができないため危険です。
- ミラーを手動で開閉すると、走行中にミラーが前方または後方に動くことがあります。手動で開閉した場合は、走行前に電動で開閉操作を行ってください。

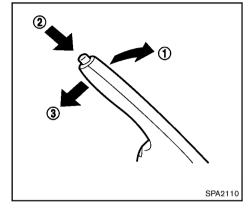
運転席バニティミラー★

SPA2192

バニティミラーを使用するには、サンバイザーを下に下げて、カバーを引き上げます。

パーキングブレーキ

⚠ 警告

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 窓から身を乗り入れてパーキングブレーキを解除しないでください。車が動き出したときにブレーキペダルが踏めず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまや介護を必要とする方だけを車内に残して、車から離れないでください。誤ってパーキングブレーキを操作して、重大な傷害につながるおそれがあります。

SPA2110

パーキングブレーキをかけるには、パーキングブレーキレバーを引き上げます①。

パーキングブレーキを解除するには、ブレーキペダルを確実に踏み込みます。パーキングブレーキレバーをわずかに引き上げ、ボタン②を押し、レバーを完全に下げます③。

走行前に、ブレーキ警告灯が消灯しているか必ず確認してください。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

4 エアコン、オーディオ

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

安全面での注意事項

⚠ 警告

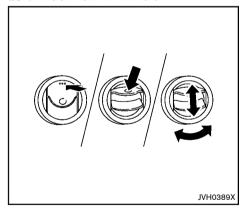
- 運転中はエアコンやオーディオ★を調節しないでください。
- 異常な作動状況が生じた場合（機器に異物が入っている、液体をこぼした、機器から煙が出ているのに気づいたなど）は、ただちに機器の使用を中止し、日産販売会社に連絡してください。放置すると、事故、火災、感電につながるおそれがあります。

吹き出し口について

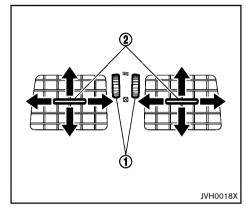
⚠ 注意

特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間連続してあたらないように運転者が注意してください。 低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

前席左右／中央★吹き出し口

JVH0389X

風向きや風量を調節することができます。

前席中央吹き出し口★

JVH0018X

ダイヤル①を上下に動かし、吹き出し口を開閉します。

⊠ ：ダイヤルをこの記号の方向に動かすと、吹き出し口が閉まります。

≋ ：ダイヤルをこの記号の方向に動かすと、吹き出し口が開きます。

吹き出し口の風向きは、中央のツマミ②を上下左右に動かし、適切な位置に合わせて調節します。

エアコンの使いかた

⚠ 警告

- エアコンは、エンジンをかけた状態で使ってください。
- お子さまや介護を必要とする方だけを車内に残して、絶対に車から離れないでください。また、ペットも車内に残さないでください。誤ってスイッチを操作して、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。炎天下では、密閉した車内の温度は短時間で急速に上昇し、人や動物にとって重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。
- 車内の空気が悪くなり、窓ガラスがくもることがあるため、内気循環で長時間使用しないでください。
- 運転中はエアコンを操作しないでください。

冷房と除湿暖房は、エンジン回転中のみ作動します。キースイッチ（電源ポジション）をONにすると、エンジンが回転していなくても送風はできます。

アイドリングストップによってエンジンが停止すると、冷房および除湿機能が働かなくなります。

クリーンフィルターについて

ほこり、花粉、粉じんなどを集じんするためのクリーンフィルターを装着しています。集じん性能を維持するため、メンテナンスは確実に行ってください。

交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと

知識：

- 交換時期に満たない場合でも、エアコンやヒーターの吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。
- クリーンフィルターの取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。

長期間エアコンを使わないとき

エアコン装置のオイルの循環を切らさないために、ときどき冷房または除湿暖房をしてください。

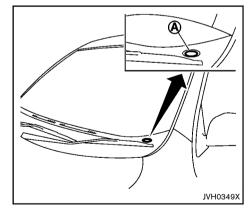
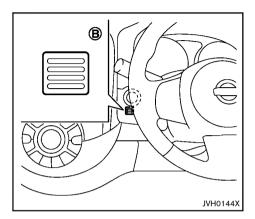
知識：

外気温が0°C近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。

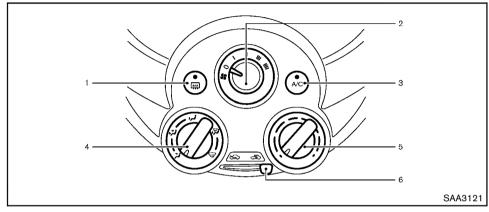
エアコンガスについて

本車両のエアコンガスは新冷媒を使用しています。

- エアコンガスは必ず新冷媒HFC134a（R134a）を入れてください。
- 地球温暖化防止のため大気放出をしないでください。
- エアコンの冷え具合が悪いときは、日産販売会社にご相談ください。

自動温度調節について（フルオートエアコン付車）

冷却水温と外気温が低いときは、足元からの送風機能が最長で150秒間は作動しないことがありますが、異常ではありません。水温が上昇すると、足元からの送風は正常に作動するようになります。

自動温度調節は日射センサーⒶと温度センサーⒷで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

オゾンセーフマニュアルエアコン★

1. リヤウインドーデフォッガースイッチ （P.2-20）
2. 風量切り替えダイヤル
3. A/C（エアコン）スイッチ
4. 吹き出し口切り替えダイヤル
5. 温度調節ダイヤル
6. 内外気切り替えレバー（外気導入 ／内気循環 ）

エアコンを切るには、風量切り替えダイヤル をOFF(0)位置に合わせます。

知識：

次の場合は、アイドリングストップは作動しません。

- 吹き出し口切り替えダイヤルがデフロスター位置で、かつ風量切り替えダイヤル がOFF(0)位置以外のとき。
- リヤウインドーデフォッガースイッチ がONのとき。

各スイッチの使いかた

外気導入：

内外気切り替えレバーを 位置に合わせます。外気を取り入れたいときや、タバコの煙などを外に出したいときに使います。

内気循環：

内外気切り替えレバーを 位置に合わせます。トンネル内や渋滞などで外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときに使います。

吹き出し口の調節：

吹き出し口切り替えダイヤルを回し、吹き出し口を切り替えます。

- — 中央と左右吹き出し口から送風
- — 中央、左右吹き出し口、足元から送風
- — 主に足元から送風
- — デフロスター吹き出し口と足元から送風
- — 主にデフロスター吹き出し口から送風（デフロスター位置）

風量調節：

風量切り替えダイヤル を右側に回すと、風量は多くなります。

風量切り替えダイヤル を左側に回すと、風量は少なくなります。

A/C（エアコン）スイッチ：

A/C（エアコン）スイッチを押すごとに、エアコン（冷房·除湿機能）の作動／停止が切り替わります。作動しているときは、スイッチの表示灯が点灯し、停止しているときは消灯します。

温度調節：

温度調節ダイヤルを右側に回すと、高温になります。

温度調節ダイヤルを左側に回すと、低温になります。

ヒーターの作動

暖房：

足元から暖気を送風するために使用します。

1. 通常の暖房は、内外気切り替えレバーを 位置に合わせます。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルを 位置に合わせます。
3. 風量切り替えダイヤルを回して風量を調節します。
4. 温度調節ダイヤルを右側に回して温度を設定します。

暖房(上半身、足元に送風)：

左右と中央の吹き出し口から冷気が、足元の吹き出し口からは暖気が吹き出されます。温度調節ダイヤルを最高温度または最低温度位置に合わせると、左右／中央吹き出し口と足元吹き出し口から吹き出される空気は同一温度になります。

1. 内外気切り替えレバーを 位置に合わせます。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルを 位置に合わせます。
3. 風量切り替えダイヤルを回して風量を調節します。
4. 温度調節ダイヤルを回して温度を設定します。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

エアコンの作動

冷房：

冷房と除湿を行います。

1. 内外気切り替えレバーを 位置に合わせます。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルを 位置に合わせます。
3. 風量切り替えダイヤルを回して風量を調節します。
4. A/CスイッチをONにします。（スイッチの表示灯が点灯）
5. 温度調節ダイヤルを左側に回して温度を設定します。

- 外気温が高いときに早く冷房を効かせたいときは、内外気切り替えレバーを 位置に合わせます。通常は、必ず内外気切り替えレバーを 位置に合わせてください。
- 高温多湿状態では、空気が急激に冷却され吹き出し口から霧が吹き出すことがありますが異常ではありません。

除湿暖房：

暖房と除湿を行います。

1. 内外気切り替えレバーを 位置に合わせます。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルを 位置に合わせます。
3. 風量切り替えダイヤルを回して風量を調節します。
4. A/CスイッチをONにします。（スイッチの表示灯が点灯）
5. 温度調節ダイヤルを右側に回して温度を設定します。

窓ガラスのくもり取り ：

窓ガラスのくもり取りと除湿を行います。

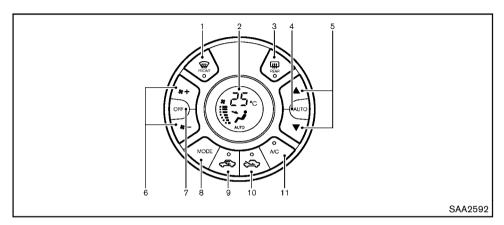
1. 内外気切り替えレバーを 位置に合わせます。
2. 吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置 に合わせます。
3. 風量切り替えダイヤルを回して風量を調節します。
4. A/CスイッチをONにします。（スイッチの表示灯が点灯）
5. 温度調節ダイヤルを回して温度を設定します。
6. ドアミラーがはっきりと見えるよう、左右吹き出し口を窓ガラスに向け、くもりを取ります。

注意

- 吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置 にしているときは、エアコンの設定温度を低温にすると、フロントウインドーガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。
- 吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置 にしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

知識：

早くくもりを取りたいときは、温度を高温にし、風量を多くします。

オゾンセーフフルオートエアコン★

1. デフロスタースイッチ FRONT
2. 表示部
3. リヤウインドーデフォッガースイッチ REAR （P.2-20）
4. AUTOスイッチ
5. 温度調節スイッチ ▲ ／ ▼
6. 風量切り替え +スイッチ／ -スイッチ
7. OFFスイッチ
8. MODE（吹き出し口切り替え）スイッチ
9. 内気循環スイッチ
10. 外気導入スイッチ
11. A/C（エアコン）スイッチ

知識：

次の場合は、アイドリングストップは作動しません。

- デフロスタースイッチ FRONT がONのとき。
- リヤウインドーデフォッガースイッチ REAR がONのとき。

オートで使うとき

吹き出し口、風量、内外気切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。

エアコンを切るときは、OFFスイッチを押します。

冷房および除湿暖房：

1. AUTOスイッチを押します。
2. A/Cスイッチの表示灯が点灯しないときは、A/Cスイッチを押します。（スイッチの表示灯が点灯）
3. 温度調節スイッチ（ ▲ または ▼ ）を押し、希望の設定温度に調節します。
4. 外気導入スイッチ または内気循環スイッチ の表示灯が点灯している方のスイッチを押し続け、自動内外気調節モードに切り替えます。（スイッチの表示灯が2回点滅）

高温多湿状態では、空気が急激に冷却され吹き出し口から霧が吹き出すことがありますが異常ではありません。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

暖房（A/Cオフ）：

1. AUTOスイッチを押します。
2. A/Cスイッチの表示灯が点灯しているときは、A/Cスイッチを押します。（スイッチの表示灯が消灯）
3. 温度調節スイッチ（ ▲ または ▼ ）を押し、希望の設定温度に調節します。

- 外気温よりも低い温度に設定しないでください。温度が適切に調節されなくなることがあります。
- 窓ガラスがくもったときは、A/Cオフ暖房ではなく、除湿暖房を使用してください。

窓ガラスのくもり取り：

1. デフロスタースイッチ FRONT を押します。（スイッチの表示灯が点灯）
2. 温度調節スイッチ（ ▲ または ▼ ）を押し、希望の設定温度に調整します。

- フロントウインドー外側の霜を早く取るには、温度を高温に設定し、風量を最大レベルに設定します。
- フロントウインドーのくもりが取れたあとは、デフロスタースイッチ FRONT を再び押します。（スイッチの表示灯が消灯）
- デフロスタースイッチ FRONT を押すと、外気温が-2°C以上のときに、フロントウインドーのくもりを取るためにエアコンが自動的に作動します。内気循環モードは自動的にOFFに切り替わり、くもり取りの性能を高めるために、外気導入モードになります。

⚠ 注意

デフロスタースイッチ FRONT をONにしているときは、エアコンの設定温度を低くすると、フロントウインドーガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

マニュアルで使うとき

エアコンを希望する設定に調節するときに使います。（表示部に“MANUAL”と表示されます。）

エアコンを切るときは、OFFスイッチを押します。

風量調節：

風量切り替えスイッチ（+ または -）を押します。風量を多くしたいときは、+ スイッチを押します。風量を少なくしたいときは、- スイッチを押します。

風量を自動調節に変更するには、AUTOスイッチを押します。

吹き出し口の調節：

MODEスイッチを押し、吹き出し口を変更します。

— 中央と左右吹き出し口から送風
— 中央、左右吹き出し口、足元から送風
— 主に足元から送風
— デフロスター吹き出し口と足元から送風

温度調節：

温度調節スイッチ（ ▲ または ▼ ）を押し、希望の設定温度に調節します。温度を上げるには、 ▲ スイッチを押します。温度を下げるには、 ▼ スイッチを押します。

外気導入：

外気導入に切り替えるときは、外気導入スイッチを押します。（スイッチの表示灯が点灯） 外気を取り入れたいときや、タバコの煙などを外に出したいときに使います。

内気循環：

内気循環に切り替えるときは、内気循環スイッチ を押します。（スイッチの表示灯が点灯）トンネル内や渋滞などで外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときに使います。

自動内外気調節：

外気導入スイッチ または内気循環スイッチ の表示灯が点灯している方のスイッチを押し続け、自動内外気調節モードに切り替えます。（スイッチの表示灯が2回点滅）

オーディオについて★

オーディオまたはナビゲーションシステム用取扱説明書（別冊）をお読みください。

安全運転のために

運転中は､車外の音が聞こえる適度な音量でお聞きください。

⚠ 警告

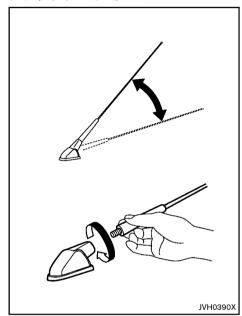
音量が大きすぎると車外の状況が判らないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、走行中の操作は前方不注意となるおそれがあります。車を停止させてから操作してください。

ラジオの受信について

ラジオの受信は、車両移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最適な受信状態を維持できないことがあります。

知識：

オーディオを聴いているとき、車内、または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

アンテナについて

アンテナの角度は調節できます。
アンテナの根元を持って動かします。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

⚠ 注意

アンテナを調節するときや脱着するときは、周囲の安全を十分に確認してから行ってください。

知識：

アンテナが当たるような場所以外では倒したままにしないでください。車体に当たり、塗装面を傷つけるおそれがあります。

外しかた

アンテナは必要に応じて取り外すことができます。

アンテナの根元を持ち、反時計回りに回して取り外します。

アンテナを取り付けるときは、時計回りに回して締め付けます。

⚠ 注意

- 天井の低い車庫に進入する前にアンテナを倒してください。
- 次のような場合には、必ずアンテナを取り外してください。破損するおそれがあります。
  — 洗車機を使うとき。
  — ボディカバーを掛けるとき。
  — 降雪時に長時間駐車するとき。

5 走行するとき

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

ならし運転

走行距離が1,600kmに達するまでは、エンジン性能を最大限に引き出し、お車の信頼性と経済性が実現されるよう、次の推奨事項に従ってください。推奨事項に従わないと、エンジン寿命が短くなり、エンジン性能が低下するおそれがあります。

- 高速、低速を問わず、長時間、一定の速度で走行しない。
- エンジンの回転数を4,000rpm以上に上げない。
- アクセルを完全に踏み込んで走行しない。
- 急発進は避ける。
- 可能な限り急ブレーキは避ける。

エンジンをかける前に

⚠ 警告

車両の走行特性は、荷物の追加や荷物の積載場所だけでなく、装備（ルーフラックなど）の追加によっても大きく変化します。状況に応じて運転のしかたや速度を調節してください。特に、重い荷物を積んでいるときは、十分に速度を落として走行してください。

- 車両周囲の安全を確認してください。
- タイヤの外観と状態を目視点検してください。また、空気圧が適正か確認してください。
- 窓ガラスやランプ類が汚れていないか点検してください。
- シートとヘッドレスト★ の位置を調節してください。
- ルームミラーとドアミラーの位置を調節してください。
- シートベルトを着用し、全乗員に着用を指示してください。
- すべてのドアが閉まっているか確認してください。
- キースイッチ（電源ポジション）をONにして警告灯の作動状況を点検してください。
- メンテナンスノートに記載されている整備項目を定期的に点検してください。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

走行時の注意事項

⚠ 警告

- お子さまや介護を必要とする方だけを車内に残さないでください。また、ペットも車内に残さないでください。誤ってスイッチを操作して、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。さらに炎天下では、密閉した車内の温度は短時間で急速に上昇し、人や動物にとって重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。
- お車の周囲で遊んだり、トランクに閉じ込められたりして重大な傷害につながらないよう、お子さまは十分に注意してください。また、お車を使用していないときはトランクを閉めて施錠し、お子さまの手の届かない場所にキーを保管してください。

走行時の注意点

状況に応じた運転は、安全性と快適性のために不可欠です。運転者は、状況に応じた運転を心掛けてください。

エンジンが冷えているときの始動

エンジンが冷えているときはエンジン回転数が上がるため、セレクトレバーを動かすときは特に注意してください。

荷物の積載

荷物とその積載位置、装備（トレーラー連結装置、ルーフの荷物キャリアなど）の取り付けによって車両の走行特性は大きく変化します。状況に応じて運転のしかたや速度を調節してください。

雨天時の運転

- 急加速や急ブレーキは避けてください。
- 急なハンドル操作や車線変更は避けてください。
- 通常よりも長い車間距離を確保してください。

水たまりや水流によって路面が水で覆われているときは、横滑りや制御不能の原因になるハイドロプレーニング現象を防ぐため、スピードを落としてください。摩耗したタイヤではこの現象が発生しやすくなります。

冬季の運転

- 慎重な運転を心がけてください。
- 急加速や急ブレーキは避けてください。
- 急なハンドル操作や車線変更は避けてください。
- ハンドルはゆっくりと操作してください。
- 通常よりも長い車間距離を確保してください。

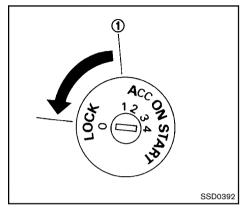
キースイッチ（リモートコントロールエントリーシステム付車）

⚠ 警告

走行中は絶対にキーを抜いたり、キースイッチをLOCKにしないでください。ステアリングがロックされて車両の制御ができなくなり、車両に重大な損傷が生じたり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンを止めたままオーディオなどを長時間つけておいたり、キースイッチをACCまたはONにしたまま長時間放置しないでください。バッテリーがあがり、エンジンの始動ができなくなります。

SSD0392

セレクトレバーを P に入れないとキースイッチをLOCKにできません。必ずセレクトレバーを P に入れてください。

キースイッチをLOCKにできない場合は、次の操作を行ってください。

1. セレクトレバーを P に入れます。
2. キースイッチをONの方向にわずかに回します。
3. キースイッチをLOCK位置に回します。
4. キーを抜き取ります。

キースイッチがLOCKのときは、セレクトレバーを P から動かすことはできません。セレクトレバーは、ブレーキペダルを踏んでキースイッチをONにすると動かすことができます。

OFF位置①はLOCKとACCの間にあります。（キースイッチ上に表示はありません。）

ステアリングロック

ステアリングロックのしかた

1. キースイッチをLOCKにします。
2. キーを抜き取ります。
3. ステアリングを直進位置から時計回りに1/6回転させます。

ステアリングロック解除のしかた

1. キーをキースイッチに差し込みます。
2. ステアリングを左右に軽く回しながらキースイッチをゆっくりと回します。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

キースイッチ位置

LOCK(0)

キーを抜き差しできる位置。
(ステアリングロックが作動する位置。)

OFF(1)

電源が切れる位置。

ACC(2)

オーディオ★、ドアミラーなどが使える位置。

ON(3)

すべての電装品が使える位置。

START(4)

エンジンを始動する位置。

⚠ 注意

エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離してください。

エンジンスイッチ（インテリジェントキー付車）

エンジンスイッチ操作時の注意事項

⚠ 警告

緊急時以外は走行中にエンジンスイッチを操作しないでください。エンジンスイッチを続けて3回押すか、2秒以上押し続けるとエンジンが停止します。また、ステアリングがロックされて車両の制御ができなくなり、車両に重大な損傷が生じたり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

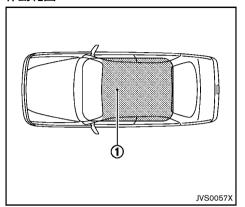
エンジンを止めたままオーディオなどを長時間つけておいたり、電源ポジションをACCまたはONにしたまま長時間放置しないでください。バッテリーがあがり、エンジンの始動やステアリングロックの解除ができなくなります。

エンジンスイッチを操作する前に、必ずセレクトレバーを P に入れてください。

インテリジェントキー

インテリジェントキーは、キーをポケットやカバンから取り出さずにエンジンをかけることができます。作動環境や条件により、インテリジェントキーが作動しないことがあります。

⚠ 注意

- 運転中はインテリジェントキーを携帯してください。
- 駐車するときは、絶対にインテリジェントキーを車内に置き忘れないでください。
- バッテリーがあがると電源ポジションを切り替えられなくなり、ステアリングロックが作動している場合は、ステアリングを回すことができなくなります。できるだけ早くバッテリーを充電してください。“バッテリーがあがったときは”(P.6-9)

作動範囲

インテリジェントキーがイラストの作動範囲内①にあるときだけ、インテリジェントキー機能を使用してエンジンを始動できます。

インテリジェントキーの電池が消耗しているときや、付近に強力な電波、ノイズがあるときは、インテリジェントキーの作動範囲は狭くなり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

インテリジェントキーが作動範囲内にあるときは、誰でも（インテリジェントキーを携帯していない人でも）エンジンスイッチを押し、エンジンを始動させることができます。

- トランク内は作動範囲外ですが、状況によってはインテリジェントキーが作動する場合があります。
- インテリジェントキーをインストルメントパネル上、リヤパーセル上、グローブボックス内、ドアポケット内などに入れたり、車内の隅に置くと作動しないことがあります。
- 車外でもドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、作動する場合があります。

ステアリングロック

盗難を防止するためのステアリングロック機能が付いています。

ステアリングロックのしかた

1. 電源ポジションをOFFにします。エンジンスイッチの表示灯が消灯します。
2. ドアを開閉します。電源ポジションがLOCKに切り替わります。
3. ステアリングを直進位置から時計回りに1/6回転させます。

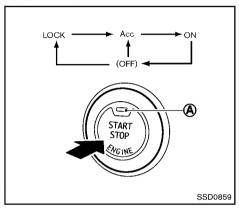
ステアリングロック解除のしかた

ステアリングロックは、エンジンスイッチを押すと自動的に解除されます。

⚠ 注意

- バッテリーがあがっているときは、電源ポジションをLOCKから切り替えられません。
- 電源ポジションがLOCKから切り替わらないときは、ステアリングを左右に少し回しながら再度エンジンスイッチを押します。

電源ポジション

SSD0859

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、電源ポジションは次のように切り替わります。

- 1回押すと、ACCに切り替わります。
- 2回押すと、ONに切り替わります。
- 3回押すと、OFFに切り替わります。
- 4回押すと、ACCに戻ります。
- OFFのときにドアを開けるか、閉めると、LOCKに切り替わります。

エンジンスイッチ内の表示灯Ⓐは、電源ポジションがACCまたはONのときに点灯します。

セレクトレバーを P に入れないと、電源ポジションをLOCKに切り替えられません。

電源ポジションをLOCKに切り替えられないときは、次の操作を行ってください。

1. セレクトレバーを P に入れます。
2. 電源ポジションをOFFにします。
3. ドアを開けます。電源ポジションはLOCKに切り替わります。

LOCK

ステアリングロックが作動する位置。

インテリジェントキーを携帯して、電源ポジションをACCにするとステアリングのロックが解除されます。

ACC

オーディオ★、ドアミラーなどが使える位置。

ON

すべての電装品が使える位置。

OFF

電源が切れる位置。

⚠ 警告

緊急時以外は走行中にエンジンスイッチをOFFにしないでください。ステアリングがロックされて車両の制御ができなくなり、車両に重大な損傷が生じたり、重大な傷害につながるおそれがあります。

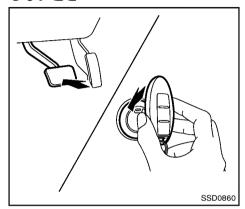
⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するため、エンジン停止中は電源ポジションをACCまたはONの状態で長時間車両から離れないでください。

知識：

アイドリングストップ中にエンジンスイッチを押すと、電源ポジションがOFFになります。

インテリジェントキーが正常に作動しないとき

SSD0860

インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境によりインテリジェントキーと車両の通信が正常に行われないときには、次の手順でエンジンを始動してください。

1. セレクトレバーを P に入れます。
2. ブレーキペダルを踏み込みます。
3. インテリジェントキーをエンジンスイッチに接触させます。（ブザーが鳴ります。）
4. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルを踏み込みながらエンジンスイッチを押します。エンジンが始動します。

手順3を行ったあと、ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、エンジンスイッチはACCに切り替わります。

知識：

- 前述の手順で電源ポジションをACCまたはONにするか、エンジンを始動すると、インテリジェントキーが車内にあってもKEY警告灯が黄色で点滅しますが異常ではありません。警告灯の点滅を止めるには、再びインテリジェントキーをエンジンスイッチに接触させます。
- ドアの施錠･解錠は、メカニカルキーを使って行ってください。
- メーター内のKEY警告灯が緑色で点滅しているときは、できるだけ早く電池を交換してください。“電池交換のしかた”(P.8-5)
- 前述の操作で始動できない場合は、早めに日産販売会社へ連絡してください。

エンジンのかけかた(リモートコントロールエントリーシステム付車)

注意

エンジンの始動は、必ず運転席に座って行ってください。車外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. パーキングブレーキをかけます。
2. ブレーキペダルを踏み込みます。
3. セレクトレバーが P にあることを確認します。
   セレクトレバーが N でも始動できますが、安全のため必ず P で始動してください。
4. アクセルペダルを踏まずに、キースイッチをSTARTまで回し、エンジンを始動します。
5. エンジン始動後は、キースイッチから手を離してください。エンジンがかからないときは、前述の操作を繰り返してください。
   外気温が極端に低い、または高いときにエンジンがかかりにくい場合は、ブレーキペダルを踏みながら、アクセルペダルを踏み込んでエンジンを始動させます。

⚠ 注意

- START位置で10秒以上スターターを作動させないでください。スターターが損傷するおそれがあります。エンジンがかからないときは、キースイッチをOFFにして10秒以上待ってから再始動してください。
- バッテリーあがりなどにより、救援車のバッテリーとブースターケーブルでエンジンを始動する場合は、“6 万一のとき”に記載されている指示と注意事項に従ってください。

6. エンジンを停止させるときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、キースイッチをOFFにします。

⚠ 注意

エンジン回転中は車両から離れないでください。

エンジンのかけかた（インテリジェントキー付車）

⚠ 注意

エンジンの始動は、必ず運転席に座って行ってください。車外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. パーキングブレーキをかけます。
2. セレクトレバーが P にあることを確認します。

   セレクトレバーが N でも始動できますが、安全のため必ず P で始動してください。

   エンジンスイッチを操作するときは、インテリジェントキーを携帯してください。
3. ブレーキペダルを踏み込み、エンジンスイッチを押してエンジンを始動させます。

   電源ポジションの位置に関わらず、ブレーキペダルを踏み込みながらエンジンスイッチを押すと、エンジンを始動することができます。
4. エンジン始動後は、エンジンスイッチから手を離してください。エンジンを始動したあとに停止した場合は、前述の操作を繰り返してください。

   外気温が極端に低い、または高いときにエンジンがかかりにくい場合は、ブレーキペダルを踏み込みながらアクセルペダルを踏み込み、エンジンスイッチを最長10秒間押し続けます。エンジンが始動後は、アクセルペダルから足を離してください。

⚠ 注意

- エンジン始動後は、すみやかにエンジンスイッチから手を離してください。
- エンジンスイッチを10秒以上押し続けないでください。スターターが損傷するおそれがあります。エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチをOFFにして10秒以上待ってから再始動してください。
- バッテリーあがりなどにより、救援車のバッテリーとブースターケーブルでエンジンを始動するときは、“6 万一のとき”に記載されている指示と注意事項に従ってください。

5. エンジンを停止させるときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、電源ポジションをOFFにします。

注意

エンジン回転中は車両から離れないでください。

運転のしかた

オートマチック車の運転のしかた

この車両のCVTは、最大限のパワーと滑らかな作動を実現するように電子制御されています。

車両の性能を最大限引き出し、運転をお楽しみいただくために、記載されている操作方法に従ってください。

警告

- 発進時は、絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して、重大な事故につながるおそれがあります。
- 滑りやすい路面では急なシフトダウンを行わないでください。車両の制御ができなくなり、車両に重大な損傷が生じたり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 次のような操作は、トランスアクスルを破損し、思わぬ事故につながるおそれがありますので、絶対にしないでください。
  — 車が完全に停止する前に P に入れる。
  — 車を前進させているときに R に入れる。
  — 車を後退させているときに D 、L に入れる。
- 坂道などでセレクトレバーを D （または L ）に入れたまま惰性での後退をしたり、R に入れたまま惰性での前進をしないでください。エンジンが停止し、極度にハンドルの操作力が重くなったりブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- エンジンが冷えているときはエンジン回転数が上がるため、セレクトレバーを操作するときは注意してください。
- 停車中の空吹かしは避けてください。思いがけず車両が動き出すことがあります。
- 緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N に入れないでください。 また、セレクトレバーを N に入れて惰性で走行すると、トランスアクスルに

重大な損傷が生じるおそれがあります。

- セレクトレバーを P に入れてエンジンを始動してください。（ N でもエンジンの始動ができますが、安全のため P で始動してください。） P または N 以外の位置でエンジンが始動する場合は、日産販売会社で車両の点検を受けてください。
- 停車時は、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけてください。
- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停止状態を保つような停車はしないでください。トランスアクスルが故障する原因となります。
- 次のような場合は、CVT保護のためにエンジン出力を抑制することがあります。

— エンジン回転数が急激に上がったとき。

— 滑りやすい路面を走行したとき。

— 動力測定機で動力測定したとき。

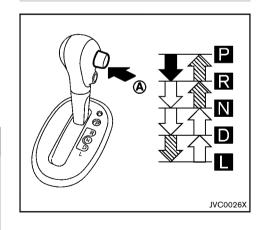
発進のしかた

1. エンジン始動後、ブレーキペダルを踏み込んでセレクトレバーを P から動かします。
2. ブレーキペダルを踏み込んだままセレクトレバーを走行位置に入れます。
3. パーキングブレーキを解除し、ブレーキペダルから足を離し、ゆっくりと発進します。

キースイッチ（電源ポジション）がONのときに、ブレーキペダルを踏み込まないと、セレクトレバーを P から動かすことができません。

キースイッチ（電源ポジション）がLOCK、OFF、ACCのときは、セレクトレバーを P から動かすことはできません。

⚠ 注意

- ブレーキペダルを踏み込んでからセレクトレバーを操作してください。エンジンがかかっているときにブレーキペダルを踏まずにセレクトレバーを D 、 R 、 L のいずれかに入れると、車両はゆっくりと発進します。必ずブレーキペダルを踏み込み、停車した状態でセレクトレバーを操作してください。
- セレクトレバーの位置を確認してください。 D および L は前進用で、 R は後退用です。
- エンジンが冷えているときはエンジン回転数が上がるため、エンジン始動直後にセレクトレバーを走行位置に入れる際には特に注意してください。

➡: ブレーキペダルを踏んだままボタンⒶを押して操作します。

▨➡: ボタンⒶを押して操作します。

⇨: ボタンⒶを押さずにそのまま操作します。

各セレクトレバーの位置と働き

⚠ 警告

- エンジン停止中は、パーキングブレーキをかけてください。車両が思いがけず動き出し、重大な傷害または物損事故につながるおそれがあります。

セレクトレバーは、ブレーキペダルを踏み込んで操作してください。

セレクトレバーが P 以外のときに、キースイッチ(電源ポジション)がOFFまたはACCになっている場合は、キースイッチ(電源ポジション)をLOCKに切り替えることはできません。

LOCKに切り替えられないときは、次の操作を行ってください。

リモートコントロールエントリーシステム付車：

1. パーキングブレーキをかけます。
2. ブレーキペダルを踏み込みながらキースイッチをONにします。
3. セレクトレバーを P に入れます。
4. キースイッチをLOCKにします。

インテリジェントキー付車：

1. パーキングブレーキをかけます。
2. セレクトレバーを P に入れます。
3. 電源ポジションをOFFにしてドアを開けます。

P （パーキング）：

駐車およびエンジンを始動するときの位置

キースイッチ（電源ポジション）をOFFまたはLOCKに切り替えることができます。

（ P 以外ではキースイッチ〔電源ポジション〕をLOCKにできません。）

R （リバース）：

後退するときの位置

車内でブザーが鳴り運転者に知らせます。

（車外の人に注意するものではありません。）

N （ニュートラル）：

動力が伝わらない状態の位置

（ N でもエンジンの始動ができますが、安全のため P で始動してください。）

D （ドライブ）：

通常走行するときの位置

速度に応じて自動変速します。

L （ロー）：

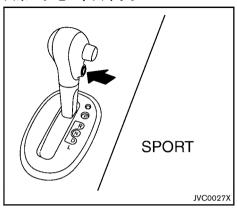
急な下り坂を走行するときの位置

強いエンジンブレーキが必要なときに使います。

（急な下り坂以外ではなるべく使わないでください。）

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

スポーツモードスイッチ

JVC0027X

スポーツモードをONにするときは、セレクトレバーを D に入れてスポーツモードスイッチを押します。メーターのSPORT表示灯 SPORT が点灯します。スポーツモードをOFFにするには、もう一度スポーツモードスイッチを押します。セレクトレバーを D 以外にすると、スポーツモードは自動的にOFFになります。

OFF位置：

燃費性能など、経済性を重視した走行ができます。

ON位置：

登坂路走行、パワフル走行など走りを重視した走行や、下り坂で軽いエンジンブレーキをかけることができます。

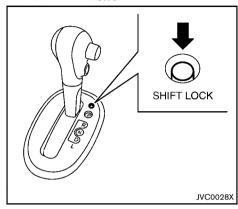
通常の状態に戻したいときは、スイッチを押してスポーツモードをOFFに切り替えてください。

燃費が悪化するため、スポーツモードをONにしたまま長時間の高速走行はしないでください。

キックダウン

追い越し時や上り坂を走行するときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。車速に応じて、低速のギヤにシフトダウンします。 詳しくは、“キックダウンは適切に”(P.0-9) をお読みください。

シフトロックの解除

JVC0028X

バッテリーあがりなどで、セレクトレバーを P から動かせないときは次の手順で操作してください。

1. **インテリジェントキー付車：**

   電源ポジションをOFFまたはLOCKにします。

   リモートコントロールエントリーシステム付車：

   キースイッチをLOCKにし、キーが差し込まれている場合は抜き取ります。

2. パーキングブレーキをかけます。

3. シフトロック解除ボタンを押します。
4. シフトロック解除ボタンを押したまま、セレクトレバーのボタンを押しながらセレクトレバーを N に入れます。

車両を移動させるときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにし、ステアリングロックを解除します。

インテリジェントキー付車は、バッテリーがあがっているとステアリングロックの解除ができません。ステアリングがロックしている場合は車両を移動させないでください。

セレクトレバーを P から動かすことができないときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

アイドリングストップ

アイドリングストップは、不必要な燃料消費、排気ガスの排出、騒音を防ぐための機能です。

- 車両を停車させると、エンジンが自動的に停止します。
- 再び走行するときは、自動的にエンジンを始動します。

注意

アイドリングストップによるエンジン停止中に車両が動き出した場合（約2km/h以上）は、自動的にエンジンが再始動するため、すみやかにブレーキペダルを踏んでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識：

次のような場合は、アイドリングストップしません。

- エンジン始動後、走行せずにエンジンをアイドリング状態にしているとき。
- エンジン冷却水の温度が低いとき。（冷却水の温度によっては、低水温表示灯★が点灯中でもアイドリングストップします。）
- バッテリー容量が低いとき。
- バッテリーの温度が低いまたは極端に高いとき。
- 車両が動いているとき。
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき。
- エンジン回転中にエンジンフードを開けたとき。
- エンジンフードを開けた状態でエンジンを始動させたとき。
- 運転席のシートベルトを着用していないとき。
- 運転席ドアが開いているとき。
- ハンドルを操作したとき。
- アイドリングストップ表示灯が低速で点滅しているとき。
- アクセルペダルを踏んでいるとき。
- セレクトレバーが R のとき。
- エアコンの風量切り替えダイヤルがOFF(0)以外の位置で、吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置にしたとき。（マニュアルエアコン付車）

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

- エアコンのデフロスタースイッチをONにしたとき。（フルオートエアコン付車）
- リヤウインドーデフォッガースイッチをONにしたとき。
- アイドリングストップOFFスイッチがONのとき。
- EPS（電動パワーステアリング）警告灯、ABS警告灯、VDC警告灯★が点灯しているとき。
- ブレーキペダルを完全に踏み込んでいないとき。
- 急勾配の坂道で停車したとき。
- 消費電力が大きいとき。
- 標高約2,000m以上の高地のとき。

知識：

次のような場合は、システムが作動するまでにしばらく時間がかかることがあります。

- バッテリーがあがっているとき。
- 外気温が低いとき。
- バッテリーを交換したあとや、長期間バッテリー端子を外したあと。

知識：

次のような場合は、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離しても、エンジンが再始動しません。

- セレクトレバーを P に入れているとき。

知識：

次のような場合は、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンが再始動します。

- アイドリングストップOFFスイッチを押したとき。
- エアコンの風量切り替えダイヤルがOFF(0)以外の位置で、吹き出し口切り替えダイヤルをデフロスター位置にしたとき。（マニュアルエアコン付車）
- デフロスタースイッチをONにしたとき。（フルオートエアコン付車）
- リヤウインドーデフォッガースイッチをONにしたとき。
- アクセルペダルを踏んだとき。
- ハンドルを操作したとき。
- バッテリーの容量が低くなったとき。
- 消費電力が大きいとき。
- 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動き出したとき。
- セレクトレバーが D 、N のときに、ブレーキペダルをゆるめたとき。
- セレクトレバーを N または P から L、D 、R にしたとき。
- ブレーキペダルを数回踏みなおすなどして、ブレーキ装置の負圧が不足したとき。
- 運転席シートベルトを外したとき、または運転席ドアを開けたとき。

このシステムは、信号待ちなどのときに使用してください。長時間の停車などの場合は、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしエンジンを停止してください。

アイドリングストップ中にエンジンフードを開けると、ブザーが鳴るとともに通常のエンジン停止状態となります。その場合は、エンジンをかけ直してください。

アイドリングストップ中は、エアコン（冷房·暖房·除湿機能） がOFFになり、送風になります。OFFにしたくないときは、アイドリ

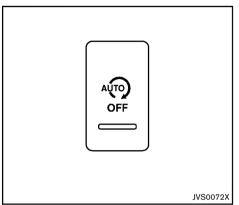
ングストップOFFスイッチをONにしてください。

アイドリングストップの使いかた

知識：

走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、メーター内のアイドリングストップ表示灯が点灯します。

- セレクトレバーが D のときにブレーキペダルを踏み停車すると、自動的にエンジンが停止します。
- ブレーキペダルから足を離すと自動的にエンジンが再始動します。
- ブザーとアイドリングストップ表示灯で、アイドリングストップの状態をお知らせします。詳細については、“アイドリングストップ表示灯”(P.2-15) または “アイドリングストップ警告ブザー”(P.2-17) をお読みください。

アイドリングストップOFFスイッチ

アイドリングストップの作動をやめたいときに使います。

- アイドリングストップOFFスイッチを押すと、作動を停止します。（スイッチの表示灯が点灯）
- もう一度スイッチを押すか、エンジンを再始動するとアイドリングストップは作動します。（スイッチの表示灯が消灯）
- アイドリングストップ中にスイッチを押すと、エンジンは再始動します。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）★

警告

- VDC（ビークルダイナミクスコントロール）は、車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。作動に限界があるため、滑りやすい路面やコーナーの手前では特にスピードを落とし安全運転に心がけてください。
- 下記部品を純正品以外に交換したり、改造したときにVDC警告灯 が点灯し、VDCが正常に作動しないことがあります。
  — サスペンション関係部品（ショックアブソーバー、ストラット、スプリング、ブッシュ類など）
  — タイヤ、ホイール（指定サイズ以外）
  — ブレーキ関係部品（パッド、ローター、キャリパーなど）
  — エンジン関係部品（ マフラー、ECM〔エンジンコントロールモジュール〕など）

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

— 車体補強関係部品（ロールバー、タワーバーなど）

- サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行すると、VDC警告灯 が点灯し、VDCが正常に作動しないことがあります。
- 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動くものの上に車両があるとき、VDC警告灯 が点灯することがあります。この場合はターンテーブルなど動くものの上を降りてからエンジンをかけ直してください。
- 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したときは、VDC警告灯 が点灯し、VDCが正常に作動しないことがありますので走行しないでください。
- VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

VDCシステムは、各種センサーを使用して運転者の車両操作と車両の動きを監視し、走行の状態に応じて次の機能を作動させます。

- 滑っている側の駆動輪のスリップを軽減するためにブレーキ圧を制御し、同じ車軸の滑っていない側の駆動輪に動力を伝達します。（ブレーキリミテッドスリップデフ機能）
- 車速に応じて、駆動輪のスリップを低減するためにブレーキ圧とエンジン出力を制御します。（トラクションコントロール機能）
- 次の状況下で車両の制御が維持されるように、個々の車輪におけるブレーキ圧とエンジン出力を制御します。
  — アンダーステア（ハンドルを切っても、車両の旋回がそれに追いつかない状態）
  — オーバーステア（特定の路面または運転条件により車両がスピンする傾向）

VDCシステムが作動し、メーター内のVDC警告灯 が点滅したときは、次の点に注意してください。

- 路面が滑りやすい状態になっているか、車両の走行安定性を維持するためにVDCシステムが作動した可能性があります。
- ブレーキペダルに振動を感じたり、エンジンルームから音または振動が聞こえたりすることがありますが、異常ではありません。VDCシステムは正常に作動しています。
- 路面の状態に合わせた速度で運転してください。

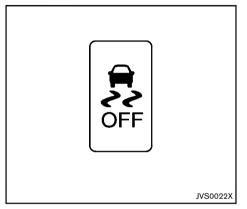
VDCシステムに異常が発生すると、メーター内のVDC警告灯 が点灯し、VDCシステムは自動的にOFFになります。

VDCシステムをOFFに切り替えるときは、VDC OFFスイッチを押します。VDC OFF表示灯 が点灯し、VDCシステムのOFF状態が表示されます。VDC OFFスイッチでVDCシステムの作動を解除しても、ABS機能とブレーキリミテッドスリップデフ機能は作動し、VDC警告灯 が点滅します。キースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、再びONにすると、VDCシステムは自動的にONの状態になります。

“VDC警告灯★”（P.2-15）および “VDC OFF表示灯★”（P.2-16）をお読みください。

VDCシステムには自己診断機能が組み込まれており、エンジン始動時と低速での前進/後退時に毎回システムが診断されます。自己診断が行われると、鈍い音が聞こえたり、ブレ

ーキペダルに振動を感じたりすることがありますが異常ではありません。

VDC OFFスイッチ

通常走行時は、VDCをONにして走行してください。

車両がぬかるみまたは雪にはまった場合、VDCシステムはエンジン出力を低下させて車輪の空転を抑えます。この場合、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの回転数が上がらないことがあります。悪路から脱出するためにエンジン出力が最大限に必要な場合に、VDCシステムをOFFに切り替えてください。

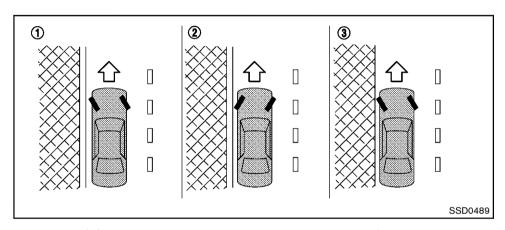
VDCシステムをOFFに切り替えるには、VDC OFFスイッチを押します。 メーター内のVDC OFF 表示灯 が点灯します。

VDC OFFスイッチを再び押すと、VDCシステムはONになります。

駐車のしかた

⚠ 警告

- 燃えやすい物（干し草、紙くず、敷物など）の上では停車または駐車しないでください。発火して火災につながるおそれがあります。
- 安全に駐車するためには、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P に入れてください。車両が思いがけず動き出し、重大な事故につながることがあります。
- 駐車するときは、必ずセレクトレバーを P に入れてください。ブレーキペダルを踏まないとセレクトレバーを P から動かすことはできません。
- 絶対にエンジンをかけたまま車両を離れないでください。
- お子さまや介護を必要とする方だけを車内に残して、絶対に車両から離れないでください。また、ペットも車内に残さないでください。誤ってスイッチを操作して、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。炎天下では、密閉した車内の温度は短時間で急速に上昇し、人や動物にとって重大な傷害

または死亡につながるおそれがあります。

1. パーキングブレーキを確実にかけます。
2. セレクトレバーを **P** に入れます。
3. 坂道に駐車したときに不意に車両が動き出さないように、前輪はイラストの向きに合わせてください。

   縁石のある下り坂①

   前輪を縁石の方に向け、縁石側車輪が縁石にわずかに接触するまで前進します。その後、パーキングブレーキをかけます。

   縁石のある上り坂②

   前輪を縁石とは反対側に向け、縁石側車輪が縁石にわずかに接触するまで後退します。その後、パーキングブレーキをかけます。

   縁石のない上り坂または下り坂③

   万一動き出したときに、車両が道路中央から遠ざかるように、前輪を路肩の方に向けます。その後、パーキングブレーキをかけます。

4. **リモートコントロールエントリーシステム付車：**

   キースイッチをLOCKにし、キーを抜き取ります。

   インテリジェントキー付車：

   電源ポジションをOFFにします。

知識：

信号待ちなどでしばらく停車するときは、アイドリングストップを利用してください。

駐車などで長時間停車するときは、エンジンを停止してください。

EPS(電動パワーステアリング)

⚠ 警告

- エンジンが停止しているときや走行中にエンジンが停止したときは、ハンドルの補助機能が働かなくなり、ハンドル操作により大きな力が必要になります。
- エンジン回転中にEPS（電動パワーステアリング）警告灯が点灯したときは、ハンドルの補助機能が働かなくなります。その状態でもハンドルを切ることはできますが、ハンドル操作に大きな力が必要になります。

EPS（電動パワーステアリング）は、ハンドル操作に必要な力を電動で補助して操舵力を軽くします。

駐車時または低速走行時にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけた状態を長く続けると補助力が低下し、ハンドル操作が重くなります。これは、EPS（電動パワーステアリング）のモーターが過熱したり損傷するのを防ぐための機能です。EPS（電動パワーステアリング）の温度が下がると、補助力は正常に戻ります。モーターを過熱させるような繰り返しのハンドル操作は避けてください。

ハンドルをすばやく操作すると、摩擦音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

エンジン回転中にEPS（電動パワーステアリング）警告灯 **PS** が点灯したときは、EPS（電動パワーステアリング）の作動に異常が発生し、修理が必要な可能性があります。日産販売会社で点検を受けてください。

“EPS (電動パワーステアリング) 警告灯” (P.2-13)

エンジン回転中にEPS（電動パワーステアリング）警告灯が点灯したときは、ハンドルの補助機能が働かなくなります。その状態でもハンドルを切ることはできますが、特に急カーブや低速走行時に、ハンドル操作に大きな力が必要になります。

ブレーキシステム

ブレーキシステムには独立した2系統の油圧回路が使用されています。一方の回路が故障しても、2つの車輪のブレーキが引き続き作動します。

ブレーキ操作時の注意事項

ブレーキ倍力装置

ブレーキ倍力装置は、エンジンの負圧を利用してブレーキ力を補助します。エンジンが停止しても、ブレーキペダルを踏んで停車することができますが、停車するために必要なブレーキペダルの踏み込み力が増大し、制動距離が伸びます。

エンジンが停止しているときや走行中にエンジンが停止したときは、ブレーキの補助力が働かなくなり、ブレーキ操作により大きな力が必要になります。

⚠ 警告

エンジンを停止させたまま惰性で走行しないでください。

ブレーキペダルを踏んだり離したりしたときに“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。

ブレーキ操作

走行中はブレーキペダルに足を載せておかないでください。ブレーキが過熱し、ブレーキライニングやパッドの摩耗が進み、燃費が低下します。

ブレーキの過熱やブレーキの摩耗を防ぐためには、坂道または長い斜面を下る前に減速し、セレクトレバーを L にしてください。ブレーキが過熱するとブレーキ性能が低下し、車両の制御が失われるおそれあります。

滑りやすい路面の走行中は、制動、加速、キックダウンに注意して運転してください。急ブレーキや急加速によって車輪が横滑りし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキがぬれたとき

洗車や水たまりを走行すると、ブレーキがぬれて制動距離が伸びたり、ブレーキをかけたときに車両が片側に寄ることがあります。

ブレーキを乾かすときは、安全な速度で走行しながらブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを加熱させます。 ブレーキが正常な状態に戻るまで、この操作を繰り返します。 ブレーキが乾くまでは、高速走行は避けてください。

下り坂の走行

エンジンブレーキを併用して走行します。

セレクトレバーが D でも、アクセルペダルを戻すと自動的にエンジンブレーキがかかります。

強いエンジンブレーキが必要な勾配のきつい下り坂では L に入れます。

スポーツモードスイッチをONにしても軽いエンジンブレーキが得られます。

⚠ 警告

- セレクトレバーを D にしたまま下り坂を走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、スピードが出すぎることがあります。このようなときは、フットブレーキだけを使い続けると、フットブレーキに負担がかかり、過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。必ずエンジンブレーキを併用してください。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキは効かせないでください。タイヤがスリップするおそれがあり危険です。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

⚠ 警告

- ABSは運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早め早めの操作で安全運転をしてください。
- ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABSの付いていない車両より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を控えめにし、車間距離を十分とって運転してください。
- ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着してください。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABSは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤがロックしないようにブレーキを制御します。システムは各車輪の

回転数を検出し、各車輪がロックし、横滑りしないようにブレーキ液の圧力を変動させます。各車輪のロック状態を防ぐことにより、システムは操舵時の安定性を維持し、滑りやすい路面での横滑りとスピンを最小限に抑えるのに役立ちます。

ABSを使用するには

ブレーキペダルを一定の力で確実に踏み込み、ハンドルを操作して障害物を回避してください。ABSが作動し、タイヤのロックを防ぎます。

⚠ 警告

ポンピングブレーキをしないでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が伸びることがあります。

自己診断機能

ABSシステムには診断機能が組み込まれており、エンジン始動時と低速での前進/後退時に毎回システムが診断されます。自己診断が行われると、鈍い音が聞こえたり、ブレーキペダルに振動を感じたりすることがありますが異常ではありません。システムが異常を検出すると、ABSの作動を解除しABS警告灯を点灯させます。ABS警告灯が点灯しているとき、ブレーキシステムは正常に作動しますが、ABSは作動しません。

自己診断中または走行中にABS警告灯が点灯したときは、日産販売会社で車両の点検を受けてください。

標準作動

ABSは、5〜10km/hを越える速度で作動します。作動する速度は、路面の状況により異なります。

ABSはタイヤがロックしそうな状態を検出すると、アクチュエーターが瞬時にブレーキ圧を減圧させてブレーキを解除します。この動作は、運転者がブレーキペダルをすばやくポンピングする操作に似ています。ABS作動中は、ブレーキペダルに振動を感じたり、エンジンルームから音が聞こえたり、アクチュエーターから振動を感じたりすることがありますが、異常ではありません。（振動は路面が危険な状況にあり、慎重に運転する必要があることを示している場合があります。）

寒冷時の取り扱い

⚠ 警告

- 路面の状況にかかわらず、急な加速または減速をしないように慎重に走行してください。
- 雪道や凍結路などの滑りやすい路面では、乾いた路面より長い制動距離を必要とするため、早い段階でブレーキペダルを踏むように心がけてください。
- 雪道や凍結路などの滑りやすい路面では、通常よりも長い車間距離を確保してください。
- 雪道や凍結路などの滑りやすい路面では、急なハンドル操作を避けてください。
- 雪によって車両下側に排気ガスが溜まることがあります。排気管と車両の周囲から雪を取り除いてください。
- ルーフに積もった雪は落としてください。窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

⚠ 注意

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。損傷するおそれがあります。
- ドアのキーシリンダー部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときはブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

バッテリーの点検

バッテリー性能を維持するため、定期的に点検してください。

メンテナンスノートをお読みください。

冷却水（クーラント）

詳細については、“冷却水の濃度点検”(P.8-3) をお読みください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

冬用タイヤに交換するときは、4輪とも必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤに交換してください。“タイヤの交換”(P.8-14)

タイヤチェーンはお客さまのタイヤサイズに合った日産純正品をおすすめします。

タイヤチェーンについて

- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。
- お客さまのタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。

  タイヤチェーンはお客さまの車に適合した日産純正品をおすすめします。適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

装着の前に：

安全に作業できる平坦な場所に停車してください。

パーキングブレーキをかけエンジンを止めます。さらに、非常点滅表示灯を点滅させ、必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）を置きます。

装着のしかた：

タイヤチェーンは付属の取扱説明書に従って正しく装着してください。

⚠ 注意

- 不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものなどを使用すると、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。
- スペアタイヤにはタイヤチェーンを装着できません。前輪がパンクした場合は、スペアタイヤを後輪に取り付け、外した後輪を前輪に取り付けてから、チェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバーに傷をつけるおそれがあります。ホイールカバーは外してください。

- タイヤチェーンを装着したときはタイヤチェーンに付属の取扱説明書で指示された速度で走行してください。安全が損われたりタイヤチェーンが切れやすくなります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

車の冬じたく

凍結などに備えて、車両に次の装備を積んでおくことをおすすめします。

- プラスチックの板など（窓ガラスやワイパーブレードから氷と雪を取り除くため）
- 丈夫で平らな板など（確実な土台としてジャッキ下に敷くため）
- シャベルなど（雪だまりから車両を掘り出すため）
- ウオッシャー液の予備（ウオッシャータンクに補充するため）

パーキングブレーキ

外気温が0°C以下の場所に駐車するときは、凍結するおそれがあるためパーキングブレーキはかけないでください。安全に駐車するため、セレクトレバーを P に入れ、輪止めをしてください。

雪道を走行したあとは

凍結防止剤をまいた道路を走行したあとは、サビの原因となるので早めに洗車してください。洗車するときは、下回りも念入りに洗ってください。

⚠ 注意

寒冷時に洗車をするときはブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードの装着

寒冷地用のワイパーブレードを装着するときは、お車に合った日産純正部品をお使いください。

⚠ 注意

- 高速走行時は通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなります。速度を落として走行してください。
- 降雪期以外は通常ブレードに戻してください。

6 万一のとき

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

非常点滅表示灯スイッチ

SIC2475

非常点滅表示灯スイッチは、バッテリーがあがっていない限り、キースイッチ(電源ポジション)がどの位置でも作動します。

非常時に停車するか、やむを得ず路上駐車するときに、他の運転者に警告する目的で使用します。

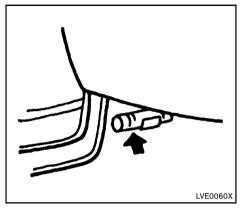
非常点滅表示灯スイッチを押すと、すべての方向指示器が点滅します。点滅は、スイッチを押し戻すと止まります。

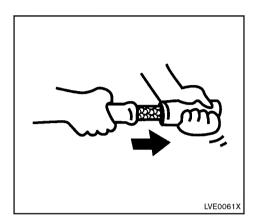
⚠ 注意

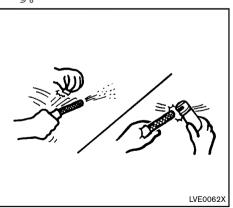
エンジン停止時に長時間点灯させないでください。バッテリーがあがりエンジンの始動ができなくなります。

発炎筒の使いかた

故障や事故などで緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

LVE0060X

1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。

LVE0061X

2. 本体を回しながらケースから引き抜きます。

LVE0062X

3. 点火部をすり薬でこすって点火します。

⚠ 警告

- お子さまには触らせないでください。いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- 可燃物の近くで使わないでください。引火する危険があります。
- 点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけないでください。やけどをする危険があります。
- トンネル内では使わないでください。煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり事故をまねくおそれがあります。このときは非常点滅表示灯を使ってください。

知識：

- 点火後は約５分間燃え続けます。
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

パンクしたときは

パンクしたときは、次の指示に従ってください。

停車のしかた

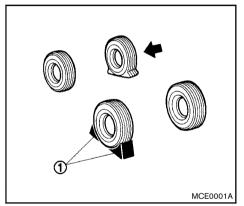
⚠ 警告

- パーキングブレーキを確実にかけてください。
- セレクトレバーを P に入れてください。
- 危険なため、斜面、凍結面、滑りやすい路面では絶対にタイヤを交換しないでください。
- 対向車の近くでは絶対にタイヤを交換しないでください。ロードサービスのスタッフが到着するまで待ってください。

1. 安全を確認しながら、走行車線から離れた場所へ車両を移動させます。
2. 非常点滅表示灯を点滅させます。
3. 平坦な面に駐車します。
4. パーキングブレーキをかけます。
5. セレクトレバーを P に入れます。

6. エンジンを切ります。
7. 全乗員を降車させ、車両および走行車線から離れた安全な場所に待機させます。
8. 必要に応じて、停止表示板（または停止表示灯）を置きます。

輪止めの使いかた★

MCE0001A

> **⚠ 警告**
>
> 車両が動き出し、ケガをしないよう、適切な車輪に輪止めを取り付けてください。

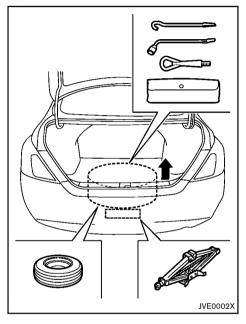
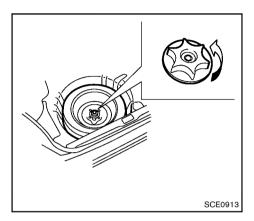
ジャッキアップしたときに車両が動き出さないよう、パンクしたタイヤ ⬅ の対角線の位置にある車輪の前後に適切な輪止め①を取り付けます。

知識：

輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

工具・ジャッキ・スペアタイヤについて

JVE0002X

SCE0913

フロアカバーを取り外し、ジャッキ、必要な工具、スペアタイヤを収納部から取り出します。

知識：

停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。

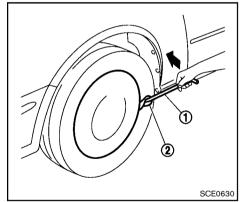
タイヤ交換のしかた

⚠ 注意

タイヤ交換をするときは、軍手などを着用して作業してください。

走行直後はホイールナットが熱いため、やけどやケガをするおそれがあります。

ホイールカバーの取り外しかた

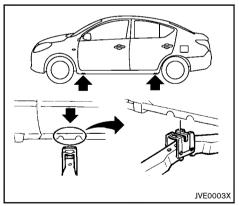
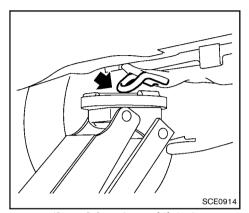
SCE0630

⚠ 警告

ホイールカバーは絶対に手で取り外さないでください。ケガをするおそれがあります。

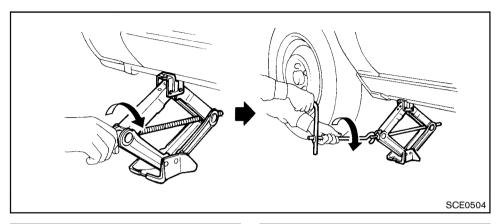
ホイールカバーを取り外すには、ジャッキロッド①をイラストのように使用します。

ホイールとホイールカバーを傷つけないように、ジャッキロッドに布②をかぶせてください。

ジャッキアップのしかた

JVE0003X

ジャッキアップポイント

ガレージジャッキアップポイント

車両後方にガレージジャッキを使用する場合は、必ずガレージジャッキアップポイントにジャッキをかけてください。ガレージジャッキアップポイント以外にジャッキをかけて使用すると、車両が破損するおそれがあります。

⚠ 警告

- ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らないでください。ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。
- ジャッキアップ中は、エンジンを始動しないでください。車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ジャッキを使うときは、次のことを必ず守ってください。

- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他車のジャッキは使わないでください。また、車載されたジャッキは他車に使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。

- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- 使用前にパーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にしてください。
- 輪止めなどで車を固定してください。
- ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
- 人や荷物は必ず車から降ろしてください。
- ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーをしっかり握って回してください。ジャッキハンドルバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込んでください。
- やわらかい地面の上では行わないでください。ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにしてください。
- ジャッキアップポイント以外の所にはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

知識：

- ジャッキを格納するときは、ドライバーなどで無理に締め付けないでください。ジャッキ取付部が変形するおそれがあります。
- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

1. 指定のジャッキアップポイントにジャッキを直接当て、ジャッキ上部をジャッキアップポイントに接触させます。

   ジャッキは平坦な硬い地面で使用してください。
2. ジャッキ先端部の溝をイラストのように前側または後ろ側ジャッキアップポイントの2個のくぼみ間に合わせます。
3. ホイールナットレンチを使用して、各ホイールナットを反時計回りに1〜2回転させてゆるめます。

   タイヤが地面から離れるまではホイールナットを取り外さないでください。
4. タイヤが地面を離れるまで慎重に車両をジャッキアップします。

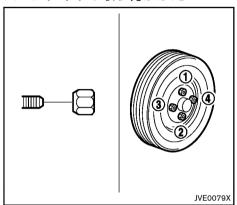
   車両をジャッキアップするには、ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを両手で確実に保持し、回転させてください。

タイヤの取り外しかた

1. ホイールナットを取り外します。
2. パンクしたタイヤを取り外します。

⚠ 注意

タイヤは重いため、足の上に落とさないよう注意し、ケガを防ぐために必要に応じて手袋を着用してください。

スペアタイヤの取り付けかた

⚠ 警告

- 使用されていたホイールナット以外は絶対に使用しないでください。不適切なホイールナットを使用するか、ホイールナットの締め付けが不適切な場合は、ホイールがゆるむか、外れ、事故につながるおそれがあります。
- ボルトやホイールナットには絶対にオイルまたはグリースを使用しないでください。ホイールナットがゆるむ原因になります。

- スペアタイヤは、応急用です。

⚠ 注意

- 取付面が汚れていると、走行中にナットがゆるみタイヤが外れるおそれがあります。
- 応急用タイヤは、ラベル貼付側が外側になるように取り付けてください。逆に付けると他の部品と当たり、思わぬ故障につながるおそれがあります。
- ジャッキを下げるときは、ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを両手でしっかり握って回してください。回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- ホイールナットレンチを足で踏んで回したり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。ボルトが折れるおそれがあります。

1. ホイールとハブ間の面から泥や汚れを取り除きます。
2. スペアタイヤを慎重に装着し、ホイールナットを指で締め付けます。すべてのホイールナットがホイール表面に対して水平に接触しているか確認します。
3. ホイールナットレンチを使用し、ホイールナットが締まるまでイラストの順序（①〜④）で2回以上、均一な力で締め付けます。
4. タイヤが接地するまで車両をゆっくりと下げます。
5. ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットをイラストの順序で確実に締め付けます。
6. 車両を完全に下げます。

ホイールナットは、トルクレンチを使ってできるだけ早く指定のトルクで締め付けてください。

ホイールナット締め付けトルク
108N·m（11kg·m）

⚠ 注意

- タイヤを取り付けてしばらく走行したあと、ナットのゆるみや車体の振動などの異常がないか確認してください。

- 応急用タイヤには、ホイールカバーは取り付けられません。
- 応急用タイヤは、すぐに標準タイヤに戻してください。
- 標準タイヤにホイールカバーを取り付けるときは、エアバルブの位置を合わせてください。

知識：

スペアタイヤを置くときは、ラベル貼付側を上にしてください。

パンクしたタイヤと工具の収納

⚠ 警告

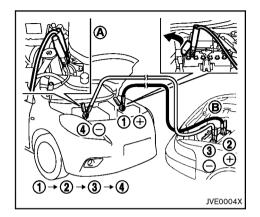
タイヤや使用したジャッキや工具は適切な場所に収納してください。収納しないと事故時または急停止時にそれらの物が飛び、重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 使用したジャッキや工具、パンクしたタイヤを収納部に確実に収納します。
2. フロアカバーを元通りに取り付けます。
3. トランクリッドを閉めます。

バッテリーがあがったときは

⚠ 警告

- ブースターケーブルをつなぐときは、次のことを必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
  - ― ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。
  - ― ブースターケーブルを自車バッテリーのマイナス側端子⊖に直接つながない。
  - ― ブースターケーブルのプラス側端子⊕とマイナス側端子⊖を接触させない。
- バッテリーの付近には常に爆発性のある水素ガスが存在しています。バッテリーには火花や炎を近づけないでください。
- バッテリー付近で作業を行うときは、必ず適切な保護メガネを着用し、指輪、ブレスレットなどのアクセサリー類を外してください。

- ブースターケーブルをつなぐときは、バッテリーに顔を近づけないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受けてください。
- バッテリーはお子さまの手の届かない所に保管しておいてください。
- 救援車には12V仕様のバッテリーを使用してください。 不適切な仕様のバッテリーは車両を損傷させるおそれがあります。
- 凍結したバッテリーにブースターケーブルをつながないでください。爆発し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- バッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

1. 救援用バッテリーの車両Ⓑは、バッテリー同士が近づくように自車Ⓐとの位置を調節します。
2. パーキングブレーキをかけます。
3. セレクトレバーを P に入れます。
4. 不必要な電装品（ヘッドランプ、ヒーター、エアコンなど）をすべてOFFに切り替えます。
5. キースイッチ（電源ポジション）をLOCKにします。
6. 爆発する危険を減らすために、よく絞った湿らせた布でバッテリーを覆います。
7. イラストの順序（①、②、③、④）でブースターケーブルを接続します。

⚠ 注意

- 必ずプラス側端子⊕はプラス側端子⊕に接続し、マイナス側端子⊖はバッテリーのマイナス側端子⊖ではなく、ボディアースに接続してください。
- ブースターケーブルがエンジンルーム内の可動部品に接触しないか確認してください。
- ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触しないように注意してください。
- ブースターケーブルは、エンジン始動時の振動で外れたりしないように、確実につないでください。
- ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

8. 救援車Ⓑのエンジンを始動させます。

9. エンジン回転数が約2,000rpmになるよう救援車Ⓑのアクセルペダルを踏みます。
10. 通常の方法で自車Ⓐのエンジンを始動させます。

⚠ 注意

- スターターは10秒以上作動させないでください。エンジンがすぐに始動しない場合は、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにして10秒以上待ってから再始動してください。
- キースイッチ（電源ポジション）を押してもスターターが作動しないときは、キースイッチ（電源ポジション）チをOFFにしてから再始動してください。

11. エンジン始動後、ブースターケーブルをイラスト（接続時）とは逆の順序（④、③、②、①）で外します。
12. 希硫酸が付着しているおそれがあるため、バッテリーを覆うために使用した布を取り外して廃棄します。

⚠ 注意

インテリジェントキー付車は、バッテリーがあがるとステアリングロックの解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかにバッテリーを充電してください。

知識：

- 押しがけでの始動はできません。
- 充放電能力と寿命性能を強化したアイドリングストップ付車専用バッテリーをご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。 バッテリーはお客さまの車に適合した日産純正部品をおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
- バッテリー交換したあとや長期間バッテリー端子を外したあとは、アイドリングストップが作動するまでに時間がかかる場合があります。

押しがけ

車両を押してエンジンの始動をしないでください。

⚠ 注意

- この車は、押しがけでエンジンを始動させることはできません。押しがけを試みると、トランスアクスルまたは3元触媒が損傷することがあります。
- けん引によってエンジンを始動させないでください。エンジンが始動すると、急発進によってけん引車と衝突するおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

⚠ 警告

- エンジンルーム内は高温になっているため、エンジンフードを開けるときは十分に注意してください。やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行を続けないでください。走行を続けると、車両火災につながるおそれがあります。
- 蒸気が出ているときは絶対にエンジンフードを開けないでください。
- エンジンが高温のときは絶対にラジエーターキャップを取り外さないでください。エンジンが高温のときにラジエーターキャップを取り外すと、圧力が加わっている熱湯が噴き出し、やけどなどの重大な傷害につながるおそれがあります。
- エンジンから蒸気または冷却水が出ているときは、やけどをしないよう車両から離れてください。
- 冷却ファンやドライブベルトに手や足、アクセサリー類、衣類が接触したり、挟まったりしないよう注意してください。冷却ファンは突然回転し始めることがあります。

エンジンがオーバーヒートしたとき（メーター内の高水温警告灯★（P.2-13）が点灯したとき、または水温計★（P.2-8）が標準範囲を超えたとき）、またはエンジン出力の低下や異常な音などに気づいたときは、次の操作を行ってください。

1. 安全を確認しながら、走行車線から離れた場所へ車両を移動させます。
2. 非常点滅表示灯を作動させます。
3. パーキングブレーキをかけます。
4. セレクトレバーを P に入れます。

   エンジンは停止させないでください。
5. すべての窓ガラスを開けます。
6. A/C（エアコン）スイッチをOFFにし、マニュアルエアコン付車は温度調節ダイヤルを高温側に合わせ、風量切り替えダイヤルで風量を最大にします。オートエアコン付車は温度調節スイッチで最高温度にし、風量切り替えスイッチで風量を最大にします。
7. 車両から降ります。
8. ラジエーターから蒸気または冷却水が漏れ出していないかなど、音の確認や目視での点検をしてください。蒸気または冷却水が出なくなるまで待ってから作業を進めます。
9. エンジンフードを開けます。
10. 冷却ファンが作動しているか目視点検します。
11. ラジエーターとラジエーターホースから冷却水が漏れていないか目視点検します。

    冷却ファンが作動していないとき、または冷却水が漏れているときは、エンジンを停止させます。
12. エンジンが冷えてから、エンジンを始動させてリザーバータンク内の冷却水量を点検します。**ラジエーターキャップは開けないでください。**
13. 必要に応じてリザーバータンクに冷却水を注入します。

⚠ 注意

応急的に水だけを補充したときは、できるだけ早くエンジンクーラントを交換してください。

日産販売会社で車両の点検/修理を受けてください。

けん引するときは

車が動かなかったり、異常な音がするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。

けん引が必要なときは、できるだけ日産販売会社、または専門業者に依頼してください。

JAFの営業所一覧…メンテナンスノート「サービス網について」をお読みください。

他車にけん引してもらうとき

⚠ 警告

インテリジェントキー付車

- 電源ポジションがLOCKでバッテリーがあがると、ステアリングロックの解除ができなくなるため、このままの状態でけん引しないでください。けん引するときは救援車のバッテリーとつなぎ、電源ポジションをACCまたはONにしてハンドル操作ができる状態で行ってください。また、けん引中は電源ポジションをLOCKにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

リモートコントロールエントリーシステム付車

- けん引してもらうときは、キースイッチをLOCKにしないでください。ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

⚠ 注意

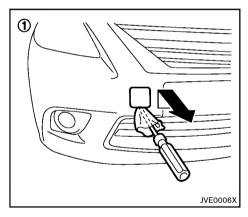
- エンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなりますので注意してください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。

知識：

- けん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスアクスルが破損するおそれがあります。で

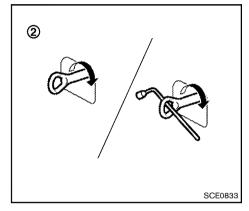
きるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。

- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。
- VDC付車の前輪を上げてけん引するときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにしないでください。 VDCが作動しブレーキがかかることがあります。

JVE0006X

1. フロントバンパー部のカバーの溝に、マイナスドライバーのような先の細いお手持ちの工具を差し込み、カバーを外します①。

知識：

- **工具に布などを当てながら外してください。車体に傷をつけるおそれがあります。**

SCE0833

2. ホイールナットレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます②。

“工具·ジャッキ·スペアタイヤについて”(P.6-4)

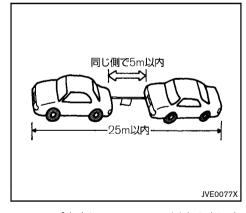
3. 自車および他車のけん引フックにロープを掛けます。

⚠ 注意

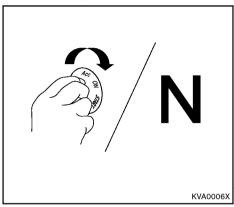
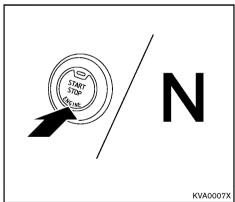
- 指定以外のフックは絶対に使わないでください。フック部が破損するおそれがあります。

知識：

- **ロープを掛けるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。**

JVE0077X

4. ロープ中央に30cm × 30cm以上の白い布を必ず取り付けます。

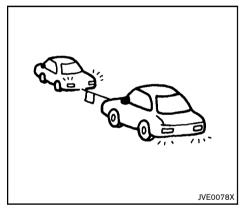
KVA0006X

KVA0007X

5. エンジンをかけられるときはエンジンをかけ、セレクトレバーを **N** にします。

⚠ 注意

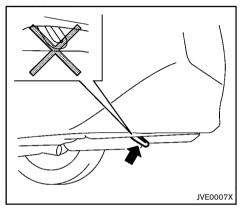
- エンジンをかけられないときは、キースイッチ（電源ポジション）をACCまたはONにしてください。

6. パーキングブレーキを解除します。

JVE0078X

7. けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。

使い終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

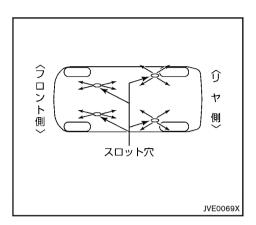
後ろ側のフックについて

JVE0007X

後ろ側のフックは車両輸送時の固定専用です。

けん引には絶対に使わないでください。

この車で他車をけん引することはできません。

知識：

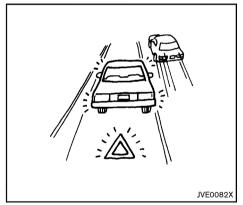
- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

- トレーラーなどで輸送するときは、車両下側のスロット穴を使い固定してください。
- 船舶輸送時は、フロントのけん引フックとスロット穴を使い固定してください。

路上で故障したときは

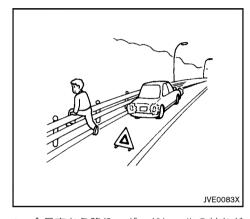
必ず安全な場所に車を退避させ、非常点滅表示灯などで後続車に危険を知らせてください。

安全な場所に退避できないときは、発炎筒で後続車に危険を知らせてください。“発炎筒の使いかた”(P.6-2)

路上で故障したとき

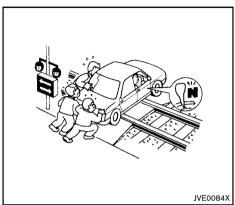
1. 車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置きます。

知識：

- **高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務づけられています。**

3. 全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。
4. 安全を確保後、救援を頼みます。

エンストしたとき

1. あわてずエンジンをかけ直してみます。

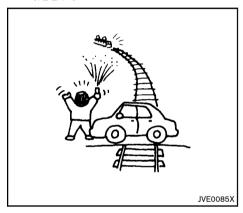
JVE0084X

2. エンジンがかからないときは、付近の人に救援を求めて、車を押してもらい、安全な場所に移動してください。このときセレクトレバーを **N** にしてください。
3. 安全な場所に移動後、救援を頼みます。

⚠ 注意

- エンジンが止まると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなりますので注意してください。

踏み切りで出られないとき

1. ただちに踏み切りの非常ボタンを押してください。

JVE0085X

2. 発炎筒で一刻も早く列車に知らせてください。

事故がおきたときは

あわてずに次の処置をしてください。

① **続発事故の防止**

他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

② **負傷者の救護**

負傷者がいる場合は、医師･救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③ **警察への届け出**

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを連絡します。

④ **相手方の確認とメモ**

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。

同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤ **販売会社と保険会社への連絡**

ご購入された販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

7 車との上手なつきあいかた

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

外装のお手入れ

⚠ 注意

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあったものをお使いください。
- 洗車するときは、エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良やエンジンの不調、電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使わないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車内に水が漏れるおそれがあります。

車両を美しく保つためには、適切なお手入れが大切です。

なるべく、車庫または屋根のある場所で車両を保管してください。

屋外に駐車する場合は、なるべく日陰に駐車するか、車両をボディカバーで保護してください。 ボディカバーの脱着時は塗装面に傷をつけないように注意してください。

洗車のしかた

塗装面を保護するために、次のような場合はできるだけすぐに洗車してください。

- 雨にぬれたあと（酸性雨による損傷を防ぐため）
- 海岸沿いの道路を走行したあと
- ばい煙、鳥のふん、樹液、金属粉、昆虫などによる汚れが塗装面に付着したとき
- 塗装面にほこりや汚れが堆積したとき

1. ぬらしたスポンジと大量の水で車両から汚れを洗い流します。
2. 中性洗剤、専用ボディシャンプー、または一般的な食器洗い用洗剤を汚れていないぬるま湯（熱湯は厳禁）で薄めて使用し、車両を入念に洗浄します。

⚠ 注意

- 家庭用強力洗剤、強力な化学洗剤、ガソリン、または溶剤は使わないでください。
- 表面に水によるはん点が残るおそれがあるため、直射日光下またはボディが高温のときは洗車しないでください。
- モップなどの毛羽立ちする布または粗い布は避けてください。固まった汚れまたは他の異物を取り除くときは、塗装面を傷つけたり、損傷させたりしないよう注意してください。

3. 大量の水で車両をすすぎます。
4. 湿らせたセーム皮を使って車両を乾かし、塗装面に水によるはん点が残るのを防ぎます。

洗車時は次の点に注意してください。

- 内側開閉部、継ぎ目、ドアの折り返し部、トランク、フードは、特に凍結防止剤の影響を受けやすい部位ですので定期的に清掃してください。
- 下回りとホイールに水を吹き付けて汚れを浮かし、凍結防止剤を洗い流してください。

付着した汚れの取り除きかた

塗装面が損傷したり、しみができたりしないように、タールやオイル、ばい煙、昆虫、樹液はできるだけ早く取り除いてください。日産販売会社または自動車用品店では、専用のクリーナーが販売されています。

ワックスのかけかた

定期的にワックスをかけると塗装面が保護され、外観が美しく維持されます。

汚れや溜まったワックスかすを取り除いてからワックスをかけることをおすすめします。

適切な製品の選定については、日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- 必ず入念に洗車してからワックスをかけてください。
- ワックス容器に記載してある説明に従ってください。
- 塗装面を損傷させるおそれのある研磨剤、切削液、またはクリーナーの入ったワックスは使わないでください。
- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。

機械でワックスがけしたり、磨き作業を過剰に行ったりすると、仕上げ面の光沢が失われるか、渦巻き状の跡が残るおそれがあります。

窓ガラス

ガラスクリーナーを使って、ガラス表面から油膜を取り除きます。炎天下に駐車したあとにガラスに油膜が付くのは異常ではありません。油膜はガラスクリーナーと柔らかい布で容易に取り除くことができます。

下回り

⚠ 注意

下回りを洗うときはケガをしないように注意してください。

冬季に凍結防止剤が使用される地域では、下回りを定期的に清掃してください。定期的に清掃することで、凍結防止剤の蓄積が防止され、下回りとサスペンションの腐食進行を防止できます。

ホイール

- 外観を維持するために、ホイールは洗車時に洗浄してください。
- ホイール交換時または下回りの洗浄時は、ホイール内側を清掃してください。
- ホイール洗浄時は、研磨剤入りクリーナーは使用しないでください。
- ホイールは定期的に点検し、凹みまたは腐食がないか確認します。損傷によって空気圧が低下したり、タイヤビードのシールが不良になったりするおそれがあります。
- 冬季に凍結防止剤が使用される地域では、保護のためにホイールにワックスをかけることをおすすめします。

クローム部品

クローム部品は、外観を維持するために研磨剤の入っていないクリーナーで定期的に清掃してください。

内装のお手入れ

時々、掃除機またはソフトブラシを使用して、内装材、プラスチック部品、シートからほこりを取り除いてください。ビニールとレザーの表面は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。

レザーの外観を保つためには、定期的なお手入れと清掃が必要です。

市販のクリーナーを使用する前に、メーカーの説明書をよくお読みください。一部のクリーナーには、シート素材にしみまたは脱色を起こすおそれのある薬品が含まれています。

メーターなどのレンズを清掃するときは、水で湿らせた布を使用してください。

⚠ 注意

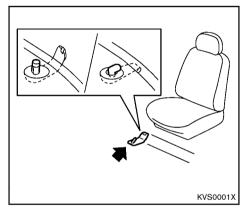
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レザー表面に小石や砂などの小さな粒子が付着すると、表面を傷つけることがありますので、すみやかに取り除いてください。レザーの自然な仕上げを傷めるおそれがあるため、サドルソープ（革みがき石けん）、カーワックス、研磨剤、オイル、洗浄剤、溶剤、洗剤、アンモニア系のクリーナーは使用しないでください。
- メーカーによって推奨されていない限り、絶対にシートのコーティング剤は使用しないでください。
- メーターなどのレンズカバーに、ガラス/プラスチッククリーナーを使用しないでください。レンズカバーが損傷することがあります。
- 車内に水をかけないでください。オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

フロアカーペット★

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。

1. フロアカーペットを床の形状に合わせて敷きます。
2. フロアカーペットの取付穴に固定クリップのピンを通し、確実に固定します。

車種により、固定クリップ·ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。

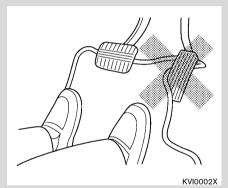
⚠ 警告

この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピー

ドが出たりブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席にフロアカーペットを敷くときは

- 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない。

KVI0002X

- フロアカーペットでペダルを覆わない。
- フロアカーペットを重ねて敷かない。
- フロアカーペットがずれないように固定クリップで確実に固定する。
- 運転席専用のフロアカーペットを使用する。
- フロアカーペットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない。

運転する前に

- フロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。
- エンジン停止時およびセレクトレバーが P のときに各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないで運転に支障がないことを確認する。

窓ガラス

ガラスクリーナーを使って、ガラス表面から油膜を取り除きます。炎天下に駐車したあとにガラスに油膜が付くのは異常ではありません。油膜はガラスクリーナーと柔らかい布で容易に取り除くことができます。

注意

窓ガラスの内側を清掃するときは、先のとがった工具、研磨剤入りのクリーナー、または塩素系の殺菌クリーナーは使用しないでください。アンテナ類やリヤウインドーの熱線などが損傷するおそれがあります。

シートベルト

警告

- シートベルトはぬれたまま格納しないでください。
- シートベルト素材の強度が大幅に低下することがあるため、シートベルトは絶対に漂白剤、染料、または化学溶剤を使用して清掃しないでください。

シートベルトは、中性洗剤の溶液で湿らせたスポンジでふくことで清掃できます。

ベルトは日陰で完全に乾かしてから使用してください。

メーター表面の汚れ取り

柔らかい布を真水に浸し、固くしぼってからふき取ります。

⚠ 注意

- 乾いた布やウエットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

より良い環境のために

環境に配慮した省エネ運転をするために

- タイヤの空気圧を適正にしましょう

  定期的にタイヤ空気圧を点検しましょう。適正値で50km走行すると、50kPa減のときに比べて､約150ccの燃料を節約できます。

  CO_2 1,250g削減（650km／月）

- 不要な荷物は降ろして走行しましょう

  10kgの荷物を降ろして50km走行すると､約15ccの燃料を節約できます。

  CO_2 130g削減（650km／月）

- 計画的なドライブをしましょう

  地図やナビゲーションシステムなどを利用して、計画と準備をしましょう。また、交通情報を確認して渋滞を避ければ燃料と時間を節約できます。

- 駐停車のときはエンジンを止めましょう

  5分間アイドリングをやめると､約65ccの燃料を節約できます。

  CO_2 420g削減（10回／月）

- 急発進、急加速を控えましょう

  急発進を1回やめると約17cc､急加速を1回やめると約11ccの燃料を節約できます。

  CO_2 360g削減（各20回／月）

- 経済速度で走行しましょう

  一般道路では40～50km/ｈ、高速道路では80㎞/ｈが経済的です。100km/h走行を80km/h走行にすると燃費が10～30%向上します。

  ※法定速度を守り、安全運転に心がけてください。

- アクセル操作はなめらかにしましょう

  普通の発進より少しゆるやかに発進しましょう。（最初の5 秒で20km/hが目安）

- 上手なアクセル操作をしましょう

  加速

  加速終了後は、アクセルを少し多めにもどしてみましょう。シフトアップやロックアップが確実にでき、効率がよくなります。

  下り坂と減速

  早めにアクセルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。ガソリンエンジンでは燃料噴射の停止により燃費がよくなります。

- エアコンは控えめに使いましょう

  エアコンを約6分間停止すると、約70ccの燃料を節約できます。

  CO_2 1,340g削減（3時間／月）

  ※数値は、2,000ccクラスの乗用車（オートマチック車）の燃費11.7km/ℓ（10･15モード）を基準に算出しています。

  ※CO_2排出量はガソリン1ℓあたりのCO2排出係数0.64で算出しています。

  参考資料：

  （社）日本自動車工業会「あしたへECO-MOTION」

  （社）日本自動車連盟「ECO MANUAL車に関する環境エコ基礎知識集」

使用済み部品は適切に処理しましょう

使用済みのバッテリーやタイヤなどの部品を廃棄するときは、購入した販売店に処分を依頼してください。

エンジンオイルなどの廃液やエアコンの冷媒（エアコンガス）も必ず適切な処理をしてください。

8 メンテナンスと点検

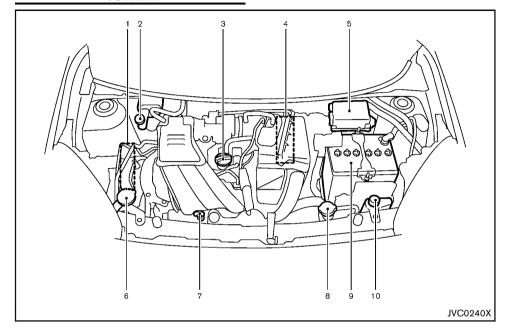
★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

点検･整備について

メンテナンスノートに、点検･整備および保証の内容について記載してあります。

ご使用前に必ずお読みください。

- 点検･整備の実施、記録、保存は法律で義務づけられています。
- 点検や清掃に使用した工具や布などを、エンジンルーム内に置き忘れないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。

エンジンルーム内配置図

1. エンジンドライブベルト
2. ブレーキリザーバータンク
3. エンジンオイルフィラーキャップ
4. エアクリーナー
5. ヒューズボックス
6. ウオッシャータンク
7. エンジンオイルレベルゲージ
8. ラジエーターキャップ
9. バッテリー
10. ラジエーターリザーバータンク

冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、エンジンクーラントの濃度を点検してください。

エンジンクーラントの濃度	凍結温度
30%	−15°C
50%	−35°C

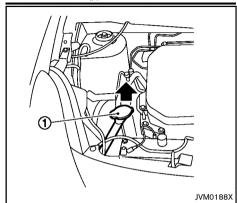
冷却水を補充･交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。“交換油脂類”(P.9-3)

知識：

冷却水の点検･補充･交換は日産販売会社にご相談ください。

ワイパーの交換

メンテナンスノートをお読みください。

ウオッシャー液について

ウオッシャー液が不足しているときは、ウオッシャータンクのキャップを外し、ウオッシャー液を補給してください。ウオッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温に応じた希釈割合（濃度）にして補給します。

キャップ①中央の穴を押さえ、引き抜くと、スポイト式にウオッシャー液の残量が点検できます。

引き抜いたときにウオッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウオッシャータンクはほぼ空の状態です。

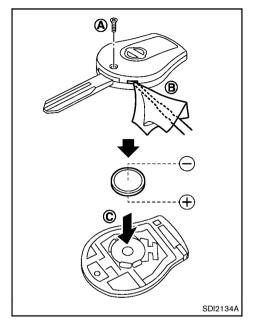
日産純正ウインドーウオッシャー液をおすすめします。“交換油脂類”(P.9-3)

> ⚠ 注意
>
> - 外気温に応じた希釈割合に合わせてください。不適切な場合、ウインドーガラスに噴射した液が凍結し、視界不良となるおそれがあります。
> - ウオッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけないようにしてください。出火するおそれがあります。
> - ウオッシャー液のかわりにせっけん水などを使用しないでください。 塗装がしみになるおそれがあります。

キーの電池交換

リモートコントロールエントリーシステム★

電池交換のしかた

> ⚠ 注意
>
> - お子さまが電池や取り外した部品を誤飲しないよう注意してください。
> - 電池を不適切に処分すると、環境に害がおよぶおそれがあります。 必ず地域のルールに従って処分してください。
> - 電池交換時は、部品にほこりやオイルを付着させないでください。
> - 必ず同一タイプまたは同等タイプの電池と交換してください。

電池は次の方法で交換してください。

1. ネジⒶを取り外します。
2. スリットⒷにマイナスの精密ドライバーを差し込み、ひねって上下に分解させます。

知識：

本体に傷をつけるおそれがあるため、ドライバーに布などを当てて外してください。ドライバーを奥に差し込みすぎると内部の基板を傷つけるおそれがあります。

3. 古い電池を取り外し、新しい電池の＋極を下側にしてはめ込みます©。

   電池の種類： CR1620

   - 故障の原因になるため、内部回路や電子端子には触れないでください。
   - 電池交換後は、リモートコントロールエントリーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。

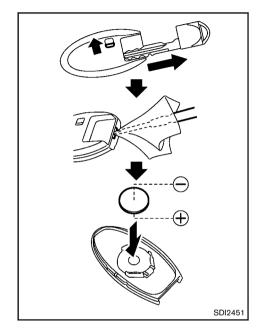
4. ふたを閉め、ネジを確実に締め付けます。
5. スイッチを操作して作動するか点検します。

電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。

インテリジェントキー★

電池交換のしかた

注意

- お子さまが電池や取り外した部品を誤飲しないよう注意してください。
- 電池を不適切に処分すると、環境に害がおよぶおそれがあります。 必ず地域のルールに従って処分してください。
- 電池交換時は、部品にほこりやオイルを付着させないでください。
- 必ず同一タイプまたは同等タイプの電池と交換してください。

インテリジェントキーの電池は次の方法で交換してください。

1. インテリジェントキーからメカニカルキーを取り出します。
2. スリットにマイナスの精密ドライバーを差し込み、ひねって上下に分解させます。

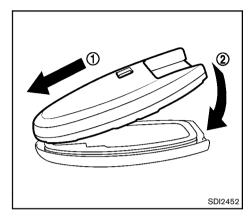
知識：

本体に傷をつけるおそれがあるため、ドライバーに布などを当てて外してください。ドライバーを奥に差し込みすぎると内部の基板を傷つけるおそれがあります。

3. 古い電池を取り外し、新しい電池の＋極を下側にしてはめ込みます。

   電池の種類： CR2025

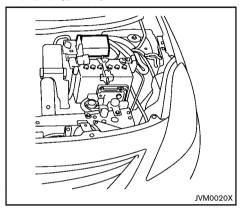
   - 故障の原因になるため、内部回路や電子端子には触れないでください。
   - 電池交換後は、インテリジェントキーの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。

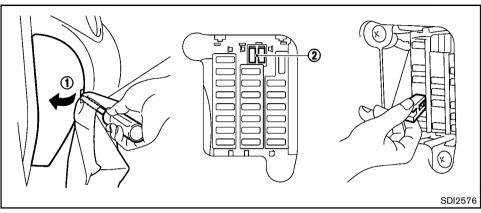
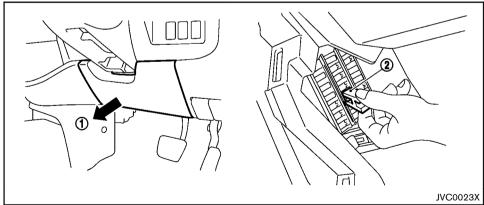
SDI2452

4. ふたとケースの先端部を合わせ①、確実に閉まるまで互いに押し付けます②。
5. スイッチを操作し、正常に作動するか確認します。

電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。

ヒューズ

エンジンルーム

JVM0020X

点検や交換が必要なときは、日産販売会社にご連絡ください。

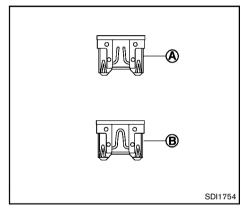
車内

⚠ 警告

- ヒューズボックスのふたに記載されている規定容量以外のヒューズは絶対に使わないでください。電装システムの損傷や火災につながるおそれがあります。
- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。

知識：

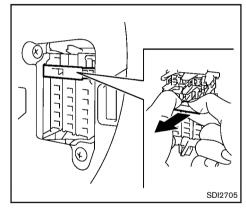
- 傷をつけるおそれがあるため、ヒューズボックスのふたを外すときは、ドライバーに布などを当てて外してください。
- ヒューズ抜きは、ヒューズに対して垂直に差し込み、引き抜いてください。

電装品が作動しない場合は、ヒューズが切れていないか点検してください。

1. キースイッチ（電源ポジション）をOFFまたはLOCKにします。
2. ライトスイッチをOFFにします。
3. ヒューズボックスのふた①を適切な工具で取り外します。
4. 交換が必要なヒューズを探します。
5. ヒューズ抜き②でヒューズを取り外します。

6. イラストのⒶのようにヒューズが切れているときは、新品Ⓑと交換してください。

新品ヒューズも切れたときは、日産販売会社で電装システムの点検を受け、必要に応じて修理してください。

知識：

次のイラストのような部品が付いている場合は、その部品の中にもヒューズがあります。中のヒューズまたは部品周辺のヒューズを点検·交換するときは、部品の両端を持って矢印の方向に引き抜いてください。

電球（バルブ）を交換するときは

バルブの交換作業が不慣れな方や部品の破損などが心配な方は、日産販売会社にご相談ください。

注意

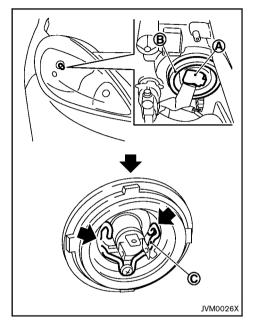
- バルブの交換は、エンジンルームやバルブが冷えた状態で行ってください。やけどをするおそれがあります。
- バルブ交換をするときは、軍手などを着用して作業してください。
- ステーなどの端で指や腕をケガしないように十分注意してください。
- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- バルブに油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。バルブの寿命が短くなったりバルブが破損するおそれがあります。

ヘッドランプ

ハロゲンヘッドランプ電球（バルブ）の交換

ヘッドランプは、ハロゲンバルブを使用しています。

注意

- ハロゲンバルブ内には高圧ハロゲンガスが封入されています。 ガラス部分に傷がつくか、バルブを落下させると、破損するおそれがあります。

1. バッテリーのマイナス側ケーブルを外します。
2. バルブ後ろ側からコネクターⒶを外します。
3. バックカバーⒷを外します。
4. リテーニングスプリングⒸのロックを外します。

5. ヘッドランプバルブを取り外します。バルブは取り外すときに揺すったり、回転させたりしないでください。
6. 取り外したときと逆の手順で新品バルブを取り付けます。

注意

- バルブを取り扱うときは、ガラス部分に触れないでください。 ガラス部分に触れると、バルブの寿命が短くなったり、ヘッドランプの性能が低下したりするおそれがあります。
- 必ず指定された容量のバルブに交換してください。

  上向き（ハイビーム）バルブ：
  60W（H4）
  下向き（ロービーム）バルブ：
  55W（H4）

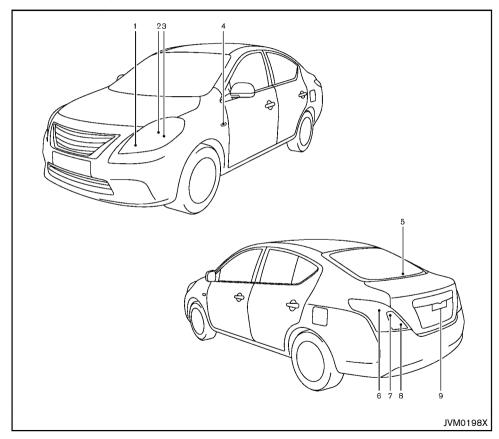
- バルブを長時間、ヘッドランプ本体から外したままにしないでください。 ほこり、水分などがヘッドランプ本体に入り、バルブの性能が低下することがあります。
- リテーニングスプリングは必ず固定されたことを確認してください。
- バックカバーは確実にはめ込まれていることを確認してください。ヘッドランプ内に水が入るおそれがあります。

バルブだけを交換したあとは、光軸調整は不要です。光軸調整が必要なときは、日産販売会社にご連絡ください。

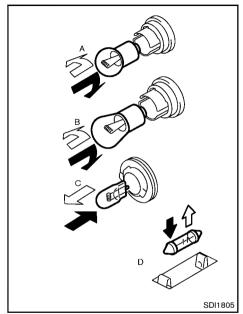
雨天または洗車時には、レンズ内外の温度差が原因で外装ランプのレンズ内側が一時的に結露することがあります。その状態は異常ではありません。レンズ内側に大量の水滴が溜まったときは、日産販売会社にご連絡ください。

電球（バルブ）の容量

ランプ	消費電力（ワット）	バルブタイプ
方向指示器（前面）	21（アンバー）	PY21W
車幅灯	5	W5W
方向指示器（側面）	5（アンバー）	WY5W
リヤコンビランプ		
方向指示器（後面）	21（アンバー）	PY21W
制動灯／尾灯	21/5	P21/5W
後退灯	21	P21W
ハイマウントストップランプ	16	W16W
番号灯	5	W5W

外装ランプの位置

1. 方向指示器（前面）
2. ヘッドランプ
3. 車幅灯
4. 方向指示器（側面）
5. ハイマウントストップランプ
6. 制動灯／尾灯
7. 方向指示器（後面）
8. 後退灯
9. 番号灯

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

交換方法

⇨: 取り外し
➡: 取り付け

他のすべてのランプは、A、B、C、Dのいずれかのタイプです。電球（バルブ）交換時は、最初にレンズ/カバーを取り外してください。

> **⚠ 注意**
>
> バルブを交換するときは、無理に力を加えないでください。バルブなどが破損するおそれがあります。

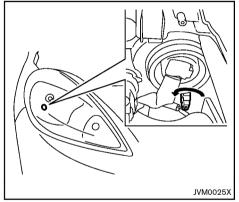
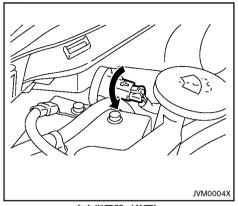
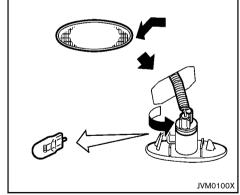
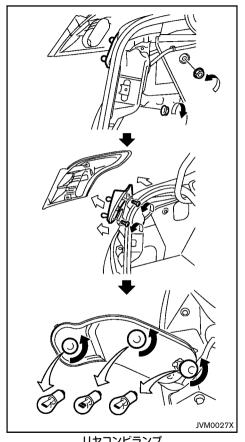
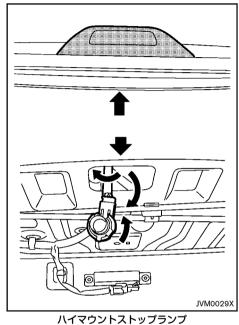
車幅灯

方向指示器（前面）

方向指示器（側面）

リヤコンビランプ

JVM0102X

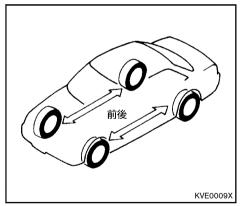
番号灯

ハイマウントストップランプ

タイヤの交換

⚠ 注意

タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。安全を確保するため、5〜7年を目安に必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。

タイヤの位置交換 （ローテーション）

KVE0009X

左右それぞれで前後タイヤの交換を行ってください。

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を伸ばすために、約5,000km走行ごとに定期的な位置交換をおすすめします。

“タイヤ交換のしかた”(P.6-5)

⚠ 注意

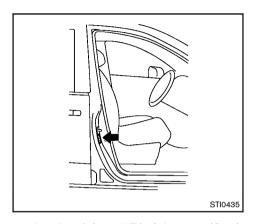
タイヤ間に著しい摩耗差があったり、空気圧が規定値より著しく異なると、車の性能が十分発揮できなくなり、安全性を損ねたり故障の原因になります。

知識：

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。
- 車載のジャッキを使って、タイヤの交換を行うときは、スペアタイヤを使って1輪ずつ交換してください。

タイヤ空気圧の点検

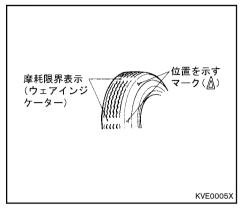
- タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに点検·調整してください。
  タイヤ接地部のたわみが大きいときは、空気圧が不足しています。すみやかに調整するか、日産販売会社にご相談ください。偏平タイヤの空気圧はたわみ状態ではわかりにくいので、タイヤエアゲージを使用し点検してください。
- タイヤ空気圧は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。
- タイヤ空気圧は走行に伴い約1割程度上がることがあります。

STI0435

- タイヤの空気圧は運転席ドア開口部に表示してあります。

⚠ 注意

タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ摩耗の点検

KVE0005X

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が表れたら、タイヤを交換してください。

タイヤ·ロードホイールを交換するとき

- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。

  “タイヤ交換のしかた”(P.6-5)

- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。

⚠ 注意

- 指定サイズ以外のタイヤ·ロードホイールは絶対に取り付けないでください。不適合なタイヤ·ロードホイールを取り付けると、安全性が損われ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- VDC付車は、径が異なるタイヤを装着すると、VDCのシステムが正常に作動しないことがあります。

  次のようなタイヤの装着はしないでください。

  — 摩耗差の大きいタイヤの装着

  — 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着

  — サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

- タイヤの交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。

- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。

ロードホイールのサイズについては、“タイヤ·ホイール”(P.9-5)をお読みください。

知識：

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

スペアタイヤについて

スペアタイヤは応急用タイヤを搭載してあります。

タイヤがパンクしたときに、応急用として一時的に使うタイヤです。

注意

- スペアタイヤの空気圧はときどき点検してください。また、年に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。長期間放置すると空気圧が減り、万一のとき使用できないことがあります。

  スペアタイヤの空気圧は420kPa（4.2kg/cm^2）です。
- タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。安全を確保するため、5~7年を目安に必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社にご相談ください。
- スペアタイヤを取り付けたときは、タイヤ接地部のたわみを確認してください。たわみが大きいときは空気圧が不足しています。すみやかに空気圧を調整してください。

  空気圧が不足したまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 間違った使いかたをすると、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

  — スペアタイヤおよびホイールはこの車専用です。他車のスペアタイヤを使ったり、他車に使わないでください。

  — スペアタイヤに交換したときは、100km/h以下で走行してください。

  — スペアタイヤには、タイヤチェーンは取り付けられません。
  雪道、凍結路で前輪がパンクしたときは、スペアタイヤを前輪に使わず、後輪に付け、外した後輪を前輪に取り付けてください。

  — スペアタイヤに交換したときは、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- スペアタイヤに交換すると、車高が少し低くなります。地面の突起物などを乗り越えるときは、車体が接触しないように注意してください。

9 サービスデータ

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

点検値

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>点検値</th></tr>
<tr><td colspan="2">ウオーターポンプ･オルタネーター･エアコンコンプレッサーベルト</td><td>調整不要※</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキペダル</td><td>遊び</td><td>2〜9mm</td></tr>
<tr><td>床板とのすき間
約490N（約50kg）で踏んだとき</td><td>80mm以上</td></tr>
<tr><td>パーキングブレーキ</td><td>引きしろ
約196N（約20kg）で引いたとき</td><td>9〜10ノッチ</td></tr>
</table>

※ベルトオートテンショナー（自動張力調整機構）を採用しており、ベルト張力調整は不要です。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

下記は、おおよその規定量です。実際の量は、わずかに異なることがあります。

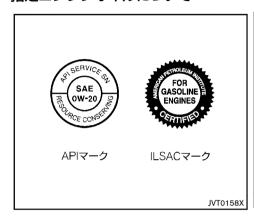
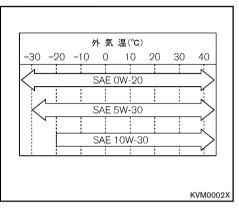
		規定量（ℓ）	指定油脂
燃料		41	無鉛レギュラーガソリン
エンジンオイル (*1)	オイルフィルター交換時	3.0	日産純正SNストロングセーブ·X (*2) （API:SN SAE:0W-20） 日産純正SNエクストラセーブ·X （API:SN SAE:0W-20）
	オイルのみ交換	2.8	
冷却水 （0.7Lのリザーバータンク容量を含む）		5.8	日産純正スーパーロングライフクーラント （エンジンクーラント）
CVTフルード		—	日産純正CVTフルードNS-3 (*3)
ブレーキフルード		—	日産純正ブレーキフルード No.2500 (DOT3)
ウインドーウオッシャー液		2.5	日産純正ウインドウオッシャー液

*1:　詳細については、“指定エンジンオイルについて”(P.9-4) をお読みください。

*2：　工場出荷時に充てんされるオイルです。

*3：　必ず日産純正CVTフルードNS-3を使用してください。日産純正CVTフルードNS-3以外を使用するとCVTが破損するおそれがあります。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

指定エンジンオイルについて

API 規格またはILSAC 規格に適合した指定油脂をお使いください。 なお、規格適合油にはイラストのマークが表示されています。

日産純正銘柄のご使用をおすすめします。

指定油脂の範囲で、外気温に適した粘度（SAE 規格）のものをご使用ください。（表を参照）

交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。 詳しくは日産販売会社にご相談ください。

タイヤ・ホイール

	標準	スペア
タイヤサイズ	175/70 R14	T125/70D 15

		サイズ	インセット(mm)
ロードホイール	スチール製	14× 5-1/2J	40
スペア	スチール製	15× 4T	-

タイヤの空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

10 さくいん

アルファベット

カナ

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ネ

ハ

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

★：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。